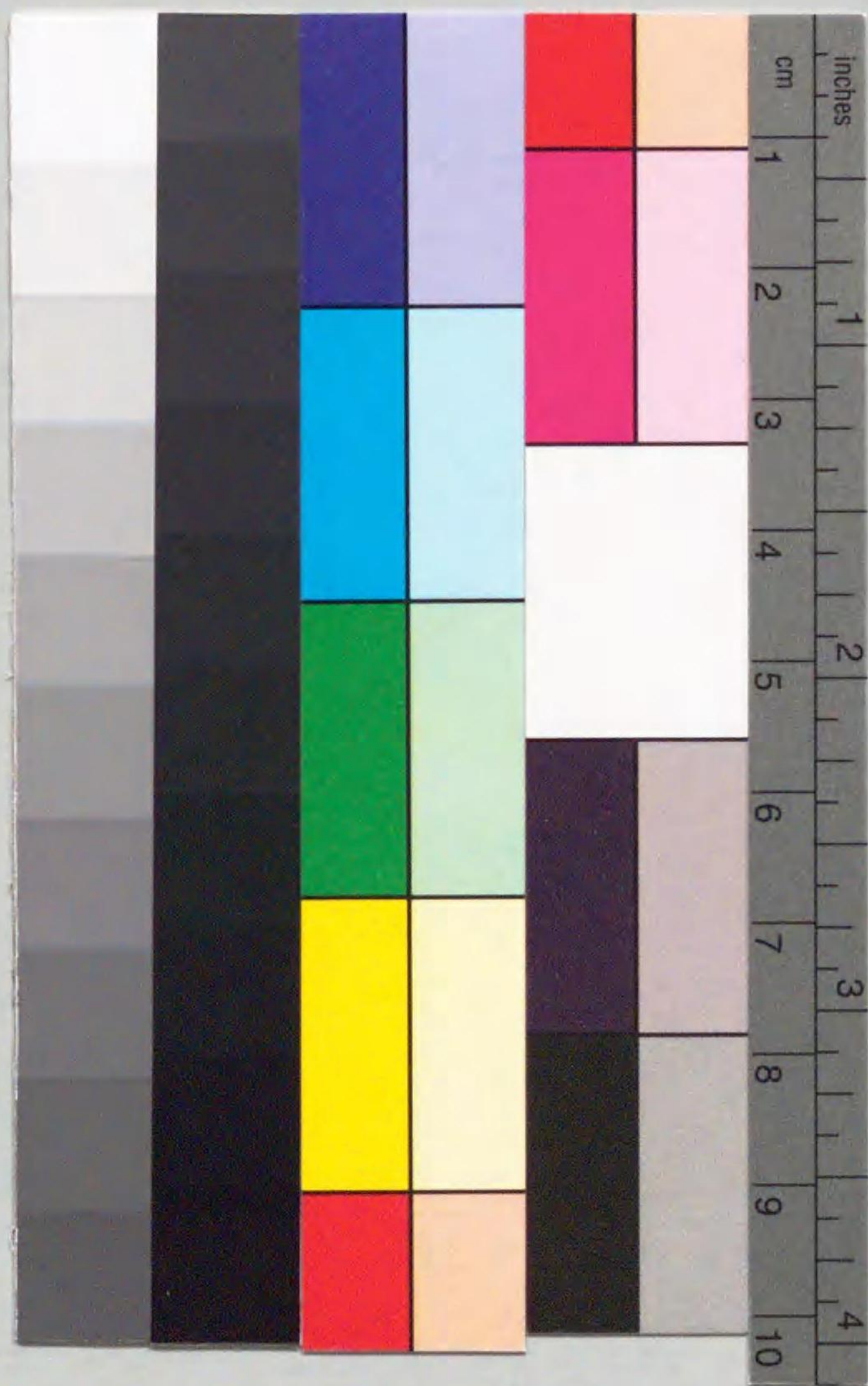


造船規程(第二)

Y994-J915



1200700669950



Y994

J915



I 種

W



1200700669950

造船規程 (大正五年十一月五日通達) (大正六年一月一日ヨリ施行) (改正) (大正十一年一月一日ヨリ施行) (大正十一年二月一日ヨリ施行)

造船規程 目次

第一編 船體部

第一章 總則

第二章 材料及材料試驗

第三章 龍骨、船首材及船尾骨材

第四章 舵

第五章 肋骨

第六章 肋板

第七章 特設肋骨

第八章 內龍骨

第九章 船側縱通材

第十章 二重底及水艙

目次

一頁
六
一四
一七
一九
二二
二四
二六
三〇
三一

第一節 總則……………三二

第二節 肋骨每ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底……………三九

第三章 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底……………四〇

第十一章 船首船底ノ補強構造……………四一

第十二章 支水隔壁、支水甲板及車軸隧道……………四三

第十三章 梁……………五三

第十四章 特設艙梁……………六〇

第十五章 梁柱……………六一

第十六章 特設梁柱及特設梁下縱通材……………六五

第十七章 外板及舷牆……………六九

第十八章 覆板及縱橫緣……………七二

第十九章 鉸釘及固著方……………七三

第二十章 木甲板及鋼甲板……………七九

第二十一章 梁上側板及梁上帶板……………八三

第二十二章 船首肘板、船尾肘板及船首尾防撓構造……………八五

第二十三章 機關室……………八六

第二十四章 機關室口……………八七

第二十五章 艙口及其ノ他ノ甲板口……………八九

第二十六章 通風器……………九八

第二十七章 排水裝置及諸管……………一〇〇

第二十八章 內張板……………一〇六

第二十九章 操舵機具……………一〇七

第三十章 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船……………一〇九

第三十一章 船首樓、船尾樓、船橋樓及甲板室……………一一〇

第三十二章 低船首樓及低船尾樓……………一一四

第三十三章 載貨門、載炭門及舷窗……………一一七

第三十四章 檣、索具及揚貨、揚錨、繫船等ノ裝置並其ノ他ノ艙裝品……………一二〇

第三十五章 燃料油ヲ載積スル船舶……………一二〇

第三十六章 油艙船.....一二五

第二編 機關部

第一章 總則.....一二七

第二章 材料試驗.....一二八

第三章 汽機.....一三八

第四章 汽罐.....一五一

第五章 唧筒、瓣、嘴子及管.....一七五

第六章 燃油裝置.....一八四

第七章 發動機.....一八六

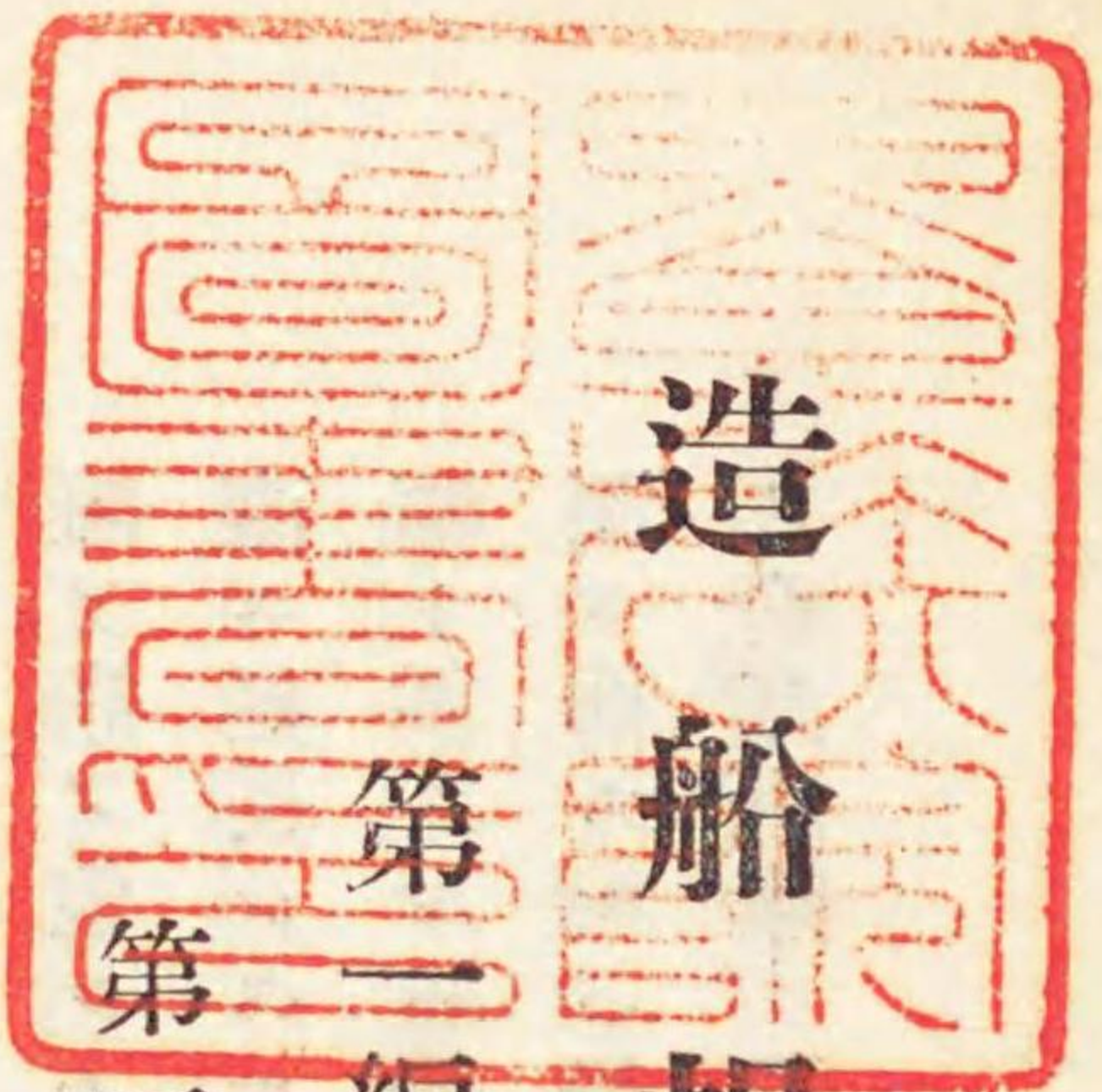
別表(別冊トス)

參照

明治四十三年^六月^六遞信省令第六十四號造船規程中拔萃

第十三章 支水隔壁.....一九九

第一編 船體部



造船規程

第一編 船體部

第一章 總則

第一條 本令ニ定ムル船體ノ構造ニ用ウル材料ノ寸法ハ特ニ明文アル場合ヲ除クノ外
鋼ヲ以テ造レルモノヲ示ス

第二條 削除

第三條 削除

第四條 上甲板ト稱スルハ最上層ノ甲板ヲ、第二甲板ト稱スルハ第二層ノ甲板ヲ、第
三甲板ト稱スルハ第三層ノ甲板ヲ謂ヒ以下之ニ準ス
船樓甲板ト稱スルハ全通船樓船ノ上甲板ヲ包含ス

第五條 一層ノ甲板ヲ有スル汽船ヲ分チテ左ノ二種トス

一 重構船

二 輕構船

二層以上ノ甲板ヲ有スル汽船ヲ分チテ左ノ四種トス

一 重構船

二 輕構船

三 全通船樓船

四 遮浪甲板船上甲板ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スルモノ

第六條 長船橋樓ト稱スルハ第二十號表ニ掲クル長ヲ超ユル船橋樓ヲ謂ヒ、短船橋樓ト稱スルハ同表ニ掲クル長ヲ超エサル船橋樓ヲ謂フ

第七條 船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ前面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ
幅ト稱スルハ船體最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ水平距離ヲ謂フ
深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於ケル龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ但シ長船首樓ト之ニ連續セル低船尾樓トヲ有スル船舶ニ在リテハ

長船首樓ノ部分ニ於テ上甲板ト平行シテ低船尾樓甲板ノ延長面ヲ假定シ其ノ船側ニ於ケル下面迄ノ垂直距離トス

艙内ノ深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於テ普通肋板ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋板ノ上面ヨリ、二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル二重底ノ上面ヨリ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第八條 第一數ト稱スルハ重構船ニ在リテハ深ト幅トノ和ヲ謂ヒ其ノ他ノ船舶ニ在リテハ深ト幅トノ和ヨリ左ノ各號中最小ノモノヲ減シタルモノヲ謂フ

一 八呎

二 甲板二層以上ヲ有スル場合ニ於ケル上甲板ト第二甲板トノ間ノ高

三 深十六呎未滿ナル場合ニ於ケル深ノ二分ノ一

第二數ト稱スルハ第一數ニ船ノ長ヲ乘シタル數ヲ謂フ
前二項ノ長、幅、深等ハ呎ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ

第九條 長カ深ノ十三・五倍ヲ超ユル船舶ニ在リテハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一

間以上ニ船橋樓ヲ設クルカ又ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十條 本令ニ定ムル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示スモノトス

第十一條 材料ノ寸法ハ別表ニ依ルヘシ

鉸釘、龍骨、船首材、船尾骨材、舵、梁柱、填板、甲板、肋板、二重底用材、石炭庫隔壁、支水隔壁、仕切隔壁、車軸隧道、機關室圍壁、甲板口緣材、舷牆及甲板室ヲ除クノ外船體ノ部分ニハ特ニ検査官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ鐵ヲ使用スルコトヲ得ス

甲板、肋板、艙内ニ於ケル二重底用材、石炭庫隔壁、支水隔壁、車軸隧道、機關室圍壁、甲板口緣材及舷牆ニ鐵ヲ使用スルトキハ鋼ヲ使用スルトキヨリ其ノ厚ヲ十分ノ一増スヘシ

第十二條 肋板ノ寸法及肋骨ノ心距ハ第一數ニ依リ、肋骨及特設肋骨ノ寸法ハ第一數及艙内ノ深ニ依リ、龍骨、船首材、船尾骨材、船側外板、船底外板、二重底用材、船側縱通材、內龍骨、第二層梁以下ノ梁上側板、鋼甲板等ノ寸法ハ第二數ニ依リ、

上甲板及長船橋樓ノ側外板、梁上側板、鋼甲板等ノ寸法ハ第二數及長深ノ割合ニ依リ之ヲ定ムヘシ

輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ其ノ吃水ニ應シ検査官吏ノ見込ニ依リ各部材料ノ寸法ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

第十二條ノ二 重構汽船及輕構汽船ニハ成ルヘク船首樓又ハ低船首樓ヲ設クルカ若ハ船首ノ部分ニ於ケル舷弧ノ高ヲ特ニ大ナラシムヘシ

第十三條 本令ニ定ムル試験ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ
試験機ハ検査官吏ノ檢定ヲ受ケタルモノヲ用ウヘシ

第十四條 本令中試験ニ關スル規定ハ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書アル場合ニ限り之ヲ適用セサルコトヲ得

第十五條 船體各部ノ工事ハ良好且有效ナルコトヲ要ス

第十六條 本令ニ該當セサル船體ノ構造及寸法ハ検査官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限り之ヲ合格ト爲スヘシ

第十七條 船ノ首尾及局部ニ於ケル構造及寸法ハ本令ニ該當セサルモノト雖検査官吏

ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第十八條 遞信大臣ハ航路ノ難易、載貨ノ種類又ハ使用ノ方法ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトアルヘシ特殊ノ船形ヲ有スル船舶ニ付亦同シ

第十九條 削除

第二十條 帆船ノ構造及寸法ニ付テハ汽船ノ重構船及輕構船ニ關スル規定ヲ準用ス但シ肋骨、梁、肘板、檣、帆架、索具等ノ構造及寸法、局部補強ノ方法並支水隔壁ノ數ニ付テハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十一條 第三級船及第四級船ノ構造及寸法ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル前項ノ船舶ニ付テハ本章第五條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二章 材料及材料試験

第二十二條 壓延鋼材ハ平爐ニ依リ製造シ裂痕其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第二十三條 鉸釘用鋼圓材ヲ除キ其ノ他ノ壓延鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 鋼材ノ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ幅二吋半ヲ、厚〇・三七五吋以

上〇・八七五吋以下ナルトキハ幅二吋ヲ、厚〇・八七五吋ヲ超ユルトキハ幅一吋半ヲ超エサル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ八吋ノ標點間ノ長ニ於テ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ百分ノ十六以上、厚〇・三七五吋以上ナルトキハ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス但シ鋼板ヲ除キ其ノ他ノ鋼材ハ抗張力ノ上限ハ三十三噸ト爲シ伸長ノ割合大ナル鋼材及常溫ニテ曲線工事ヲ施スヘキ鋼板ハ抗張力ノ下限ヲ二十六噸ト爲スコトヲ得

二 屈曲試験 燒入屈曲試験ニ於テハ血紅色ニ熱シタル試験材ヲ華氏八十度以下ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂痕ヲ生セサルコトヲ要ス

常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘前項ノ試験ヲ執行シ裂痕ヲ生セサルコトヲ要ス前項第二號ノ試験材ハ幅一吋半以上ニシテ試験スヘキ鋼材ヨリ剪斷シタル儘ト爲スヘシ但シ厚〇・五吋以上ナルトキハ剪斷面ヲ平削スルコトヲ得

第二十四條 梁柱、舵板及厚〇・二吋ヲ超エサル鋼材ニハ抗張試験ヲ省略スルコトヲ得

甲板室、船樓甲板上又ハ蔽圍シタル場所ニ在ル縁材ヲ除キタル機關室圍壁及圍壁艙口、石炭庫圍壁、錨鎖庫圍壁、仕切隔壁、舷牆、彎曲部龍骨、汽罐臺、補助機臺其ノ他之ニ相當スル部分ニ用ウル鋼材ニハ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得
前二項ニ掲クルモノノ外重要ナラサル部分ニ使用スル鋼材ニハ特ニ検査官吏ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條 鉸釘用鋼圓材ハ徑ノ八倍又ハ四倍ニ等シキ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付抗張試験ヲ執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長カ徑ノ八倍ナルトキハ百分ノ二十五以上、徑ノ四倍ナルトキハ百分ノ三十以上ナルコトヲ要ス

第二十六條 前條ノ抗張試験ヲ執行セサル鋼圓材ヲ以テ製造シタル鉸釘ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 屈曲試験 常溫ノ儘其ノ桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂痕ヲ生セサルコトヲ要ス

二 鍛鍊試験 鉸釘ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二・五倍迄ニ扁平ニ打壓シ裂痕ヲ生セサ

ルコトヲ要ス

第二十七條 鑄鋼材ハ適當ナル燒鈍爐ニ於テ燒鈍スルコトヲ要ス燒鈍後施工ノ爲再ヒ之ヲ熱シタル場合ニ於テハ検査官吏ニ於テ必要ト認トルトキハ更ニ燒鈍スルコトヲ要ス

重要ナル鍛鋼材ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルモノニ付テハ適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス

燒鈍スヘキ材料ノ試験材ハ燒鈍後之ヲ切取ルコトヲ要ス

第二十八條 鑄鋼製ノ船首材、船尾骨材、舵、舵柄、螺旋軸支肘等ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一

吋ノ圓形ト爲シタル試験材ヲ作り常溫ノ儘二吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百二十度以上屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

三 墜落試験 一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ地面ニ穿テ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又船首材、舵、舵柄、螺旋軸支肘、二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ形狀及重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ之ヲ墜落スヘシ但シ長大又ハ複雑ナル形狀ニシテ之ヲ墜落スルトキハ變形スル虞アルモノニ付テハ鑄物ノ上部及底部ヨリ各二個ノ試験材ヲ採リテ抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ墜落試験ヲ省略スルコトヲ得

四 鏈打試験 鑄鋼材ハ墜落試験ヲ執行シタル後之ヲ吊シテ重量七封度以上ノ鏈ヲ以テ敲キ其ノ生來ノ裂疵及墜落試験ニ起因スル裂疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキコトヲ要ス

鏈打試験ハ墜落試験ヲ省略シタルモノニ付テモ亦之ヲ執行スヘシ

前項ニ掲ケサル鑄鋼材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料試験ヲ

執行スヘシ

第二十九條 可鍛鑄鐵材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料試験ヲ執行スヘシ

第三十條 鍛鋼材ハ幹部ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ五分ノ一以内ニ、其ノ他ノ部分ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊シタルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 鍛鋼材ニハ幹部ヨリ小ナラサル截面ヲ有スル部分ヨリ縦ニ切取リタル試験材ニ付左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十五噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上抗張力三十五噸ノモノハ百分ノ二十二以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス但シ鍛接ヲ爲スヘキ鍛鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十二噸以上二十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十二噸ノモノハ百分

ノ三十五以上、抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一吋ノ圓形ト爲シタル試験材ヲ作り常溫ノ儘二分ノ一吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス但シ一平方吋ノ抗張力三十二噸ヲ超ユルモノニ在リテハ屈曲ノ内徑ヲ四分ノ三吋ト爲スコトヲ得

小形鍛鋼材ニシテ鍛造完了ノ際一樣ニ加熱シタルモノ又ハ適當ナル燒鈍法ヲ施シタルモノニ付テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條 試験材ノ數ハ左表ニ依ルヘシ

種類	抗張試験材ノ數	屈曲試験材ノ數	鍛鍊試験材ノ數
壓延鋼材(鉸釘用圓材ヲ除ク)	同一鑄解ノ板若ハ形材毎ニ一箇(板若ハ形材カ二十五噸ヲ超ユルトキハ一箇ヲ加ヘ又板若ハ形材ノ厚カ〇・二五吋ヲ異ニスルモノ毎ニ尙一箇ヲ加フ)又ハ同一種類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數	一箇ノ鋼片ヨリ壓延シタル板若ハ形材毎ニ一箇又ハ同一種類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數	—
鉸釘用圓材	同一鑄解ノ材料十噸若ハ十噸未滿毎ニ一箇又ハ同一種類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數	—	—

鉸釘	鑄鋼材	鍛鋼材
—	鑄鋼材毎ニ一箇、二鑄解以上ノ鑄解ヨリ製造シタル鑄鋼材ニ付テハ四箇	鍛鋼材毎ニ一箇
同一種類ノ鉸釘ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數	同上	同上

同一鑄解又ハ同一種類ノ板若ハ形材ヨリ採リタル屈曲試験材ニハ約半數宛燒入屈曲試験ト常溫屈曲試験トヲ執行スヘシ但シ常溫ニテ曲線工事ヲ施スヘキ鋼板ノ試験材ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ常溫屈曲試験ノミヲ執行スヘシ

第三十三條 本章第二十三條及第二十五條ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ同一鋼材ヨリ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格シタル場合ニ於テハ之ヲ合格トス

前項ノ試験ニ合格セサル場合ニ於テハ試験材ヲ採リタル鋼材ヲ除キ其ノ他ノ鋼材毎ニ本章第二十三條及第二十五條ノ試験ヲ執行シ合格シタルモノハ之ヲ合格トス

本章第二十六條ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

本章第二十八條及第三十一條ノ試験材カ抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セサルトキハ検査官吏ニ於テ該試験ノ結果ヲ考量シ試験材カ適當ニ材質ヲ表明セスト認メタル場合ニ限り合格セサルモノニ對シ更ニ試験材ヲ作り其ノ適否ヲ試験シ該試験材カ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第三十四條 検査官吏ハ本章ノ規定ニ合格セサル材料又ハ本章ノ試験ヲ受ケサル材料ト雖使用ノ方法若ハ部局ヲ限リ又ハ條件ヲ附シ其ノ使用ヲ承認スルコトヲ得
第三級船及第四級船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試験ヲ省略スルコトヲ得

第三章 龍骨、船首材及船尾骨材

第三十五條 方形龍骨、船首材、船尾材及推進器柱ノ寸法ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ各材ノ寸法ヲ該表ニ掲クル二段下級ノ寸法迄減スルコトヲ得
前項ニ掲クル諸材ノ嵌接ノ長ハ其ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ

長大ナル船尾骨材ヲ二材以上ニテ構造スルトキハ嵌接ノ幅ハ其ノ幅ノ一・五倍、嵌接ノ長ハ其ノ幅ノ三倍ト爲シ四列釘固著ト爲スヘシ
高速力ノ汽船ニ在リテハ適當ニ船尾骨材ノ寸法ヲ増スヘシ

第三十六條 龍骨翼板ノ厚ヲ第十四號表ニ掲クルモノヨリ増ストキハ其ノ割合ニ應シ方形龍骨ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第三十七條 側板龍骨ノ合厚ハ第一號表ニ掲クル方形龍骨ノ厚ニ等シクスヘシ

第三十八條 平板龍骨ノ寸法ハ第十四號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ平板龍骨ノ厚ハ同表ニ掲クルモノヨリ〇・〇二吋減スルコトヲ得

平板龍骨ニハ斷切内龍骨板又ハ中心線貫通板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第六號表ニ掲クル平板龍骨用山形材ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ二重底内ニ於ケル平板龍骨ニハ中心線桁板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第八號甲表ニ掲クル平板龍骨用山形材ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第三十九條 船首材ノ幅ハ下端ニ於テハ方形龍骨ノ深ニ等シクシ又滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル幅ハ第一號表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト

爲スコトヲ得

第四十條 單螺旋汽船ノ推進器柱ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第一號表ニ掲クル厚ノ五分ノ三ヨリ少カラス又船尾骨材踵部ノ截面ハ推進器柱ノ截面ヨリ百分ノ十五以上増シタルモノト爲シ其ノ方形龍骨ト嵌接スヘキ部分ニ於テハ漸次該龍骨ノ寸法迄減少スヘシ

螺旋孔ヲ有スル螺旋汽船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第一號表ニ掲クル船首材ノ截面ト同一ト爲スコトヲ得

外車汽船又ハ螺旋孔ヲ有セサル雙螺旋汽船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第一號表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第四十一條 船尾骨材ト方形龍骨トノ嵌接ノ後端ヨリ船尾骨材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船又ハ螺旋孔ヲ有セサル雙螺旋汽船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ一・五倍、其ノ他ノ螺旋汽船ニ在リテハ二・五倍ヨリ少カルヘカラス

第四十二條 第二數一萬六千ヲ超ユル汽船ニ在リテハ推進器柱ヲ上部ニ延長シテ肋板及梁上ニ張りタル鋼板ニ固著スヘシ

第四十三條 船尾材ハ適當ニ上部ニ延長シ其ノ兩側ニ適當ノ山形材ヲ附シテ船尾肋板ニ固著スヘシ

第四十四條 船尾材ニハ舵ノ壺金ノ位置ニ應シ壺金ヲ設ケ其ノ深ハ舵頭ノ徑ノ十分ノ七、厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ト爲スヘシ

第四章 舵

第四十五條 舵頭ノ徑ハ航海速度及舵ノ面積ニ舵針ノ中心線ヨリ舵面ノ重心ニ至ル距離ヲ乘シタル數ニ依リ第二號甲表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第四十六條 舵ノ各部ノ寸法ハ舵頭ノ徑ニ應シ第二號丙表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

舵心材ハ最上端ノ壺金ノ位置ニ於テ舵頭ノ截面ヨリ小ナラサル截面ヲ有シ以下漸次第二號丙表ニ掲クル下端ノ寸法迄減スルコトヲ得

第四十七條 舵頭ト舵心材トヲ銜接又ハ嵌接スルトキハ接合部及螺釘ノ寸法ハ舵頭ノ徑ニ應シ第二號乙表ニ依リ之ヲ定ムヘシ又螺釘孔ノ中心ト銜縁トノ距離ハ螺釘ノ徑ノ一倍六分ノ一ヨリ少カルヘカラス

舵頭ト舵心材トノ嵌接ノ端末ニ於ケル厚ハ舵頭ノ徑ノ百分ノ十三ト爲スヘシ

第四十八條 舵ノ壺金ノ心距ハ第二號丙表ニ依リ最上端ノ壺金ハ成ルヘク之ヲ舵頭管ニ接近セシムヘシ

舵ノ壺金ノ深ハ舵頭ノ徑ノ十分ノ七、厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ト爲スヘシ

第四十九條 舵板ノ兩面ニハ交互ニ第二號丙表ニ掲クル補強骨ヲ同表ニ掲クル心距ニ設クヘシ

舵心材ト共ニ鍛造又ハ鑄造スル補強骨ノ咽喉部ニ於ケル半徑小ナルモノニ在リテハ其ノ咽喉部ニ於ケル半徑ハ補強骨ノ心距ノ五分ノ一以上ト爲シ又咽喉部ニ於ケル半徑大ナルモノニ在リテハ其ノ咽喉部ニ於ケル半徑ハ補強骨ノ心距ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

補強骨ヲ舵心材ニ栓止ト爲ストキハ該部ニ於ケル舵心材ノ徑ヲ十分ノ一増シ豎溝ヲ作り之ニ栓ヲ打込ムヘシ

第五十條 幅四吋半ヲ超ユル補強骨ニ舵板ヲ固著スル鉸釘ハ之ヲ千鳥形ニ配置スヘシ

第五章 肋骨

第五十一條 肋骨ノ寸法ハ第三號甲表及乙表ニ依ルヘシ

第五十二條 肋骨ノ心距ハ第三號甲表及乙表ニ依ルヘシ但シ船主隔壁ト船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所トノ間ニ於テハ最下層梁ニ達スル二重正肋材ヲ用ウル場合ヲ除クノ外二十七吋ヲ、船首尾艙ニ於テハ二十四吋ヲ超ユヘカラス

船尾斜肋骨ノ心距ハ船尾稜縁ニ於テ之ヲ測ルヘシ

肋骨ノ心距ヲ本令ニ規定スルモノヨリ増ストキハ必要ニ應シ肋骨、肋板、二重底用材、梁、梁柱、外板及甲板ノ寸法及固著釘ヲ適當ニ増スヘシ

第五十三條 正肋材ハ龍骨ヨリ船體ノ上端迄達セシムヘシ

第五十四條 正肋材及副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨、球山形肋骨又ハ副肋材ヲ附セサル溝形肋骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ特設艙梁ト其ノ上層梁トノ間ノ高ハ艙内ノ深ヨリ大ナルヘカラス但該梁間ノ高九呎ヲ超ユルトキハ艙梁ト其ノ上層梁トノ中間ニ船側縦通材ト同一ノ寸法ヲ有スル縦通材ヲ設クヘシ

第五十五條 正肋材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ衝接スルトキハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ

四分ノ三間ハ其ノ背面ニ之ト同寸法ニシテ長ハ正肋材ノ山形材ノ兩邊ノ和ノ五倍ヨリ少カラス三呎ヨリ多カラサル覆山形材ヲ附スヘシ但シ平板龍骨ニ貫通板内龍骨ヲ用ウルトキ及船底ノ形狀銳尖ニシテ兩舷ノ正肋材カ船底ニ於テ交叉スル角度カ六十度以下ナル部分竝第一數三十以下ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
平板龍骨ニ斷切板内龍骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ前項ノ覆山形材ノ長ハ其ノ兩邊ノ和ノ四倍迄減スルコトヲ得

正肋材ヲ龍骨ノ上面以外ノ場所ニ於テ衝接スルトキハ第一項ニ規定スル覆山形材ヲ附スヘシ

第五十六條 梁一層ノミヲ備フル部分ニ於テハ副肋材ハ本條ノ規定ニ從ヒ船内ノ深ニ依リ之ヲ達セシムヘキ高ヲ定ムヘシ

船内ノ深七呎ヲ超エ九呎以下ナルトキハ副肋材ハ總テ彎曲上部迄達セシムヘシ

船内ノ深九呎ヲ超エ十一呎以下ナルトキハ副肋材ハ一本置ニ彎曲上部迄ト船側縱通材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

船内ノ深十一呎ヲ超エ十三呎以下ナルトキハ副肋材ハ一本置ニ船側縱通材ノ上部迄

ト上甲板迄トニ達セシムヘシ

船内ノ深十三呎ヲ超エ二十七呎以下ナルトキハ副肋材ハ總テ上甲板迄達セシムヘシ

第五十七條 重構船ニ於テ二層以上ノ梁ヲ備フル部分ノ層梁間ノ高八呎ヲ超エサルト

キハ副肋材ハ一本置ニ上甲板迄ト第二層梁ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ

第五十八條 副肋材ヲ附シタル溝形肋骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ副肋材ハ最下甲板迄達セシムヘシ

第五十九條 最下層梁カ特設船梁ナルトキハ副肋材ハ總テ直上ノ甲板迄達セシムヘシ

第六十條 汽機室及汽罐室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ノ他面ニモ副肋材ヲ附シテ之ヲ彎曲

上部迄達セシムヘシ但シ第二數一萬一千以下ノ船舶ニ在リテハ汽罐室ニ於ケル増設副肋材ハ汽罐ノ重量ヲ支フル肋骨毎ニ附スルモ妨ナシ

第二數一萬一千ヲ超ユル汽船ニ在リテハ前項ノ増設副肋材ハ之ニ彎曲上部ニ於ケル縱通材ヲ固著シ得ヘキ高迄達セシムヘシ

第六十一條 副肋材ノ衝接ニハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ兩側ニ於テ各三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ但シ副肋材ノ各邊ノ幅二吋半以下ナルトキハ鉸釘ノ數ハ

二箇ト爲スコトヲ得

第六十二條 第二數一萬五千ヲ超ユル汽船ノ船尾艙ニ於ケル副肋材ハ上甲板迄達セシムヘシ但シ輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ第二甲板ニ止ムルモ妨ナシ

第六十三條 層梁間ノ高八呎ヲ超ユル船舶、二層以上ノ梁ヲ有スル輕構船、全通船樓船、遮浪甲板船及長キ船樓、低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ノ層梁間ノ肋骨ノ寸法及副肋材ヲ達セシムヘキ高ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第六十四條 高速力ノ汽船ノ船尾部ニ於テハ適當ノ高ニ達スル二重正肋材ヲ設クルカ又ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第六章 肋板

第六十五條 船ノ中心線ニ於ケル肋板ノ寸法ハ第四號表ニ依ルヘシ但シ其ノ厚ハ同表ニ掲クルモノヨリ汽機室ニ於テハ〇・〇四吋、汽罐室ニ於テハ〇・一時増スヘシ

輕構船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ吃水ニ應シ肋板ノ寸法ヲ増スヘシ

船ノ中心線ヨリ正肋材ニ沿ヒテ船ノ幅ノ八分ノ三ニ相當スル箇所ニ於ケル肋板ノ深ハ中心線ニ於ケル深ノ二分ノ一ヨリ少カルヘカラス但シ船底ノ形狀扁平ナルトキハ適當ニ之ヲ増シ又鋭尖ナルトキハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

肋板ノ深ハ其ノ兩端ニ於テハ正肋材ノ横邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

龍骨ノ上面ヨリ測リタル肋板ノ兩端外縁ノ高ハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ一間ハ中心線ニ於ケル深ノ二倍ト爲シ其ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ中心線ニ於ケル深迄減スルコトヲ得但シ船ノ首尾ニ於テハ漸次肋板ノ深ヲ増シ兩舷ノ固著ヲ充分ナラシムヘシ

第六十六條 肋板ハ正肋材毎ニ取附クヘシ

第六十七條 中心線貫通板ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ兩側ニ於テ肋板ノ兩面ニ厚ハ貫通板ノ厚ニ等シク又其ノ兩邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヲ有スル

豎山形材ヲ附シテ肋板ト貫通板トヲ固著スヘシ

第六十八條 肋板ヲ二枚以上ニテ構造スルトキハ其ノ接合ハ第十八號表ニ依リ其ノ位置ハ適當ニ避距スヘシ

第六十九條 肋板、中心線貫通板及斷切内龍骨板ニハ塗水孔ヲ穿ツヘシ

第七十條 船尾艙ニ於テハ肋板ヲ船尾管ノ上部迄達セシムヘシ但シ船形肥滿セル爲肋板ヲ船尾管ノ上部迄達セシメ難キトキハ船尾管ノ上部ニ適當ノ兩舷結合板ヲ取附ケ該板ノ上下兩端ヲ曲縁ト爲スカ又ハ該板ノ上下兩端ニ山形材ヲ附シテ之ヲ防撓シ且該板上ニ側板ヲ附シテ之ヲ外板ニ固著スヘシ

船尾艙ニ於ケル肋板及兩舷結合板ト肋骨トヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第七十一條 船尾肋板ノ深ハ第一號表ニ掲クル螺旋孔ヲ有スル船尾骨材ノ厚ノ六倍ヨリ少カルヘカラス又其ノ厚ハ船ノ首尾ニ於ケル船底外板ノ厚ニ等シクスヘシ

第七章 特設肋骨

第七十二條 特設肋骨、特設肋骨間側板及中間肋骨ヲ以テ普通肋骨及船側縱通材ニ代用スルトキハ特設肋骨間ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ六倍ト爲シ其ノ寸法及肋骨ノ心距ハ第五號表ニ依ルヘシ

第七十三條 特設肋骨間側板ヲ特設肋骨ニ固著スル二重山形材竝特設肋骨及特設肋骨間側板ヲ外板ニ固著スル山形材ノ厚ハ第五號表ニ掲クル特設肋骨ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一時ナルトキハ四吋ト爲スヘシ

幅二十四吋ヲ超エル特設肋骨ハ二重山形材又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル單山形材ヲ以テ外板ニ固著スヘシ但シ單山形材ヲ用ウルトキハ之ヲ二列釘固著ト爲スコトヲ要ス

第七十四條 特設肋骨間側板ノ内縁ニ附スル山形材ハ特設肋骨毎ニ第五號表ニ掲クル覆板ヲ以テ之ヲ接續スヘシ

第七十五條 特設肋骨ノ上端ニ取附クル甲板梁ノ肘板ノ幅及深ハ特設肋骨ノ幅ニ等シクシ其ノ各枝ハ二列釘固著ト爲スヘシ但シ肘板ノ幅ハ特設肋骨ノ内縁ヨリ又其ノ深ハ梁ノ下端ヨリ測リタルモノトス

前項ノ肘板ハ其ノ内縁ヲ曲縁ト爲スヘシ

第七十六條 特設肋骨間側板ハ其ノ幅十六吋ヲ超エ十八吋以下ナルトキハ特設肋骨間

ノ中央ニ於テ、幅十八吋ヲ超ユルトキハ肋骨一本置ニ間側板ニ等シキ厚ヲ有スル肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

第七十七條 特設肋骨ノ上部ニ於ケル甲板間ノ肋骨ハ中間肋骨ト同一強力ト爲スヘシ
第七十八條 特設肋骨ヲ有スル一層甲板船ノ副肋材ハ上甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第七十九條 特設肋骨ヲ有シ二層以上ノ梁ヲ備フル重構船ニ於テ層梁間ノ高八呎ヲ超エサルトキハ副肋材ハ一本置ニ上甲板迄ト第二層梁ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ
特設肋骨間側板間ノ距離及最下間側板ト中心線ニ於ケル普通肋板ノ上面又ハ二重底ノ緣板ノ上面トノ距離ハ船ノ各部ニ於テ八呎ヲ超ユヘカラス

第八十條 層梁ノ高八呎ヲ超ユル船舶、二層以上ノ梁ヲ有スル輕構船、全通船樓船、遮浪甲板船及長キ船樓、低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ノ層梁間ノ肋骨ノ寸法及副肋材ヲ達セシムハキ高ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八章 内龍骨

第八十一條 内龍骨ヲ構造スル各材ノ寸法ハ第六號表ニ依ルヘシ

内龍骨ハ船ノ首尾ニ縦通セシムヘシ

第八十二條 内龍骨ノ下部ハ副肋材及肋板ノ他面ニ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ取附ケタル短山形材又ハ副肋材ヲ内龍骨ノ下部ニ於テ衝接スル場合ニ於テハ副肋材ノ衝接用覆山形材ニ固著スヘシ

第八十三條 肋板上ニ豎板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スル内龍骨ノ上端ニ附スル山形材ハ其ノ廣邊ヲ水平ニ置キ且中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ上面ニ厚ハ豎板ノ厚ニ等シク幅ハ山形材ノ上邊ノ和ヨリ一時多キ冠板ヲ取附クヘシ

第八十四條 肋板上ニ設クル中心線内龍骨ハ第二數四千七百以下ナルトキハ二重球山形材ヲ以テ、第二數四千七百ヲ超エ三萬六千以下ナルトキハ豎板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スヘシ但シ第二數二萬六千ヲ超ユルトキハ幅十八吋厚〇・五吋ノ礎板ヲ肋板ノ上面ニ取附クルコトヲ要ス

第八十五條 中心線斷切板内龍骨ノ斷切板ハ二重山形材ヲ以テ肋板ニ固著スヘシ此ノ場合ニ於ケル山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ

鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヨリ少カルヘカラス

第八十六條 中心線貫通板内龍骨ノ貫通板ハ肋板ノ上端迄達セシメ且肋板上ニ幅ハ二十四吋厚ハ貫通板ノ厚ニ等シキ礎板ヲ設ケ貫通板ノ上端兩面ニ附スル山形材ニ固著スヘシ但シ貫通板ヲ肋板ノ上部ニ延長スルトキハ其ノ兩側ニ幅十二吋ノ礎板ヲ設クヘシ

第二數一萬ヲ超エ一萬七千二百以下ナルトキハ第六號表ニ掲クル二重球山形材ヲ礎板上ニ取附ケ又第二數一萬七千二百ヲ超エ三萬六千以下ナルトキハ貫通板ヲ第六號表ニ掲クル高迄肋板上ニ延長シ且礎板、四箇ノ山形材及貫通板ノ厚ニ等シキ厚ヲ有スル冠板ヲ取附クヘシ

第八十七條 翼内龍骨ハ斷切板ヲ以テ外板ニ固著スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於ケル外板トノ固著山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヨリ少カルヘカラス

第八十八條 幅二十七呎以下ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ翼内龍骨ヲ設クヘシ

幅二十七呎ヲ超エ五十呎以下ノ船舶ニ在リテハ二箇ノ翼内龍骨ヲ設クヘシ

第八十九條 翼内龍骨ヲ豎板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スルトキハ中心線ニ近キ翼内龍骨ノ豎板ハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ノ前後ニ於テ、中心線ニ遠キ翼内龍骨ノ豎板ハ中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ノ前後ニ於テ漸次其ノ深ヲ減シテ豎板ノ下端ニ附スル山形材ノ豎邊ノ幅ニ等シクスヘシ又冠板ハ之ヲ延長スルコトヲ要セス

第九十條 幅五十呎ヲ超エ五十四呎以下ノ船舶ニ在リテハ本章第八十八條第二項ニ規定スル二箇ノ翼内龍骨ノ外二重山形材及斷切板ヲ以テ構造スル彎曲部内龍骨ヲ設クヘシ

第九十一條 内龍骨ノ山形材及球山形材ノ接合ハ適當ニ避距シ其ノ衝接ニハ長ハ二呎以上厚ハ固著スヘキ山形材又ハ球山形材ノ厚ニ等シキ覆山形材又ハ覆板ヲ取附クヘシ

内龍骨ヲ構造スル諸板ノ横縁固著ハ第十八號表ニ依ルヘシ但シ豎板ノ横縁ハ之ヲ衝

接ト爲シ其ノ厚ノ二分ノ一ニ〇・一四吋ヲ加ヘタル厚ヲ有スル二重覆板ヲ附スルカ
又ハ之ヲ累接ト爲スヘシ

第九章 船側縦通材

第九十二條 船側縦通材ノ寸法ハ第七號表ニ依ルヘシ

第九十三條 船側縦通材ハ艙内ノ深七呎ヲ超エ十四呎以下ナルトキハ一箇、艙内ノ深
十四呎ヲ超エ二十一呎以下ナルトキハ二箇、艙内ノ深二十一呎ヲ超エ二十七呎以下
ナルトキハ三箇ヲ設クヘシ

船ノ首尾ニ於ケル船側縦通材間ノ距離ハ船ノ中央部ニ於ケルモノヨリ大ナルヘカラ
ス

第九十四條 船側縦通材ハ第七號表ニ掲クル山形材ヲ肋骨ノ内面ニ取付ケ第三號甲表
ニ掲クル肋骨ノ深三吋ヲ超ユル時又ハ第三號乙表ニ掲クル肋骨ノ深四吋ヲ超ユル時
ハ斷切板ヲ附シ山形材ヲ以テ外板ニ固著シタル者ト爲スヘシ
前項ノ外板ニ附スル山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著

スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八
分ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一吋ナルトキハ四吋ト爲スヘシ

第九十五條 船側縦通材ノ山形材ハ肋骨毎ニ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ副肋材又ハ肋骨ニ
取附ケタル短山形材ニ固著シ隔壁ニ於テハ之ヲ止メ船側ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍、
隔壁ニ於テ肋骨ノ心距ニ等シキ枝幅ヲ有シ厚ハ斷切板ノ厚ニ〇・〇六吋ヲ加ヘタル
肘板及單山形材ヲ以テ隔壁ニ固著スヘシ

第九十六條 各縦通材ノ接合ハ適當ニ避距シ山形材ノ衝接ニハ厚ハ山形材ノ厚ニ等シ
ク長ハ二呎以上ノ覆山形材又ハ覆板ヲ取附クヘシ又斷切板ハ成ルヘク長材ヲ使用シ
其ノ衝接ニハ覆板ヲ取附クヘシ

第九十七條 船側外板ノ厚ヲ適當ニ増ストキハ船側縦通材ハ船ノ首尾部ヲ除クノ外之
ヲ設ケサルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ船側縦通材ヲ附スヘキ位置ニ支水隔壁ノ前後
ニ於テ本章第九十五條ニ規定スル肘板ヲ設クヘシ

第十章 二重底及水艙

第一節 總則

第九十八條 二重底用材ノ寸法及固著方ハ第八號甲表及乙表ニ依ルヘシ但シ一部ニ二重底ヲ設クル場合ニ於テハ各材ノ寸法及固著方ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ二重底用材ノ厚ハ第八號甲表ニ掲クルモノヨリ○・〇四吋以内減スルコトヲ得但シ肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル二重底ニ於ケル肋板ヲ附セサル副肋材ノ厚ハ○・二六吋其ノ他ノ各材ノ厚ハ○・二八吋ヨリ少カルヘカラス

第九十九條 二重底ノ内底板及水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ鐵製又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且内底板又ハ頂板ノ厚○・二六吋以下ニシテ螺釘ヲ以テ蓋板ヲ内底板又ハ頂板ニ取附クルトキハ其ノ周圍ニ緣環ヲ取附クヘシ

船艙ノ二重底上ニ内張板ナキ場合ニ於テ出入口ノ蓋板又ハ其ノ取附金具ニ突起アルトキハ該口ノ周圍ニ緣材ヲ取附ケ木製又ハ鋼製ノ蓋ヲ設クヘシ

二重底ノ桁板及區畫式二重底ノ肋板ニハ人孔、充分ナル通氣孔及通水孔ヲ設クヘシ但シ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ニ於ケル中心線桁板ニハ人孔ヲ設クヘカラス

第一百條 二重底及水艙ハ水密ニ構造シ之ニ充分ノ排氣管ヲ設ケ内部ノ通氣ヲ充分ナラシムヘシ

船首尾水艙及艙内水艙ニハ中央部ニ於テ制水板ヲ設ケ又艙内水艙ニ在リテハ其ノ兩側ニ於テ斷切板梁下縱通材ヲ設ケ之ニ側梁柱ヲ取附クヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

艙内水艙ニ於テハ特設肋骨ヲ設ケ船側ヲ補強スヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百一條 機關室ニ二重底ヲ備ヘ之ニ滄水溜ヲ設クルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以内ト爲スヘシ

艙内ニ設クル滄水溜ハ肋骨ノ心距ノ二倍以内ト爲シ車軸隧道内ニ設クルモノハ成ルヘク之ヲ短クスヘシ

機關室及艙内ニ設クル滄水溜ノ滄水孔ニハ不還瓣ヲ設クヘシ

第一百二條 二重底全通セサルトキハ彎曲部内龍骨及翼内龍骨ハ之ヲ肋骨ノ心距ノ三倍ノ間ニ二重底内ニ延長シテ縱通桁板ニ固著スルカ又ハ縱通桁板ヲ二重底外ニ延長シテ

之ニ該内龍骨ヲ固著スヘシ

二重底内ノ側桁板ハ成ルヘク之ヲ首尾ニ延長スヘシ中心線桁板ニ隣接スル側桁板ハ船首船底ノ形狀銳尖ナル場合ヲ除クノ外成ルヘク之ヲ船首隔壁迄達セシムヘシ

二重底内ノ側桁板間ノ距離六呎ヲ超ユル部分ノ水密肋板ニハ側桁板間ノ中央ニ於テ肋板ニ附スル正肋材ニ等シキ山形材ヲ豎ニ取附クヘシ

第三百三條 二重底ハ船ノ滿載吃水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

船首尾水艙及艙内水艙ニハ其ノ頂板上八呎ヨリ少カラス且滿載吃水線ヨリ少カラサル高ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ但シ水艙頂板上甲板ナルトキハ検査官吏ノ見込ニ依リ頂板上四呎ニ相當スル水高壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ得

第四百四條 汽機室ノ各肋板及汽鑪臺ヲ支フル肋板ノ上端兩面ニハ機關臺ノ外側ニ隣接スル桁板間ニ於テ山形材ヲ附スヘシ

第四百五條 緣板ノ上邊ヲ除キタル幅ハ第八號乙表ニ掲クル寸法ト爲スヘシ但シ船尾ヨリ船ノ長ノ五分ノ一間ニ於テハ漸次之ヲ減シ船尾端ニ於テ同表ニ掲クル幅ノ百分ノ八十五ト爲スコトヲ得

第四百六條 緣板ノ外部ニ附スル肘板ハ彎曲上部ニ於テ第八號甲表ニ掲クル高迄達セシムヘシ但シ船尾ヨリ船ノ長ノ四分ノ一間ニ於テハ漸次之ヲ減シ船尾端ニ於テ二重底ノ高ニ等シクスルコトヲ得

第四百七條 緣板ヲ肋板又ハ緣板ノ外部ニ附スル肘板ニ固著スル豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數及徑ハ左表ニ依ルヘシ但シ二重山形材ヲ以テ肘板ヲ緣板ニ固著スル場合ニ於テハ鉸釘ノ數ハ同表ニ掲クルモノヨリ一箇減スルコトヲ得

緣板ノ上邊ヲ除キタル幅	豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數	鉸釘ノ徑
十九吋ヲ超エ二十四吋以下	五	四分ノ三吋
二十四吋ヲ超エ二十八吋以下	六	四分ノ三吋
二十八吋ヲ超エ三十吋以下	六	八分ノ七吋
三十吋ヲ超エ三十五吋以下	七	八分ノ七吋
三十五吋ヲ超エ四十吋以下	八	八分ノ七吋
四十吋ヲ超エ四十四吋以下	九	八分ノ七吋

第四百八條 緣板ノ外部ニ附スル肘板ノ船側ニ於ケル幅及肘板ト正肋材トノ固著鉸釘ノ

數ハ縁板ニ於ケル肘板ノ幅及縁板ト肘板トノ固着用豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數ヨリ少カルヘカラス

第九條 撥形板又ハ其ノ他ノ帶板等ヲ以テ内底板ト縁板ノ外部ニ附スル肘板トヲ固著スルトキハ縁板ノ上邊ノ幅ハ内底板ノ外側ニ於テ撥形板等ヲ取附クルニ充分ナルコトヲ要ス

第十條 特設肋骨ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著スヘシ

特設肋骨ノ幅十五吋ヲ超エ十七吋以下ナルトキハ特設肋骨毎ニ、幅十七吋ヲ超エ二十吋以下ナルトキハ特設肋骨毎及各特設肋骨間ノ中央ニ、幅二十吋ヲ超エ二十六吋以下ナルトキハ肋骨一本置ニ、幅二十六吋ヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ撥形板又ハ適當ノ山形材ヲ以テ特設肋骨又ハ肋骨ト内底板トヲ固著スヘシ

第十一條 汽罐室ニ於ケル二重底用山形材ハ外板ニ附シ且「セメント」ヲ以テ蔽被スルモノヲ除クノ外第八號甲表ニ掲クル厚ヨリ〇・一時其ノ厚ヲ増スヘシ

第十二條 縁板ト外板トヲ固著スル山形材ヲ除キ其ノ他ノ二重底用山形材ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ左表ニ依リ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル山形材ノ厚	船ノ首尾ニ於テ減シ得ヘキ厚
〇・四吋ヲ超エ〇・五吋以下	〇・〇二吋
〇・五吋ヲ超エ〇・六吋以下	〇・〇四吋
〇・六吋ヲ超エ〇・七吋以下	〇・〇六吋

第十三條 二重底ノ構造ニ於テ肋板、肘板、斷切桁板等ニ曲縁鋼板ヲ使用スルトキ

ハ其ノ接面ノ幅ハ該部ニ用ウヘキ規定ノ山形材ノ邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

二重底ノ肋板又ハ肘板ヲ其ノ下端ニ於テ曲縁ト爲シ外板ニ固著スルトキハ該板ノ厚

ハ第八號甲表ニ掲クルモノヨリ〇・〇二吋増スヘシ

第十四條 汽機室及汽罐室ニ於ケル區畫式二重底ノ肋板ハ二重山形材ヲ以テ中心線

桁板ニ固著スヘシ

第一數六十六ヲ超ユル船舶ニ在リテハ區畫式二重底ノ肋板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ中心線桁板ニ固著スヘシ

第十五條 高速力ノ汽船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ機關室ニ於ケル内底板ト縁板ノ外部ニ附スル肘板トノ固著ニ肋骨毎ニ撥形板ヲ附セシメ又ハ其

代リニ帶板ヲ附セシムルコトヲ得

第百十六條 内底板ハ縦ニ之ヲ取附ケ其ノ横縁ハ交互ニ且中心線桁板ノ横縁ト避距シ又縦縁ハ桁板ト適當ニ隔離スヘシ

第百十七條 汽機床ヲ直ニ内底板ニ固著スルトキハ該部ニ於ケル内底板ノ厚ハ中央部ニ於ケル艙内内底板ノ厚ノ約二倍ト爲シ且必要ニ應シ其ノ縦横縁ノ固著釘ヲ増スヘシ

第百十八條 船首尾水艙ノ頂板ニ於テ正肋材及副肋材ヲ切斷スルトキハ肋骨毎ニ又副肋材ノミヲ切斷スルトキハ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ之ヲ頂板ニ固著スヘシ該肘板ノ厚ハ正肋材ノ厚ニ等シクシ又其ノ幅及固著鉸釘ハ左表ニ依ルヘシ

第一	數	外板ノ内面ヨリ測 リタル肘板ノ幅	鉸釘ノ數	鉸釘ノ徑
二十三ヲ超エ四十二以下	十	五	四	八分ノ五吋
四十二ヲ超エ五十四以下	十	八	四	四分ノ三吋
五十四ヲ超エ六十三以下	二	十一	五	四分ノ三吋
六十三ヲ超エ七十五以下	二	十四	六	四分ノ三吋

七十五ヲ超エ八十七以下	二	十	七	七	四分ノ三吋
八十七ヲ超エ九十九以下	三	十	七	八分ノ七吋	

第二節 肋骨毎ニ肋板ヲ有スル區畫式ニ重底

第百十九條 肋骨毎ニ中心線桁板ヨリ縁板迄貫通スル肋板ヲ以テ區畫式ニ重底ヲ構造スルトキハ中心線桁板ト縁板トノ間ニ設クル斷切側桁板ノ數ハ船ノ幅ト中央部ニ於ケル内底板ノ幅トノ中其ノ多キモノニ從ヒ左表ニ依ルヘシ

船ノ幅	中央部ニ於ケル内底板ノ幅	各側ニ於ケル側桁板ノ數								
五十呎ヲ超エ六十二呎以下	三十六呎ヲ超エ四十八呎以下	一								
六十二呎ヲ超エ七十四呎以下	四十八呎ヲ超エ六十呎以下	二								
五	十	以	下	三	十	六	呎	以	下	三

第百二十條 汽機室ニ於テハ適當ニ側桁板ノ數ヲ増スヘシ

第百二十一條 二重底ノ部分ニ於ケル外板ハ平板龍骨及龍骨翼板ヲ除クノ外厚〇・五二吋ナルトキハ〇・〇二吋、厚〇・五四吋以上〇・六四吋以下ナルトキハ〇・〇四吋、

厚〇・六六吋ナルトキハ〇・〇二吋第十四號表ニ掲クル厚ヨリ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第三節 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底

第二百二十二條 長四百呎ヲ超ユル船舶及深二十六呎ヲ超ユル一層甲板船ノ二重底ハ本節ノ規定ニ依ルヘカラス

第二百二十三條 肋骨一本置ニ附シタル肋板ヲ以テ區畫式二重底ヲ構造スルトキハ中心線桁板ト縁板トノ間ニ設クル斷切側桁板ノ數ハ船ノ幅ト中央部ニ於ケル内底板ノ幅トノ中其ノ多キモノニ從ヒ左表ニ依ルヘシ

船ノ幅	中央部ニ於ケル内底板ノ幅	各側ニ於ケル側桁板ノ數
三十 四 呎 以下	二十 八 呎 以下	一
三十四 呎ヲ超エ五十 呎以下	二十八 呎ヲ超エ三十六 呎以下	二

第二百二十四條 船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ト船首隔壁トノ間及汽機室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ヲ設グヘシ又汽鐘臺ノ下ニハ肋板ヲ設クヘシ

第二百二十五條 肋板ヲ附セサル肋骨ノ位置ニハ第八號甲表ニ掲クル正肋材ヲ外板ニ、副肋材ヲ内底板ノ下面ニ取り附クヘシ但シ側桁板ノ數ヲ増スカ又ハ内底板ノ厚ヲ〇・〇四吋増ストキハ副肋材ハ之ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第二百二十六條 二重底内ノ肋板ヲ附セサル肋骨ニハ中心線桁板及縁板ヲ固著スル爲肘板ヲ設クヘシ又第二數二萬ヲ超ユル船舶ニ在リテハ肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ハ副肋材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナルコトヲ要ス

第二百二十七條 前二條ノ規定ハ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得
第二百二十八條 側桁板ニハ肋板ヲ附セサル肋骨ノ位置ニ於テ豎山形材ヲ附シ成ルヘク之ヲ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ正肋材及副肋材ニ固著スヘシ

第十一章 船首船底ノ補強構造

第二百二十九條 船首船底ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ補強構造ヲ爲スヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニハ本章第三百一十一條、第三百十二條但書、第三百十三條及第三百三十五條ノ規定ヲ適用セス

第三百十條 船底外板ト正肋材トヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一
間ニ於テハ釘徑ノ五・五倍ヲ超ユヘカラス

第三百十一條 肋骨毎ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底ヲ備フル場合ニ於テハ船首ヨリ船
ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方ニ中心線桁板ノ高ノ二分ノ一ノ高ヲ有スル
増設斷切桁板ヲ兩舷ニ設ケ充分之ヲ船首ニ延長スヘシ

第三百十二條 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底ヲ備フル場合ニ於テハ船首ヨ
リ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間肋骨毎ニ肋板ヲ附シ
且側桁板ヲ充分船首ニ延長スヘシ但シ該部ニ於ケル側桁板ノ數カ前條ノ規定ニ依ル
モノヨリ少キトキハ前條ノ増設斷切桁板ヲ設クヘシ

第三百十三條 船首部ニ二重底ヲ備ヘサル場合ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一
ニ相當スル箇所ト五分ノ一ニ相當スル箇所トノ間斷切板翼内龍骨ヲ増設スヘシ

第三百十四條 船首ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ニ相當スル箇所ト五分ノ一ニ相當スル箇
所トノ間正肋材ハ船首部ニ二重底ヲ備フル場合ニ於テハ縁板ヨリ縁板迄、船首部ニ
二重底ヲ備ヘサル場合ニ於テハ彎曲部ヨリ彎曲部迄之ヲ二重ト爲スヘシ

第三百十五條 龍骨ニ鄰接スル外板三條ノ厚ハ船首ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ニ相當ス
ル箇所ヨリ中央ニ至ル間中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ減スルコトヲ得ス

第三百十六條 船尾ニ機關室ヲ有スル第二數一萬以下ノ汽船ニ在リテハ船首ヨリ船ノ
長ノ二十分ノ一ニ相當スル箇所ト四分ノ一ニ相當スル箇所トノ間本章ノ規定ニ依ル
補強構造ヲ爲スヘシ但シ本章第三百十四條ノ二重正肋材ノ代リニ第三號甲表ニ掲ク
ル船首尾艙ノ正肋材ト同寸法ノ中間肋骨ヲ肋板ト肋板トノ間ニ設クルモ妨ナシ
第三十七條 本章ノ規定ニ依リ補強構造ヲ爲スヘキ部分ニ於ケル肋板及側桁板ハ之ヲ
曲縁ト爲スヘカラス

第十一章 支水隔壁、支水甲板及車軸隧道

第三百十八條 汽船ニハ首尾及機關室前後ニ支水隔壁ヲ設クヘシ

船首隔壁ハ滿載吃水線ニ於テ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カ
ラサル所ニ之ヲ設クヘシ

船尾管ハ水密ナル場所ニ之ヲ設クヘシ

第三百二十九條 長二百二十呎以下ノ汽船ニ於テ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ支水隔壁ノ數ハ三箇ト爲スモ妨ナシ

長二百二十呎ヲ超エ二百八十五呎以下ノ汽船ニ於テ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ

長二百八十五呎ヲ超エ三百三十五呎以下ノ汽船ニ在リテハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ但シ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ二箇ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ

長三百三十五呎ヲ超エ四百五呎以下ノ汽船ニ在リテハ前項ニ掲クル隔壁ノ外更ニ船尾隔壁ト機關室後端ノ隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ但シ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ二箇ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ

長四百五呎ヲ超エ四百七十呎以下ノ汽船ニ在リテハ七箇、長四百七十呎ヲ超エ五百四十呎以下ノ汽船ニ在リテハ八箇、長五百四十呎ヲ超エ六百十呎以下ノ汽船ニ在リテハ九箇ノ支水隔壁ヲ設クヘシ

第四百十條 前二條ノ隔壁ハ之ヲ上甲板迄達セシムヘシ但シ船首隔壁ヲ除キ其ノ他ノ

隔壁ハ全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ之ヲ第二甲板ニ止メ又二層以上ノ甲板ヲ有スル輕構船ニ在リテハ其ノ吃水ニ應シ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ第二甲板ニ止ムルコトヲ得

前二條ノ隔壁ハ低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ其ノ吃水ニ應シ之ヲ適當ニ船樓甲板ニ達セシムヘシ

前三條ノ隔壁ハ本條第四項ノ場合ヲ除クノ外船ノ長ノ中央ニテ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面カ海水中ニ於ケル最高滿載吃水線以上ニ在ル甲板ニ達セシムルコトヲ要ス滿載吃水線以上ニ在ル甲板ヲ船尾隔壁ヨリ船尾迄水密ニ構造スルトキハ船尾隔壁ハ之ヲ該甲板ニ止ムルコトヲ得

第四百十一條 長キ船樓ノ甲板ト上甲板トノ間ニ於テハ支水隔壁ヲ船樓甲板ニ達セシメサルトキハ支水隔壁ノ上部ニ部分隔壁ヲ設クヘシ

支水隔壁ヲ第二甲板ニ止ムル船舶ノ上甲板ト第二甲板トノ間ニ於テモ亦同シ支水隔壁ヲ本章ニ規定スル適當ノ位置ニ取附ケ難キトキハ部分隔壁ヲ附シテ船體ヲ補強スヘシ

第四百十二條 支水隔壁板ノ厚ハ第九號甲表ニ依ルヘシ但シ防撓材ノ心距カ三十吋ト三十六吋トノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ之ヲ定ムヘシ

最下部ニ於ケル隔壁板ハ二重底アル場合ニ於テハ二重底ノ上面ヨリ其ノ他ノ場合ニ於テハ龍骨ノ上面ヨリ其ノ高ヲ三十六吋ト爲シ其ノ厚ハ第九號甲表ニ掲クル厚ヨリ〇・〇四吋増スヘシ但シ隔壁板ノ片面ノミニ二重底アル場合ニ於テハ二重底上面ヨリノ高ヲ十二吋ト爲スコトヲ得

汽罐又ハ石炭庫ニ面スル隔壁ノ最下部ニ於ケル隔壁板ハ其ノ厚ヲ第九號甲表ニ掲クルモノヨリ〇・一吋増シ且汽罐ニ面スルモノハ汽罐室床板上ノ高ヲ二十四吋ト爲スヘシ

滄水道ニ於ケル隔壁板ノ厚ハ第九號甲表ニ掲タルモノヨリ〇・一吋増スヘシ

第四百十三條 支水隔壁ニハ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クル防撓材ヲ堅ニ三十吋ノ心距ニ設クヘシ

防撓材ノ長又ハ防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高カ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ防撓材ノ寸法ヲ定ムヘシ

防撓材ノ寸法ヲ適當ニ増ストキハ其ノ心距ヲ三十六吋迄増スコトヲ得

第四百十四條 防撓材ノ上下兩端ハ第九號丁表ニ掲クル肘板又ハ短山形材ヲ以テ固著スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ肘板ノ枝幅ハ第九號乙表ニ掲クル防撓材ノ深ノ三倍ヨリ小ナルヘカラス
防撓材ノ上下兩端ニ當ル甲板ニハ隔壁ニ十分ナル強力ヲ與フル爲適當ノ鋼板又ハ鋼甲板ヲ設クヘシ

艙内ニ於ケル防撓材ノ下端ハ外板、二重底又ハ適當ノ平置板ニ之ヲ取附クヘシ
艙内ニ於ケル防撓材ノ下端ニ附スル肘板又ハ其ノ固著山形材ハ二重底ノ場合ニ於テハ隔壁ニ鄰接スル肋板ニ達セシメ又上端ニ附スル肘板ハ隔壁ニ鄰接スル梁ニ達スル山形材ニ固著スルカ、該梁ニモ固著スルカ又ハ適當ノ方法ニ依リ固著スヘシ

第四百十五條 船首隔壁ニハ滄水孔又ハ戸口ヲ、其ノ他ノ支水隔壁ニハ滄水孔ヲ設クヘカラス但シ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設クルコトヲ得

第四百十六條 支水隔壁ノ下部ニ支水戸ヲ設クル爲防撓材ヲ切斷シタルトキハ戸口ノ枠ハ適當ニ構造シ且戸口ノ兩側ニ於テ隔壁ノ下端ヨリ戸口上適當ノ高迄達スル防撓

桁板ヲ設クヘシ

甲板間支水隔壁ニ於テ支水戸ヲ設クル爲防撓材ノ心距ヲ増シタルトキハ其ノ寸法ヲ適當ニ増スヘシ此ノ場合ニ於ケル戸口ノ枳ハ防撓材ト看做スヘカラス
特設梁下縦通材ヲ取附クル隔壁ノ部分及特ニ重量物ヲ支フル隔壁ノ部分ニハ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第四百十七條 船首尾水艙及艙内水艙ニ面スル隔壁並船首隔壁ニ於テハ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クル防撓材ヲ豎ニ二十四吋ノ心距ニ取附ケ隔壁板ノ厚ハ第九號甲表ニ掲クル防撓材ノ心距三十吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクスヘシ但シ水艙ニ面スル隔壁ニ於テハ防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高カ十二呎未滿ナルトキハ之ヲ十二呎ト看做シ防撓材及隔壁板ノ寸法ヲ定ムヘシ

前項但書ノ規定ハ水艙カ隔壁ノ上端ニ達スル場合ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

長大ナル水艙ノ隔壁ハ防撓桁板ヲ以テ適當ニ之ヲ補強スヘシ

第四百十八條 隔壁板ト外板、二重底及甲板トヲ固著スルニハ第九號甲表ニ掲クル隔

壁板ノ厚ヨリ〇・一吋厚キ單山形材ヲ用キ隔壁上端ヨリ深二十四呎ノ所迄ハ山形材ノ各邊ニ一列釘ヲ以テ固著シ其ノ下部ニ於テハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ但シ水艙ノ隔壁板ト外板及二重底トハ二列釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

前項ノ山形材ノ各邊ノ幅ハ一列釘固著ニシテ其ノ釘徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一吋ナルトキハ四吋ト爲シ又二列釘固著ニシテ其ノ釘徑四分ノ三吋及八分ノ七吋ナルトキハ五吋、徑一吋ナルトキハ六吋ト爲スヘシ
第四百十九條 支水隔壁板ノ縱横緣固著ハ一列釘ト爲スヘシ但シ隔壁上端ヨリノ深三十五呎ヲ超ユル部分ニ於ケル横緣ノ固著ハ二列釘ト爲スヘシ

第四百十條 支水甲板ニ於テ肋骨ノ貫通スル部分ハ鍛造山形材、鑄鋼又ハ鑄鐵ノ填材ヲ用キ水密ト爲スヘシ但シ水艙頂板ニ於テハ鑄鋼又ハ鑄鐵ノ填材ヲ用ウヘカラス
第四百十一條 船尾隔壁ニ於テ螺旋軸ノ貫通スル部分ハ填筐環ヲ附シ且該部ノ隔壁板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ

第四百十二條 支水隔壁ニ屈折セル部分アルトキハ該部ノ構造及寸法ハ隔壁ノ構造及寸法ニ等シクスヘシ

第一百五十三條 船首尾水艙及艙内水艙ノ頂面ニハ支水甲板ヲ設クヘシ
支水隔壁ヲ規定ノ高迄同一肋骨ニ於テ達セシムルコト能ハサルトキハ上部隔壁ノ下
端ト下部隔壁ノ上端トヲ接續スル爲支水甲板ヲ設クヘシ

第一百五十四條 支水甲板ノ梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附ケ其ノ強力ハ該甲板ニ第九號乙表ニ
掲クル防撓材ト第九號丙表ニ掲クル防撓材トノ中間ノ強力ヲ有スル梁ヲ心距三十吋
ニ設ケタルトキト同一效力ト爲スヘシ但シ短キ梁ニシテ其ノ兩端ニ肘板ヲ附スルモ
ノハ第九號乙表ニ掲クル防撓材ト同一寸法ノ梁ヲ心距三十吋ニ設ケタルトキト同一
效力ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ第九號乙表及丙表ニ掲クル防撓材ノ寸法ヲ定ムルニハ梁ノ支點間
ノ最大距離ヲ該表ノ防撓材ノ長ニ充テ又支水甲板ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ヨリ梁ノ
支點間ノ最大距離ノ二分ノ一ヲ減シタルモノ水艙頂面ノ支水甲板ニ於テハ高十二呎
未滿ナルトキハ之ヲ十二呎ト看做スヲ該表ノ
防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ニ充ツヘシ
支水甲板ノ厚ハ該甲板ヨリ支水隔壁ノ上端ニ至ル高水艙頂面ノ支水甲板ニ於テハ高十二呎
未滿ナルトキハ之ヲ十二呎ト看做スヲ
第九號甲表ニ掲クル防撓材ノ心距三十吋ナルトキノ隔壁ノ上端ヨリ隔壁板ノ下縁ニ

至ル深ニ充テ該表ニ依リ定メタル隔壁板ノ厚ヨリ〇・〇四吋増スヘシ又梁ノ心距三
十吋ヨリ異ナルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ増減スヘシ

前三項ノ規定ニ拘ラス支水甲板梁及支水甲板ノ寸法ハ本編第十三章及第二十章ニ依
ル梁及鋼甲板ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

支水甲板梁ニ取附クヘキ梁柱ノ上下兩端ノ固著釘ハ水壓力ニ耐フルニ充分ナル強力
ヲ有スルコトヲ要ス

第一百五十五條 區畫式二重底ニハ規定ノ支水隔壁ノ直下又ハ其ノ附近ニ水密肋板ヲ設
クヘシ

艙内支水隔壁ニ設クル支水戸ハ滿載吃水線以上ノ甲板ヨリ之ヲ容易ニ開閉シ得ヘキ
装置ト爲シ且石炭庫ニ面スルモノハ成ルヘク之ニ直接石炭ヲ觸レシメサル装置ト爲
スヘシ

第一百五十六條 縱通支水隔壁ノ構造及寸法ハ同高ノ横置支水隔壁ノ構造及寸法ニ準ス
ヘシ

第一百五十七條 車軸隧道板ノ厚ハ扁平ナル側部ニ於テハ第九號甲表ニ掲クル防撓材ノ

心距三十六吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクシ圓形ナル頂部ニ於テハ同表ニ掲クル防撓材ノ心距三十吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクスヘシ

艙口ノ直下ニ於テハ隧道頂板ノ厚ヲ○・一吋以上増スカ又ハ厚二吋以上ノ木板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第百五十八條 車軸隧道ニハ第九號戊表ニ掲クル防撓材ヲ三十六吋ノ心距ニ取附ケ其ノ下端ハ隧道板ノ下端ニ附スル山形材ニ固著スヘシ

隧道板ノ下端ニ附スル山形材ハ扁平ナル側部ニ於ケル隧道板ノ厚ヨリ○・一吋厚キモノヲ用キ一列釘ヲ以テ固著スヘシ

水艙ニ面スル車軸隧道板ニハ特ニ堅牢ナル防撓材ヲ取附クヘシ

第百五十九條 車軸隧道ハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ様水密ニ構造シ其ノ前端ノ出入口ニハ支水戸ヲ備ヘ滿載吃水線以上ノ甲板ヨリ容易ニ開閉シ得ヘキ装置ト爲スヘシ但シ該甲板ヨリ各軸受及船尾管ニ達シ得ヘキ水密構造ノ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

艙内ニ其ノ他ノ隧道ヲ設クルトキハ其ノ構造及寸法ハ車軸隧道ノ構造及寸法ニ準ス

ヘシ

第百六十條 船首尾隔壁ハ船首尾艙ニ滿載吃水線ニ相當スル高迄水ヲ滿タシ其ノ他ノ支水隔壁、支水甲板及車軸隧道等ニハ唧筒ヲ以テ布管内ノ水壓力三十封度以上ノ水ヲ注射シ其ノ水密ヲ試験スヘシ

第百六十一條 第二數一萬二千以下ノ汽船ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ本章第四百二十二條ニ規定スル支水隔壁ノ最下部ニ於ケル隔壁板ノ高及厚、本章第四百七條及第百五十四條ニ規定スル防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ノ制限並前條ニ規定スル布管内ノ水壓力ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

小形船ノ支水隔壁、支水甲板及車軸隧道ノ構造方法ハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第十三章 梁

第百六十二條 暴露甲板梁ノ梁矢ハ成ルヘク梁ノ長ノ五十分ノ一ト爲スヘシ

第百六十三條 各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ同一ノ肋骨ニ取附ケ且成ルヘク最上甲板迄副肋材ノ達スル肋骨ニ取附クヘシ

第六十四條 梁及梁枝ノ寸法ハ第十號甲表乃至丁表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ其ノ厚ヲ表ニ掲クルモノヨリ〇・〇二吋減スルコトヲ得
 梁枝ノ代リニ肘板ヲ用ウルトキハ其ノ幅及深ハ梁枝ノ深ニ等シク又其ノ厚ハ梁枝ノ厚ニ等シクスヘシ

甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ其ノ下層ノ梁及梁枝ハ適當ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第六十五條 梁ニ梁柱一列ヲ取附クルトキハ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ三分ノ二以下ノ長ヲ有スル梁ハ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第二行ニ掲クル寸法ト爲シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル梁ハ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

船ノ中央部ニ於ケル梁ニ梁柱二列ヲ取附クルトキハ梁柱列間ノ距離ハ船ノ幅ノ約三分ノ一ト爲シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ三分ノ二以下ノ長ヲ有スル梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第二行ニ掲クル寸法ト爲シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル

梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

船ノ中央部ニ於ケル梁ニ梁柱三列ヲ取附クルトキハ梁柱列間ノ距離ハ船ノ幅ノ約四分ノ一ト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル船ノ中央部ニ於ケル梁ト同寸法ノ梁ヲ用ウヘシ但シ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三以下ノ長ヲ有スル梁ハ梁柱二列ニ減シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル梁ハ梁柱一列ニ減スルコトヲ得

第六十六條 船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長三十四呎ヲ超ユル甲板ニ球山形梁ヲ肋骨一本置ニ取附クル場合ニ於テハ該梁上ニ鋼甲板ヲ張詰ムルカ又ハ適當ナル梁上帶板及斷切板梁下縦通材ヲ以テ該梁ヲ補強スルコトヲ要ス

第六十七條 長十呎ヲ超ユル艙口ノ兩端ニハ各甲板ニ於テ第十號乙表又ハ丙表ニ掲クル肋骨一本置ニ取附クヘキ梁ヲ設クヘシ

本編第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リ艙口側縁材ヲ補強シタル場合ニ於テ艙口ノ四隅ニ梁柱ノ設ナキトキハ艙口端梁ヲ適當ニ補強スヘシ

第百六十八條 各甲板ニ於ケル艙口及其ノ他ノ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ其ノ支點間ノ最大距離カ船ノ長ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一、三分ノ一又ハ四分ノ一ナルトキニ從ヒ第十號甲板、乙表又ハ丙表各欄第一行、第二行又ハ第三行ニ掲クル寸法ト爲スヘシ

半梁ノ支點間ノ最大距離カ前項ニ掲タルモノノ間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ

第百六十九條 艙口及其ノ他ノ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附クルトキハ縁材ノ厚ヨリ少カラサル厚ヲ有スル單山形材ヲ以テ又肋骨一本置ニ之ヲ取附クルトキハ二重山形材ヲ以テ縁材ニ固著スヘシ

前項ノ山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數ハ半梁ノ深七吋半以上九吋半以下ナルトキハ三箇、深十吋以上十二吋以下ナルトキハ四箇ト爲スヘシ

第百七十條 第二甲板以下ノ各層ノ甲板ニ石炭又ハ貨物ヲ積載セサルトキハ該甲板梁ノ寸法ハ同長ノ上甲板梁ニ要スルモノト同一ト爲スコトヲ得

船樓内ノ廣大ナル場所ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ其ノ直下ノ甲板梁ノ寸法ハ

同長ノ第二甲板梁ニ要スルモノト同一ト爲スヘシ
第百七十一條 左ニ掲クル梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附クヘシ

- 一 支水甲板梁
 - 二 深十五呎ヲ超ユル一層甲板船ノ上甲板梁船樓下ノモノヲ除ク 及長船橋樓甲板梁
 - 三 全通鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ木甲板ヲ張ラサル部分ノ上甲板梁船樓下ノモノヲ除ク 及長船橋樓甲板梁
 - 四 長四百五十呎ヲ超ユル船舶ノ上甲板梁船樓下ノモノヲ除ク 及長船橋樓甲板梁
 - 五 長四百五十呎ヲ超エ幅六十六呎ヲ超ユル船舶ノ船橋樓ノ部分ニ於ケル上甲板梁
 - 六 長四百五十呎ヲ超エ幅六十六呎以下ノ船舶ノ船橋樓兩端ヨリ船橋樓内ニ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ上甲板梁
 - 七 鋼甲板ヲ要スル甲板ニ於ケル艙口及其ノ他ノ甲板口ノ兩側ニ於テ木甲板ヲ張ラサル鋼甲板ニ附スル梁
 - 八 肋骨ノ心距二十七吋ヲ超ユル部分ノ甲板梁
- 前項各號ニ該當セサル場合ト雖甲板梁ノ心距ハ肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超ユヘカラス

第七十二條 機關室ニ於ケル特設梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノ又ハ肋骨ノ心距ニ等シキ幅ヲ有スル冠板ノ下面兩縁ニ板ヲ附シ板ノ上下兩端ニ山形材ヲ附シタル溝形ノモノナルコトヲ要ス

第七十三條 遮陽甲板、端艇甲板等ノ甲板梁ハ適當ノ寸法ト爲シ端艇其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ハ特ニ補強スヘシ

第七十四條 左ニ掲クル梁ニハ第十號甲板乃至丙表ニ掲クル梁一層ノミヲ有スル部分ニ於ケル汽船ノ同長ノ上甲板梁ニ用ウヘキ梁枝ヲ用ウヘシ

- 一 上甲板下ニ特設艙梁ヲ用キタル場合ニ於ケル上甲板梁
- 二 支水甲板梁

第七十五條 大形船ノ甲板一層ノミヲ有スル部分ノ肋骨毎ニ設クル上甲板梁ニハ左表ニ掲クル寸法ノ肘板ヲ取附クヘシ

船ノ深	肘板		厚法
	幅	深	
二十三呎ヲ超エ二十四呎以下	三十三吋	三十三吋	〇・五〇吋
二十四呎ヲ超ヘ二十五呎以下	三十六吋	三十六吋	〇・五二吋

二十五呎ヲ超ヘ二十六呎以下	三十九吋	三十九吋	〇・五四吋
二十六呎ヲ超エ二十七呎以下	四十二吋	四十二吋	〇・五四吋

肘板ノ各枝ノ幅四十二吋ノモノハ内側ヲ曲縁ト爲スヘシ

第七十六條 梁枝ノ曲部ニ於ケル深ハ梁枝ノ深ノ五分ノ三ヨリ少カルヘカラス

第七十七條 肘板ノ各枝又ハ梁枝ニ於ケル鉸釘ノ數及徑ハ左表ニ依ルヘシ但シ部分隔壁、防撓桁板等ト固著スヘキ場合ニ於テハ適當ニ鉸釘ノ數ヲ増ヌヘシ

梁枝又ハ肘板ノ深	鉸釘ノ數	鉸釘ノ徑
十七吋ヲ超エ二十一吋以下	四	四分ノ三吋
二十一吋ヲ超エ二十四吋以下	五	八分ノ七吋
二十四吋ヲ超エ二十八吋以下	六	八分ノ七吋
二十八吋ヲ超エ三十二吋以下	七	八分ノ七吋
三十二吋ヲ超エ三十六吋以下	八	八分ノ七吋
三十六吋ヲ超エ四十吋以下	九	八分ノ七吋

第十四章 特設艙梁

第七十八條 特設艙梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ有シ且梁板ト同寸法ノ冠板ヲ備フルモノト爲シ其ノ寸法及梁枝ノ寸法ハ第十號丁表ニ依ルヘシ

特設艙梁ノ山形材ハ其ノ廣邊ヲ水平ニ取附クヘシ

第七十九條 特設艙梁ノ心距ハ二十四呎ヲ超ユヘカラス

第八十條 特設艙梁ニハ左表ニ掲クル梁上側板ヲ設ケ幅ハ三吋半ニ三吋半厚ハ梁上側板ノ厚ニ等シキ二重山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且梁上側板ノ内縁ニ左表ニ掲クル球山形材又ハ之ト同一效力ヲ有スル溝形材ヲ取附クヘシ又該梁上側板ハ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ之ヲ支フルコトヲ要ス

第 二 數	最下甲板迄ノ艙内ノ深		
	二十呎以下	二十一呎ヲ超エ 二十三呎以下	二十三呎ヲ超エ 二十五呎以下
一萬八千二百ヲ超エ二萬六千四百以下	厚幅 〇・五八吋	厚幅 〇・六四吋	厚幅 〇・六八吋
二萬六千四百ヲ超エ三萬四千八百以下	厚幅 〇・五八吋	厚幅 〇・六四吋	厚幅 〇・六八吋
内縁ニ附スル球山形材	厚幅深 〇・五八吋 三吋半	厚幅深 〇・六四吋 三吋半	厚幅深 〇・六八吋 三吋半

第八十一條 特設艙梁ハ梁上側板ト同厚ニシテ長ハ肋骨ノ心距ノ四倍ニ等シク幅ハ肋骨ノ心距ノ二倍ニ等シキ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ又梁上側板ハ肘板ヲ以テ支水隔壁ニ取附クヘシ

第十五章 梁柱

第八十二條 長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ特設艙梁其ノ他本章ニ規定スル材料ノ厚ヲ〇・〇二吋減スルコトヲ得

第八十三條 梁柱ノ寸法ハ第十一號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ同表ニ掲クル梁柱ノ徑ヲ八分ノ一時減スルコトヲ得

各梁ニ取附クル梁柱ノ數ハ第十一號表及本編第六十五條ノ規定ニ從ヒ且船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長四十四呎ヲ超ユルトキハ二列以上、六十呎ヲ超ユルトキハ三列以上ト爲スコトヲ要ス

上層梁ニ梁柱ヲ設クルコトヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

シ之ニ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クヘシ

梁下縦通材ハ隔壁ニ於テ之ヲ止メ山形材ヲ以テ隔壁ニ固著スヘシ

第百八十四條 梁柱ノ長十呎ヲ超エ十八呎以下ナルトキ又ハ其ノ徑二吋八分ノ五ヲ超エ四吋以下ナルトキハ徑八分ノ七吋ノ鉸釘二箇、梁柱ノ長十八呎ヲ超エ二十四吋以下ナルトキ又ハ其ノ徑四吋ヲ超エ五吋以下ナルトキハ同鉸釘三箇、梁柱ノ徑五吋ヲ超ユルトキハ同鉸釘四箇以上ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ

二重底上ニ於ケル梁柱ノ下端ハ内底板ニ固著セル短山形材又ハ丁字形材ニ固著スヘシ
第百八十五條 艙口及其ノ他ノ甲板口側ニ於テハ第十一號表ニ掲クル梁柱二列ヲ取附クヘキ場合ノ梁柱ノ徑ニ二分ノ一時ヲ加ヘタル徑ヲ有スル梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ト爲スコトヲ得

艙口及其ノ他ノ甲板口側ニ於ケル梁柱ヲ肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超ユル距離ニ取附クルトキハ其ノ寸法及中心線ニ於テ艙口及其ノ他ノ甲板口ノ兩端梁ニ取附クル梁柱ノ寸法ハ本編第十六章ノ規定ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第百八十六條 特設艙梁ニ取附クル梁柱ノ寸法ハ其ノ上層ノ甲板梁ニ取附クヘキ同長

ノ梁柱ニ要スル寸法ト同一ト爲スコトヲ得

第百八十七條 第十一號表ニ掲クル中空梁柱ノ代リニ引拔鋼管ヲ用ウルトキハ其ノ厚ハ左表ニ依リ之ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル引拔鋼管ノ抗張力ハ一平方吋ニ付三十五噸以上、其ノ伸長ノ割合ハ八吋ノ標點間ノ長ニ於テ百分ノ十以上ナルコトヲ要ス

第十一號表ニ掲クル中空梁柱ノ厚	十六分ノ五吋	十六分ノ六吋	十六分ノ七吋	十六分ノ八吋	十六分ノ九吋	十六分ノ十吋	十六分ノ十一吋	十六分ノ十二吋
引拔鋼管ノ厚	三分ノ八吋	三分ノ九吋	三分ノ十吋	三分ノ十一吋	三分ノ十二吋	三分ノ十三吋	三分ノ十四吋	三分ノ十五吋

第百八十八條 重構船及輕構船ノ第二甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第三甲板ニ石炭若ハ貨物ヲ積載セサルトキハ該甲板梁ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ハ第十一號表ニ掲クルモノヨリ四分ノ一時ヲ、重構船及輕構船ノ第三甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第四甲板ニモ石炭若ハ貨物ヲ積載セサルトキハ該甲板ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ハ同表ニ掲クルモノヨリ二分ノ一時ヲ減スルコトヲ得
船樓内ノ上甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第二甲板ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ該甲板梁ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ヲ四分ノ一時ツツ増スヘシ

甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ其ノ下層ノ甲板間及
艙内ニ設クル梁柱ハ適當ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第百八十九條 艙内水艙ニ於テハ側梁柱ヲ設ケ其ノ頭部ニハ斷切板梁下縱通材ヲ取附
クヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百九十條 甲板室、檣、斜檣、揚錨機、操舵機、揚貨機、繫船機等ヲ支フル梁其ノ
他必要ノ箇所ニハ支柱ヲ設クルカ又ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第百九十一條 仕切板ヲ取附クル爲梁柱ヲ二重ニ設クルトキハ其ノ徑ハ單柱ニ要スル
徑ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第百九十二條 車軸隧道ニ梁柱ヲ取附クルトキハ隧道頂板ニ適當ノ補強構造ヲ爲スヘ
シ

第百九十三條 機關室内ノ梁ニハ成ルヘク梁柱ヲ取附クヘシ但シ眞直ナル石炭庫隔壁
又ハ圍壁ヲ以テ梁ヲ支ヘ且該隔壁又ハ圍壁ニ充分ノ防撓材ヲ設クルトキハ該部分ニ
於ケル梁柱ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第百九十四條 適當ノ構造ヲ有スル縱通隔壁ヲ設クルトキハ該部分ニ於ケル梁柱ハ之
ヲ省略スルコトヲ得

第百九十五條 船樓甲板、覆甲板又ハ遮浪甲板ノ上ニ二層以上ノ甲板ヲ設クルトキハ
其ノ下部ニ於ケル梁柱ハ適當ニ其ノ徑ヲ増スカ又ハ適當ノ構造ト爲スヘシ

第十六章 特設梁柱及特設梁下縱通材

第百九十六條 特設梁柱及特設梁下縱通材ヲ以テ普通ノ梁柱及梁下縱通材ニ代用スル
トキハ其ノ構造及寸法ハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十七條 特設梁柱ヲ構造スル各材ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ得タル數ト梁柱ノ長
トニ依リ第十二號表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ各材ノ
厚ヲ〇・〇二吋減スルコトヲ得

$$N = \frac{S \times B \times H}{100}$$

N ハ特設梁柱ヲ構造スル各材ノ寸法ヲ定ムル數
S ハ梁柱間ノ中心ヨリ次ノ梁柱間ノ中心ニ至ル船ノ首尾ニ沿ヒテ測リタル距離呎ニ

B ハ梁柱一列ヲ設クルトキハ其ノ頭部ニ於ケル甲板ノ幅ノ二分ノ一、梁柱二列ヲ設クルトキハ甲板ノ幅ノ三分ノ一、梁柱三列ヲ設クルトキハ甲板ノ幅ノ四分ノ一、

H ハ船樓ナキ部分ノ上甲板及船樓甲板ニ梁柱ヲ附スル場合ニ於テハ五、其ノ他ノ甲板ニ梁柱ヲ附スル場合ニ於テハ梁柱ヲ附スル梁以上ノ各甲板間ノ高ノ和ニ五ヲ加ヘタルモノトス

石炭又ハ貨物ヲ積載セサル甲板間ノ高ハ五呎ト看做ス

第百九十八條 第十二號表ニ掲クル筒形ノ特設梁柱ハ左表ニ依リ其ノ厚ヲ増ストキハ一平方呎ノ抗張力二十二噸以上二十七噸以下ヲ有スル鋼材ヲ用ウルコトヲ得

第十二號表ニ掲クル筒形梁柱ノ厚	〇・四吋	〇・四吋	〇・五吋	〇・五吋	〇・六吋	〇・六吋	〇・七吋	〇・七吋
	〇・四吋	〇・五吋	〇・五吋	〇・六吋	〇・六吋	〇・七吋	〇・七吋	〇・八吋
抗張力二十噸以上二十七噸以下ヲ有スル鋼材ヲ用ウルトキノ筒形梁柱ノ厚	〇・四吋	〇・五吋	〇・六吋	〇・六吋	〇・七吋	〇・七吋	〇・八吋	〇・八吋

第百九十九條 梁柱ヲ構造スル山形材ヲ互ニ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ヲ超ユルヘカラス又山形材ノ邊ノ幅五吋以上ナルトキハ千鳥形二列釘固著ト爲スヘシ筒形ノ梁柱ノ縦縁ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユルヘカラス

第二百條 梁柱臺ヲ設ケスシテ特設梁柱ヲ取附クルトキハ之ヲ肋板ト側桁板又ハ内龍骨板トノ交叉點ニ設クルカ又ハ梁柱直下ノ肋板ノ兩側ニ肘板ヲ設クヘシ

特設梁柱直下ニ於ケル肋板又ハ斷切板ニハ人孔ヲ設クヘカラス

第二百一條 梁柱ノ頭部又ハ踵部ハ梁柱ノ形狀ニ從ヒ適當ノ山形材及肘板又ハ平置板ヲ以テ堅牢ニ固著スヘシ

第二百二條 特設梁柱ヲ設クルトキハ特設梁下縦通材ヲ設クヘシ
 特設梁下縦通材ヲ構造スル各材ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ得タル數ト梁ノ深トニ依リ第十三號表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ各材ノ厚ヲ〇・〇二吋減スルコトヲ得

$$N_1 = \frac{S^2 \times B \times H}{100}$$

N₁ ハ特設梁下縦通材ヲ構造スル各材ノ寸法ヲ定ムル數

S ハ梁柱ノ中心ヨリ中心迄船ノ首尾ニ沿ヒテ測リタル距離^呎

B ハ梁柱一列ヲ設クルトキハ之ヲ取附クル甲板ノ幅ノ二分ノ一、梁柱二列ヲ設ク

ルトキハ甲板ノ幅ノ三分ノ一、梁柱三列ヲ設クルトキハ甲板ノ幅ノ四分ノ一一呎ニテ
 H ハ船樓ナキ部分ノ上甲板及船樓甲板ニ特設梁下縦通材ヲ附スル場合ニ於テハ五、
 其ノ他ノ甲板ニ特設梁下縦通材ヲ附スル場合ニ於テ梁柱ヲ豎ニ一直線ニ附シタ
 ルトキハ特設梁下縦通材ヲ附スル梁ノ上面ヨリ其ノ直上ノ梁ノ上面迄ノ高又梁
 柱ヲ豎ニ一直線ニ附セサルトキハ特設梁下縦通材ヲ附スル梁以上ノ各甲板間ノ
 高ノ和ニ五ヲ加ヘタルモノ呎ニテ
 石炭又ハ貨物ヲ積載セサル甲板間ノ高ハ五呎ト看做ス

第二百三條 特設梁下縦通材ヲ構造スル溝形材、山形材、斷切板及冠板ハ成ルヘク長
 材ヲ用キ其ノ接合ハ衝接ト爲シ覆板ヲ附スルカ又ハ之ヲ累接ト爲シ堅牢ニ固著スヘ
 シ

特設梁下縦通材ノ山形材ハ其ノ狹邊ヲ豎ニ取附クヘシ

第二百四條 特設梁下縦通材ノ溝形材ハ溝形梁ナルトキハ其ノ下邊ニ、山形梁又ハ球
 山形梁ナルトキハ梁ニ附スル短山形材ニ二個ノ鉸釘ヲ以テ固著シ又山形材ヲ溝形材
 ニ代用スルトキハ肋骨毎ニ梁ヲ取附クル場合ニ於テハ交互ニ縦通材ノ下端ト梁ノ下

端トニ達スル豎山形材ヲ以テ、肋骨一本置ニ梁ヲ取附クル場合ニ於テハ梁毎ニ縦通
 材ノ下端ニ達スル豎山形材ヲ以テ斷切板ヲ梁ニ固著スヘシ

第二百五條 特設梁下縦通材ヲ隔壁ニ固著スルニハ幅ハ第十三號表ニ掲クル特設梁下
 縦通材ノ溝形材ノ深ノ三倍ニ等シク厚ハ該溝形材ノ厚ニ等シキ肘板ヲ用ウヘシ

第二百六條 特設梁下縦通材ノ斷切板ヲ鋼甲板及梁ニ取附クル山形材ノ厚ハ斷切板ノ
 厚ニ等シクシ又山形材ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑四分ノ三吋ナルトキハ幅三吋
 ニ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半ト爲スヘシ

第二百七條 特設梁下縦通材ノ溝形材又ハ豎邊ノ幅四吋以上ノ山形材ハ千鳥形二列釘
 ヲ以テ相互ニ固著スヘシ

特設梁下縦通材ノ溝形材又ハ山形材ヲ相互ニ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍又鋼
 甲板ニ取附クル斷切山形材ノ兩邊ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ト爲スヘシ

第十七章 外板及舷牆

第二百八條 外板ノ寸法ハ第十四號表、第十五號表及第二十號表ニ依リ中央部ニテ船

ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

螺旋汽船ニ於テ船尾骨材ニ固著スヘキ外板ハ其ノ厚ヲ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ等シクスヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

錨鎖孔ノ部分ニ於ケル外板ハ適當ニ其ノ厚ヲ増スカ又ハ之ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百九條 上下ニ鄰接スル外板ノ横縁ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲シ又一條ヲ隔テタル外板ノ横縁ノ距離ハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ

上甲板又ハ長船橋樓甲板ノ舷側厚板ノ横縁ト之ニ附スル梁上側板ノ横縁トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ

兩舷ニ於ケル龍骨ニ鄰接スル外板ノ横縁ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲シ且平板龍骨ノ横縁又ハ方形龍骨ノ嵌接ト適當ニ避距スヘシ

前三項ノ規定ハ船ノ首尾ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百十條 第十八號表ニ規定スル固著方ヲ適用シ得ヘキ外板ノ幅ハ船ノ深ニ依リ左表ニ掲クルモノヨリ大ナルヘカラス

船ノ深	外板ノ最大幅
二十呎ヲ超エ二十四呎以下	五呎十寸四時
二十四呎ヲ超エ二十八呎以下	六呎十寸六時
二十八呎ヲ超ユルモノ	七呎十寸二時

前項ニ規定スル幅ヲ超ユル外板ノ横縁ノ固著ハ適當ニ釘列ヲ増スヘシ

第二百十一條 中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ニ於テ頂部外板ニ徑十吋以上ノ舷窓其ノ他ノ孔口ヲ設クルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ但シ短キ船樓ノ頂部外板ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二百十二條 舷牆板ニハ六呎ノ距離ニ支柱ヲ取附クヘシ但シ船橋樓ノ兩端及長キ船尾樓前端ノ隔壁ニ接スル部分ニ於テハ支柱ハ特ニ其ノ寸法ヲ増シ且隔壁ヨリノ距離ヲ五呎ト爲スヘシ

船橋樓ノ兩端及船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船首尾樓端ニ接スル舷牆板ハ特ニ其ノ厚ヲ増シ肘板ヲ以テ之ヲ隔壁ニ固著シ又其ノ排水口ノ四隅ハ圓形ト爲シ且縁環ヲ取附

クヘシ
出入口ヲ設クル爲舷牆板ヲ斷切スルトキハ其ノ兩端ニ設クル支柱ハ特ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第十八章 覆板及縱橫緣

第二百十三條 外板、内底板、縱通桁板、梁上側板、梁上帶板、鋼甲板、肋板、内龍骨板等ノ橫緣覆板ノ幅及厚、縱橫緣累接ノ幅及縱橫緣ノ釘列ハ第十六號表及第十八號表ニ依ルヘシ

第二百十四條 外板ヲ二重張ト爲ストキハ其ノ内外板トモ衝接ニハ覆板ヲ附シテ前條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中央及縱緣ニ於テ相互ニ固著スヘシ

第二百十五條 外板ノ衝接ニ用ウヘキ二重覆板ノ外部ニ附スル覆板ハ一列釘少ナキ固著ニ要スル覆板ノ幅ト爲シ一列釘少ナキ固著ト爲スコトヲ得

第二百十六條 本章ノ規定ニ依ル二重覆板三列釘ハ五列釘累接ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

トヲ得

第十九章 鉸釘及固著方

第二百十七條 鉸釘ノ徑ハ第十六號表ニ依リ固著スヘキ板ノ厚キモノヲ表中ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ

肋骨ト外板トヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ肋骨ノ縱邊ノ幅三吋ヲ超エサルトキハ八分ノ七吋ヲ、縱邊ノ幅三吋半ナルトキハ一吋ヲ超ユルヘカラス

外板ヲ船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定メタル鉸釘ノ徑八分ノ五吋以下ナルトキハ八分ノ一吋ヲ、徑四分ノ三吋以上ナルトキハ四分ノ一吋ヲ増スヘシ但シ一吋四分ノ一ヲ超ユルコトヲ要セス

第二百十八條 外板ト船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘トヲ固著スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外二列釘ヲ用ウヘシ

第二百十九條 二列以上ノ鉸釘ヲ要スル接合ニ於テハ鉸釘ノ配置ハ竝列法ヲ用ウヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 外板ヲ船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ニ固著スルトキ
- 二 肋板及特設肋骨板ヲ接合スルトキ
- 三 外板ノ縦線ニ三列釘ヲ用ウルトキ
- 四 山形材ノ固著ニ二列釘ヲ用ウルトキ
- 五 特別ノ規定アルトキ

第二百二十條 鉸釘ハ固著スヘキ板、山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上ト爲スヘシ
 板ノ縦線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二・五倍以上ト爲スヘシ
 板ノ横線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ衝接ニ在リテハ釘徑ノ三倍、累接ニ在リテハ釘徑ノ三・五倍ト爲スヘシ

第二百二十一條 板ノ横線ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ウル場合ニ於テハ衝接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但シ第二數一萬六千ヲ超ユル船舶ニ在リテハ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五・二五倍ヲ超ユヘカラス
 本編第二百十五條ニ規定スル二重覆板ノ内部ニ附スル覆板ノ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ト爲スコトヲ得

第二百二十二條 鉸釘ノ心距ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 釘徑ノ三・五倍ト爲スヘキ場合
 四列釘及五列釘累接並ニ二重覆板衝接ノ場合ヲ除クノ外外板及梁上側板ノ横線
- 二 釘徑ノ四倍ト爲スヘキ場合
 イ 船ノ首尾ニ於ケル外板ノ縦線
 ロ 四列釘累接ノ横線及二重覆板衝接
 ハ 鋼甲板、縦通桁板、梁上帶板及肋板ノ横線
 ニ 内底板及縁板ノ縦横線
 ホ 肘板ヲ附セサル支水隔壁豎防撓材ノ上下兩端ニ於テ其ノ長ノ百分ノ十五ノ間ニ於ケル固著
- 三 釘徑ノ四・五倍ト爲スヘキ場合
 イ 五列釘ノ累接ノ横線
 ロ 暴露甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材及縁板ト外板トノ固著用山形材ノ固著
 ハ 鋼甲板ノ縦線

ニ支水隔壁板及車軸隧道板ノ縱橫縁

ホ支水隔壁板ト外板、甲板、車軸隧道板及二重底トノ固著用山形材並車軸隧道

板ト二重底トノ固著用山形材ノ固著但シ本條第四號ニノ場合ヲ除ク

四 釘徑ノ五倍ト爲スヘキ場合

イ船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ト外板トノ固著

ロ平板龍骨ニ附スル山形材ノ固著

ハ肋板ト中心線桁板トノ固著用山形材ノ固著

ニ支水隔壁板ト外板トノ固著用山形材ト外板トノ固著

ホ橋板ノ縱橫縁

ヘ船尾艙ニ於ケル肋板及兩舷結合板ト正肋材トノ固著

五 釘徑ノ五・五倍ト爲スヘキ場合

イ船首尾水艙及艙内水艙ニ於ケル外板ト肋骨トノ固著

ロ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一間ニ於ケル船底外板ト正肋材トノ固著

ハ副肋材ヲ附シタル溝形肋骨ト外板トノ固著

六 釘徑ノ六倍ト爲スヘキ場合

イ肋骨一本置ニ附シタル單邊梁ト鋼甲板及梁上側板トノ固著

ロ深十一吋ヲ超ユル肋骨ト外板トノ固著

ハ心距二十六吋ヲ超ユル肋骨ト外板トノ固著

七 釘徑ノ七倍ト爲スヘキ場合

イ肋骨ト外板トノ固著但シ前數號ニ掲クル場合ヲ除ク

ロ正肋材、副肋材、肋板及内龍骨各材ノ固著

ハ梁用山形材ト梁板トノ固著

ニ暴露セサル甲板及艙梁ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ固著

ホ梁ト鋼甲板及梁上側板トノ固著但シ本條第六號イノ場合ヲ除ク

ヘ特設肋骨及特設肋骨間側板ノ内縁ニ附スル山形材ノ固著

ト支水隔壁及車軸隧道ノ防撓材ノ固著但シ本條第二號ホノ場合ヲ除ク

チ縱通桁板ニ附スル縱通山形材及肋板ト側桁板トノ固著用山形材ノ固著

第二百二十三條 第三號甲板ニ依ル肋骨ヲ用ウルトキハ正肋材ト副肋材トヲ固著スル

鉸釘ノ心距ハ正肋材ト外板トヲ固著スル鉸釘ノ心距ニ等シクスヘシ

第二百二十四條 舷側厚板ハ厚〇・八四吋以下ナルトキ、龍骨ヨリ彎曲上部ニ至ル間ノ外板ハ船ノ中央部ニ於テ厚〇・三六吋ヲ超ユルトキ又彎曲上部ヨリ上部ノ外板ハ船ノ中央部ニ於テ厚〇・四八吋ヲ超ユルトキハ其ノ縱縁ハ船ノ首尾ヲ通シテ二列釘固著ト爲スヘシ但シ之ヨリ薄キ外板並第二數四千百以下ノ船舶ノ舷側厚板及龍骨翼板ノ縱縁ハ一列釘固著ト爲スコトヲ得

厚〇・八四吋ヲ超ユル側外板ノ縱縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ四間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

長四百八十呎ヲ超ユル船舶ニ在リテハ側外板ノ厚〇・八四吋以下ノ場合ト雖船ノ前後部ニ於テ各船ノ長ノ四分ノ一間船ノ深ノ約三分ノ一ニ相當スル場所ノ縱縁ハ三列釘固著ト爲スヘシ

長四百五十呎ヲ超エ四百八十呎以下ノ船舶ニ在リテハ其ノ長ニ比例スル割合ニ應シ前項ニ記載スル部分ニ於ケル外板ノ縱縁ヲ適當ナル長ノ間三列釘固著ト爲スヘシ

第二百二十五條 長三百五十呎ヲ超ユル單螺旋汽船ニ在リテハ螺旋軸管ノ下部ニ限り

外板ヲ推進器柱ニ固著スルニハ三列釘ヲ用ウヘシ

第二百二十六條 外板ノ縱縁カ二列釘固著ナルトキハ縱縁ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘一箇ヲ用ウヘシ但シ外板又ハ肋骨ヲ屈曲シテ填板ヲ附セサル船舶ニ在リテハ縱縁ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘二箇ヲ用ウヘシ

外板ノ縱縁カ三列釘固著ナルトキハ縱縁ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘二箇ヲ用ウヘシ

第二百二十七條 梁上側板及船側縱通材ノ斷切板等ヲ外板ニ固著スヘキ山形材ノ兩邊ニハ各肋骨間ニ於テ肋骨ノ心距二十六吋以下ナルトキハ四箇、二十六吋ヲ超エ三十吋以下ナルトキハ五箇、三十吋ヲ超エ三十三吋以下ナルトキハ六箇ノ鉸釘ヲ用ウヘシ但シ肋骨ノ心距二十二吋以下ナルトキハ釘數ヲ三箇ニ減スルコトヲ得

第二百二十八條 特設肋骨板ト特設肋骨間側板トヲ接續スル覆板ニ用ウル鉸釘ノ徑及數ハ第五號表ニ依ルヘシ

第二百二十九條 船ノ中央部ノ肋骨間ニ於ケル外板縱縁ノ各列ノ鉸釘ノ數ハ第十七號表ニ依ルヘシ

第二十章 木甲板及鋼甲板

第二百三十條 木甲板ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ

船ノ長	梁ニ木甲板ノミヲ張ル場合			
	暴露セサル甲板	暴露セサル上甲板、船樓甲板、波浪甲板及第二甲板以下ノ甲板	暴露セサル上甲板、船樓甲板	暴露セサル上甲板、船樓甲板及遮浪甲板
二百呎以下	堅材	堅材	堅材	堅材
二百呎以上二百六十呎以下	二吋半	三吋	三吋	三吋半
二百六十呎以上二百九十呎以下	二吋半	三吋	三吋	三吋半
二百九十呎以上	二吋半	三吋	三吋	三吋半

第二百三十一條 削除

第二百三十二條 木甲板ノ固著釘ノ寸法ハ左表ニ依ルヘシ

木甲板ノ厚	固著釘ノ徑	
	柔材	堅材
三吋半以上四吋以下	三分ノ一吋	三分ノ一吋
三吋以上三吋半以下	二分ノ一吋	二分ノ一吋
三吋以下	二分ノ一吋	二分ノ一吋

第二百三十三條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ螺釘一箇ヲ、幅六吋ヲ超ユルトキハ

二箇ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ但シ幅八吋以下ナルトキハ其ノ一箇ハ捩込釘ヲ使用スルコトヲ得

梁上ニ鋼板ヲ張リタルトキハ木甲板ハ該鋼板ニ之ヲ固著スヘシ

第二百三十四條 副汽罐臺、揚錨機、操舵機、揚貨機、繫船機等ヲ取附クル甲板ノ部分ニハ鋼板ヲ張ルヘシ但シ小形船ニ付テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百三十五條 甲板上ノ舷側ニ水道ヲ設クルトキハ水道ノ内側ニ取附クヘキ山形材ノ厚ハ左表ニ掲クル厚ヨリ少カルヘカラス

木甲板ノ厚	山形材ノ厚
二吋	〇・三〇吋
二吋半	〇・三四吋
三吋	〇・四〇吋
三吋半	〇・四四吋
四吋	〇・五〇吋

第二百三十六條 鋼甲板又ハ鐵甲板上ニ木甲板ヲ張ラサル場合ニ於テ甲板梁ヲ肋骨一

本置ニ取附クルトキハ鋼甲板又ハ鐵甲板ノ厚ハ左表ニ掲クル厚ヨリ少カルヘカラス

梁ノ心距	中央部ニ於ケル厚
四十二吋以上四十四吋以下	○・三六吋 十六分ノ六吋
四十六吋以上五十四吋以下	○・四〇吋 十六分ノ七吋

第二百三十七條 鋼甲板ヲ要スル場合及其ノ厚ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ依ルヘシ

二層ノ鋼甲板ヲ要スル船舶ノ第二甲板ノ梁上側板及鋼甲板ノ厚ハ長船橋樓ヲ有スル部分ニ於テハ第三甲板ニ要スルモノニ等シクスルコトヲ得但シ鋼甲板ノ厚ハ○・三六吋ヨリ少カルヘカラス

第二百三十八條 中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一間ハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ

第二百三十九條 鋼甲板上ニ木甲板ヲ張ラサル船橋樓甲板及上甲板ニ斷切板梁下縱通材ノ設ナキトキハ船ノ中央部ニ於テ艙口、機關室口、甲板室等ノ緣材間ニ特ニ斷切板梁下縱通材ヲ設ケ之ヲ緣材ニ累接スルカ又ハ肘板ヲ以テ緣材ニ固著スヘシ但シ長

キ船橋樓下ノ上甲板ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ梁下縱通材ト緣材トカ同一線上ニ來ラサルトキハ適當ナル距離ノ間該縱通材ト緣材トヲ相累スルコトヲ要ス

第二百四十條 長船橋樓甲板又ハ上甲板ニ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ該甲板ニ大ナル幅ヲ有スル艙口其ノ他ノ口ヲ設クルトキハ口ノ四隅ニ二重張板ヲ爲シ又口ノ幅カ船ノ幅ノ十分ノ三ヨリ大ナルトキハ口ノ幅カ船ノ幅ノ十分ノ三ナルトキト同一效力ナラシムル様口ノ兩側ノ鋼甲板ノ厚ヲ適當ノ長ノ間増加スヘシ

前項ノ甲板ヨリ下方ノ甲板ニ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ該甲板ニ船ノ幅ノ二分ノ一ヨリ大ナル幅ヲ有スル艙口其ノ他ノ口ヲ設クルトキハ前項ニ準シ補強ヲ爲スヘシ

第二百四十一條 長船橋樓甲板、上甲板及第二甲板ノ梁上側板竝之ニ鄰接スル鋼甲板ニ甲板口ヲ設クルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第二百四十二條 暴露甲板ニハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射シ其ノ水密ヲ試驗スヘシ甲板上ノ水道ニハ水ヲ滿タシ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第二十一章 梁上側板及梁上帶板

第二百四十三條 梁上ニハ梁上側板ヲ設クヘシ

上甲板及長船橋樓甲板ノ梁上側板ハ第十五號表ニ、第二甲板以下ノ梁上側板ハ第九號表ニ依リ其ノ寸法ヲ定メ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ幅及厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

短船樓甲板ノ梁上側板ノ寸法ハ第二十號表ニ依ルヘシ

第二百四十四條 梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ依ルヘシ但シ上甲板ニ於ケル山形材ノ寸法ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ減シ首尾ニ至リ第十九號表末行ニ掲クル首尾兩端ニ於ケル船樓下ノ上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ト同一ト爲スコトヲ得

第二百四十五條 鋼甲板ヲ備フル甲板梁及特設艙梁ヲ除クノ外各層梁上ニハ船ノ首尾ヲ通シテ梁上帶板ヲ二條宛設ケ其ノ寸法ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ依リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

第二百四十六條 削除

第二十二章 船首肘板、船尾肘板及船首尾防撓構造

第二百四十七條 縱通材ノ首尾兩端ハ第四號表ニ掲クル船ノ中央部ニ於ケル肋板ノ厚ニ等シキ船首尾肘板ヲ以テ之ヲ接續シ艙梁ノ下部ニ於テハ約四呎ノ距離ニ肘板ヲ附シ又第二數一萬八千二百ヲ超ユル船舶ニ在リテハ各層梁間ノ中央ニ於テ肘板ヲ設クヘシ

第二百四十八條 船首尾艙ニ於テハ上甲板ヨリ船底迄八呎ヲ超エサル距離ニ層梁ヲ設クヘシ

第二百四十九條 船首隔壁ノ後部ニハ防撓梁及梁上側板又ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨及特設肋骨間側板ヲ設クヘシ
前項ノ防撓梁ニ取附クヘキ梁上側板又ハ特設肋骨間側板ハ二重山形材ヲ以テ外板ニ固著シ肋骨毎ニ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ但シ第二數一萬一千以下ノ船舶ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百五十條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ船尾ニモ適當ノ防撓梁及梁上側板

又ハ特設肋骨ヲ附セシムルコトヲ得

第二十三章 機關室

第二百五十一條 機關室ニハ特設肋骨、特設梁等ヲ以テ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第二百五十二條 機關臺ハ適當ニ構造シ縱通帶板ヲ以テ各部ヲ接續スヘシ又高速力ノ

船舶ノ汽機臺ハ成ルヘク之ヲ船側ニ接續スヘシ

第二百五十三條 汽罐ノ爲隔壁ヲ屈折スルトキハ汽罐ノ周圍ヲ檢查スルニ充分ナル場

所ヲ隔壁ト該汽罐トノ間ニ設クヘシ

汽罐ノ頂部ト汽罐室ノ上部ニ於ケル甲板トノ間ニハ適當ノ間隔ヲ殘スヘシ

第二百五十四條 石炭庫ノ隔壁及船艙ニ接スル汽罐室ノ隔壁ハ充分汽罐、煙道及煙突

ト隔離シ且檢查官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ間ニ隔板ヲ設クルカ又ハ適當ノ

防熱方法ヲ施スヘシ

汽罐ニ接スル汽罐室ノ隔壁ノ船艙ニ面スル部分ニハ適當ノ空隙ヲ殘シ内張板ヲ張ル

ヘシ

第二百五十五條 副汽罐ヲ甲板上ニ置クトキハ其ノ下部ニ當ル甲板ハ厚二吋ヨリ少カ

ラサル煉瓦又ハ「セメント」ヲ以テ被フヘシ

第二十四章 機關室口

第二百五十六條 機關室口ノ周圍ニハ緣材ヲ取附ケ最下層甲板以上ニ圍壁ヲ設クヘシ

前項ノ圍壁ニハ成ルヘク横ニ區畫壁ヲ設ケ適宜ニ分畫シテ其ノ防撓力ヲ増シ且頂部

ニハ山形梁ヲ設ケ其ノ兩側ヲ接續スヘシ

第二百五十七條 暴露甲板ニ設クル機關室口ニハ甲板上十八吋ヨリ低カラスシテ甲板

梁ノ下端ニ達スヘキ緣材ヲ設ケ之ニ甲板上ノ高約七吋ノ鋼製圍壁ヲ取附クヘシ但シ

全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ甲板上緣材ノ高ヲ十二吋迄ニ減シ又圍壁頂板ノ

開口ニ高九吋ヨリ低カラサル緣材ヲ取附ケ之ニ鋼製ノ蓋板ヲ備フルトキハ甲板上圍

壁ノ高ヲ四呎迄ニ減スルコトヲ得

船橋樓甲板又ハ船尾樓甲板ニ設クル機關室口ニハ緣材ノ高ヲ二呎以上ト爲ストキハ

前項ノ圍壁ヲ設ケサルコトヲ得

甲板間ニ於ケル機關室口ノ圍壁ハ上下兩層ノ甲板梁ニ固著スヘシ

暴露甲板ニ設クル圍壁ノ厚ハ船尾樓ニ要スル外板ノ厚ニ等シク縁材ノ厚ハ之ニ〇・〇六吋ヲ増シタルモノト爲シ圍壁ニハ堅ニ三十吋ノ距離ニ防撓材ヲ縁材ヲ通シテ取附クヘシ但シ遮浪甲板及船樓甲板上ノ圍壁竝直接波浪ヲ受ケサル部分ニ於テハ圍壁ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得

本條ノ規定ハ小形船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百五十八條 暴露甲板ニ於ケル機關室口ノ圍壁ニハ甲板上十八吋以上ノ高ニ於テ

出入口ヲ設クルコトヲ得但シ之ヲ設ケタルトキハ鋼製ノ戸ヲ備フヘシ

遮浪甲板及船樓甲板低船尾樓甲板ヲ除クニ在リテハ前項ノ高ハ之ヲ十二吋迄ニ減スルコトヲ得

本條ノ規定ハ小形船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百五十九條 汽機室口ノ天窓ハ堅牢ニ縁材ニ固著シ天窓頂板ヲ鋼板ニテ構造セサルトキハ適當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

汽機室口ノ頂部ニ格子蓋ヲ備フルトキハ鋼製ノ蓋板ヲ設ケ蝶鉸ヲ以テ圍壁ニ固著スヘシ

第二百六十條 汽機室口又ハ汽罐室口ノ長十五呎ヲ超ユルカ又ハ其ノ合長三十呎ヲ超

ユルトキハ其ノ兩側ニ於テ梁上側板ト梁上帶板トノ間ニ鋼板ヲ張詰メ之ヲ其ノ前後

ニ於テ梁ノ心距ノ二倍延長シ尙之ヨリ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ

會セシムヘシ

汽機室口、汽罐室口、艙口等ノ大ナル甲板口カ相接近スルトキハ該口間ノ甲板ニハ

鋼板ヲ張詰ムヘシ

第二十五章 艙口及其他ノ甲板口

第二百六十一條 艙口ノ縁材及船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一間ニ在ル暴露セル甲板ノ出入口ハ鋼製ト爲スヘシ

第二百六十二條 艙口、載炭口及其他ノ甲板口ノ縁材ノ高ハ左表ニ依ルヘシ但シ小ナル載炭口ノ縁材ノ高ハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

甲板ノ位置及名稱	艙口及載炭口	出入口、天窓等
暴露セル上甲板(全通船樓甲板及遮浪甲板ヲ除ク)		
暴露セル船樓甲板及遮浪甲板	二十 四 吋	十 八 吋
船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ場所	十 八 吋	十 二 吋
船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ノ場所	十 吋	十 吋
閉鎖装置ヲ備ヘサル開口ヲ有スル部分	九 吋	九 吋
開口ニ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル第二級閉鎖装置又ハ同一效力ノ閉鎖装置ヲ備フル部分		

前項ニ掲クルモノヲ除クノ外第二甲板以下ノ甲板又ハ完全ナル閉鎖装置ヲ備フル船樓内ノ甲板ノ艙口ニ於テハ其ノ周圍ニ山形材等ヲ取附クルトキハ縁材ヲ甲板上ニ延長セシメサルモ妨ナシ

第二百六十三條 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口ノ縁材ノ厚ハ〇・四四吋以上ト爲スヘシ

前條第二項ニ掲クル第二甲板以下ノ甲板又ハ完全ナル閉鎖装置ヲ備フル船樓内ノ甲板ニ於ケル艙口ノ側縁材ノ厚ハ〇・五吋以上、端縁材ノ厚ハ〇・四吋以上ト爲スヘシ

又甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ適當ニ側縁材ノ厚ヲ増スヘシ

小ナル艙口及長二百呎以下ノ船舶ノ艙口ニ於テハ前二項ニ規定スル縁材ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得

第二百六十四條 艙口ノ側縁材ハ艙口ノ兩側ニ設クヘキ半梁ノ下端ニ達セシメ又暴露セル甲板ニ設クル艙口ノ端縁材ハ之ヲ甲板下ニ延長シ艙口兩端梁ニ固著スヘシ

第二百六十五條 艙口ノ側縁材ト端縁材トヲ豎山形材ヲ以テ接續スルトキハ該山形材ノ厚ハ側縁材ノ厚ヨリ少カルヘカラス

艙口ノ側縁材又ハ端縁材ヲ鋼甲板又ハ梁上帶板ニ固著スル山形材ノ厚ハ固著スヘキ縁材ノ厚ヨリ少カルヘカラス又其ノ豎邊ノ幅ハ木甲板ヲ張ル場合ニ於テハ該甲板ノ厚ヨリ二分ノ一時大ナラシムヘシ

前項ノ山形材ハ本章第二百六十二條第一項ニ依リ縁材ノ高ヲ規定シタル艙口ノ四隅ニ於テハ之ヲ鍛接スヘシ

第二百六十六條 縁材ノ甲板上ノ高二十四吋以上ノ艙口ニシテ其ノ長十呎ヲ超ユルトキハ側縁材ノ上部ニ又幅十呎ヲ超ユルトキハ端縁材ノ上部ニ幅七吋以上ノ球山形材

ヲ水平ニ取附ケ縁材ヲ補強スヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ球山形材ノ寸法ヲ適當ニ減スルコトヲ得

長又ハ幅十呎ヲ超ユル艙口ニ甲板上ノ高三十吋ヲ超エ三十六吋以下ノ縁材ヲ取附クルトキハ前項ニ規定スル球山形材ノ外十呎以内ノ距離ニ該球山形材ヨリ甲板ニ達スル肘板又ハ支柱ヲ取附ケ縁材ヲ補強シ又甲板上ノ高三十六吋ヲ超ユル縁材ヲ取附クルトキハ尙適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第二百六十七條 長十呎ヲ超ユル艙口ノ側縁材ハ半梁ノ下端ニ於テ六吋曲縁ト爲スカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ補強スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

長十呎ヲ超ユル艙口ニ於テ側梁柱ノ心距肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超ユル場合又ハ側梁柱ヲ縁材ヨリ十八吋ヲ超ユル距離ニ設クル場合ニ於テハ重量ヲ支持スル爲側縁材ノ下端ヲ六吋ヲ超エテ曲縁ト爲スカ又ハ側縁材ノ下端ニ球山形材等ヲ取附クヘシ
前項ノ場合ニ於テハ半梁、側縁材、曲縁部又ハ球山形材等ヲ接續スル肘板ヲ肋骨一本置ニ設ケ之ヲ縁材ニ取附クル山形材ハ半梁ノ上面ヨリ縁材ノ下端ニ達セシムヘシ

第二百六十八條 艙口ノ周圍ニ鋼甲板ヲ張ラサルトキハ艙口端梁ニ鋼板ヲ附シ之ニ木甲板ノ端末ヲ固著シ又艙口ノ兩側ニハ梁上帶板ト同一ノ寸法ヲ有スル鋼板ヲ附シ之ニ縁材ヲ取附クヘシ

長十六呎ヲ超エ二十二呎以下ノ艙口側ニ鋼甲板ヲ張ラサル時ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ掲クル梁上帶板ノ二倍ノ幅ヲ有スル梁上帶板ヲ艙口側ニ附シ之ヲ艙口ノ前後ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍ノ所迄延長シ之ニ縁材ヲ取附クヘシ

第二百六十九條 長二十二呎ヲ超ユル艙口ヲ上甲板又ハ船樓甲板ニ設クルトキハ其ノ兩側ニ鋼甲板ヲ張詰メ艙口ノ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セシムヘシ

長三十呎若ハ幅二十呎ヲ超ユル艙口ヲ設クルカ又ハ船體ニ比シ過大ナル長若ハ幅ヲ有スル艙口ヲ設クルトキハ必要ニ應シ其ノ兩側ニ於ケル鋼甲板、艙口兩端梁及縁材ノ寸法ヲ増シ且特設肋骨若ハ二重副肋材ヲ附スルカ又ハ肋骨ノ深ヲ増シテ該部ヲ補強スヘシ

第二百七十條 艙口ノ仕切板梁及縦材ノ數及寸法ハ縁材ノ高二十四吋以上ヲ要スルモ

ノ及石炭又ハ貨物ヲ積載スル甲板ニ設クルモノニ在リテハ第二十一號甲板、其ノ他
ノモノニ在リテハ同號乙表ニ依ルヘシ

長百呎以下ノ船舶ニ在リテハ仕切板梁ノ深ハ第二十一號甲板又ハ乙表ニ掲クルモノ
ノ十分ノ六、球板縦材及球山形縦材ノ深ハ同表ニ掲クルモノノ十分ノ八ト爲シ其ノ
厚ハ同表中該深ニ等シキ深ヲ有スルモノノ厚ニ等シクシ又木製縦材ノ深及幅ハ同表
ニ掲クルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得但シ仕切板梁ノ厚ハ〇・三吋ヨリ又中央木
製縦材ノ幅ハ六吋半ヨリ少カルヘカラス

長百呎ヲ超エ二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ仕切板梁及縦材ノ寸法ハ第二十一號甲板
又ハ乙表ニ掲クルモノト前項ニ依ルモノトニ依リ挿間法ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二百七十一條 仕切板梁ノ兩端ニ於ケル深ハ中央ノ深ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得但
シ六吋ヨリ少カルヘカラス

第二百七十二條 仕切板梁及縦材ノ長又ハ心距カ第二十一號甲板及乙表ニ掲クルモノ
ノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ

第二百七十三條 甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ該甲

板間ニ設クル艙口ノ仕切板梁及縦材ノ寸法ハ適當ニ之ヲ増スヘシ

第二百七十四條 艙口蓋板ノ支點ノ間隔ハ四呎六吋ヲ超ユヘカラス但シ第二十一號乙
表ニ依リ構造シタル仕切板梁及縦材ヲ有スル艙口ニ於テハ五呎六吋ト爲スコトヲ得
仕切板梁ノ心距ハ十呎ヲ超ユヘカラス

第二百七十五條 仕切板梁ノ上下兩面ニ附スル山形材ハ廣邊ヲ水平ニ置キ上部ノ山形
材ハ板梁ノ兩端ニ達セシムヘシ又上部ノ山形材ハ縦材ヲ支フル爲屈折セシムヘカラ
ス

仕切板梁ノ兩端ニハ上下兩面ニ附スル山形材ノ厚ニ等シキ厚ト適當ノ幅トヲ有スル
板ヲ兩面ニ取附クヘシ

第二百七十六條 艙口ニ縦材ヲ設ケサルトキハ仕切板梁ノ梁板ハ一本置ニ蓋板ノ上面
ニ達セシメ又縦材ヲ設クルトキハ中央縦材ニ用ウル球板ハ蓋板ノ上面ニ達セシムヘ
シ

第二百七十七條 縦材ノ上部ニ附スル山形材ハ其ノ兩端ニ達セシムヘシ
木製縦材ハ松又ハ之ト同一効力ヲ有スル木材ヲ以テ造リ其ノ兩端ニ鋼板ヲ附スヘシ

縦材ト仕切板梁ト交叉スル部分ニ於テハ鋼製縦材ニハ山形材ヲ附シ木製縦材ニハ鋼板ヲ附シ又仕切板梁ニハ縦材ノ移動ヲ防ク爲山形材ヲ附スヘシ

第二百七十八條 仕切板梁及縦材ハ支面三吋以上ニシテ適當ナル形狀ヲ有スル鋼製受材ヲ以テ其ノ兩端ヲ支フヘシ

受材ヲ山形材ニテ構造スルトキハ其ノ厚ハ二分ノ一吋以上ト爲シ又艙口側縁材ニ附スル受材ハ甲板ニ達セシムヘシ

受材ノ底部ハ實體ト爲スカ又ハ徑八分ノ七吋ノ鉸釘二箇以上ヲ以テ緊著スヘシ
小ナル艙口ニ於テハ本條ニ規定スル各材ノ寸法ヲ適當ニ減スルコトヲ得

第二百七十九條 艙口ニハ厚二吋半以上ノ木製蓋板ヲ設ケ縦材ヲ以テ支フルトキハ側縁材ニ幅二吋半以上ノ支材ヲ設ケ縦材ナキトキハ端縁材ニ幅三吋以上ノ支材ヲ設クヘシ

小ナル艙口及長二百呎以下ノ船舶ノ艙口ニ於テハ前項ノ規定ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

暴露セサル甲板ノ艙口ニ於テハ蓋板ノ代リニ格子蓋ヲ用ウルモ妨ナシ

第二百八十條 暴露甲板ニ設クル艙口縁材ノ外面ニハ二呎以内ノ心距ニ又艙口ノ四隅

ヨリ六吋ヲ超エサル距離ニ受金ヲ取附ケ覆布、帶金及楔ヲ以テ密閉シ得ヘキ装置ヲ爲スヘシ

受金ハ幅二吋半以上ト爲シ鉸釘二箇以上ヲ以テ縁材ニ取附クヘシ

第二百八十一條 長又ハ幅十呎以上ノ艙口ニシテ縁材ノ高二十四吋以上ヲ要スルモノ

ニ於テハ前條ニ規定セル密閉装置ノ外特ニ堅牢ナル壓材ヲ設クルカ又ハ其ノ他適當ノ装置ヲ爲スヘシ

第二百八十二條 圍壁艙口直下ノ艙口ニ設クル仕切板梁、縦材及縁材等ハ適當ニ其ノ強力ヲ増スヘシ

第二百八十三條 載炭口ノ構造及寸法ニシテ本章ニ規定セサルモノニ付テハ艙口ニ關スル規定ニ準スヘシ但シ小ナル載炭口ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百八十三條ノ二 暴露甲板ニ設クル出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋及覆布竝適當ノ締具ヲ備フルカ又ハ其ノ他水密トナルヘキ装置ヲ爲スヘシ

第二百八十四條 檣ヲ楔止ト爲スヘキ甲板ニ於テ鋼甲板ヲ張ラサルトキハ檣ノ前後ノ

梁間ニハ適當ノ檣孔板ヲ設ケ且檣孔ノ周縁ニ適當ノ球山形材又ハ山形材ヲ取附クヘシ

第二十六章 通風器

第二百八十五條 船ノ各部ニハ検査官吏ノ適當ト認ムル通風器ヲ備フヘシ

第二百八十六條 暴露甲板ニ附スル徑六吋以上ノ通風器ノ縁材ノ高ハ三呎以上ト爲シ

其ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ但シ船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ニ

於テ遮浪甲板及船樓甲板低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除クニ附スルモノノ縁材ノ高ハ二呎六吋ト爲スコ

トヲ得

通風器縁材ノ内徑	縁材ノ厚
六吋以上	○・三〇吋
九吋ヲ超ユ	○・三二吋
十二吋ヲ超ユ	○・三六吋
十六吋ヲ超ユ	○・三八吋
十八吋ヲ超ユ	○・四〇吋

長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ前項ノ厚ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百八十七條 暴露甲板ニ附スル通風器ノ縁材ハ其ノ厚ヨリ○・〇六吋厚キ山形材

ヲ以テ釘徑ノ四倍ノ心距ニ鉸釘ヲ用キ鋼甲板ニ固著スヘシ

前項ノ鋼甲板上ニ木甲板アルトキハ山形材ノ堅邊ノ幅ハ木甲板ノ厚ヨリ二分ノ一吋

大ナラシムヘシ

前項ノ鋼甲板ノ厚カ山形材ノ厚ヨリ薄キトキハ通風器ノ徑ノ二倍以上ノ長及幅ヲ有

スル適當ノ厚ノ二重張板ヲ鋼甲板ニ附スルカ又ハ其ノ他適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

又鋼甲板ナキトキハ木甲板ノ下部ニ適當ノ鋼板ヲ張ルヘシ

旅客室又ハ船員室上ノ通風器ニシテ徑九吋以下ナルモノノ縁材ニ附スル山形材ハ螺

釘ヲ以テ木甲板ヲ貫通シ鋼甲板ニ取附クルコトヲ得

徑十二吋ヲ超ユル通風器ヲ附スル部分ノ暴露甲板梁カ肋骨一本置ニ附スルモノナル

トキハ該通風器ノ縁材ノ兩側ニ於テ梁間ニ縦山形材ヲ取附クヘシ

第二百八十八條 暴露甲板ニ附スル通風器ノ縁材ニハ堅牢ナル栓及覆布ヲ以テ密閉シ

得ヘキ装置ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ通風器ノ構造ニ依リ検査官吏ニ於テ特ニ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百八十八條ノ二 「マツシルーム」形、「グリスネツキ」形等ノ通風器ヲ旅客室又ハ船員室上ニ附スルトキハ之ヲ堅牢ニ構造シ鋼甲板ニ螺釘ヲ以テ充分ニ固著スヘシ

第二十七章 排水装置及諸管

第二百八十九條 閉塞舷牆ヲ設クル部分ニハ甲板上ノ水ヲ排出スル爲適當ノ排水口及排水管ヲ設ケ又該排水口ニ戸ヲ附スルトキハ黃銅製ノ針ヲ備フル蝶鉸戸ト爲スヘシ
船首樓ト長船尾樓又ハ船首樓ト船橋樓及低船尾樓トヲ備フル船舶ノ船首樓ノ後方ニ在ル閉塞舷牆ニハ左表ニ依リ排水口ヲ設クヘシ

舷	牆	ノ	長	各舷ニ設クヘキ排水口ノ全面積
三	十	呎	九	平方呎半
三	十五	呎	十	平方呎
四	十	呎	十	平方呎半

四	十	呎	十	一	平方呎
五	十	呎	十一	一	平方呎半
五	十五	呎	十二	二	平方呎
六	二十	呎	十二	二	平方呎半
六	二十五	呎	以上	舷牆ノ長五呎毎ニ一平方呎ノ割合	

第二百九十條 第二甲板以下ノ甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ船底ニ導クヘシ
遮浪甲板又ハ船樓甲板ノ直下ノ場所ニシテ閉鎖装置ヲ備ヘサル部分ニハ船外ニ通スル適當ノ排水孔ヲ設クヘシ

第二百九十一條 滿載吃水線以下ニ於テ船外ニ通スヘキ排泄管ハ其ノ下端ヨリ水線上適當ノ高迄ハ鐵製又ハ鋼製ト爲シ其ノ上部ニ鉛管ヲ使用スルトキハ損傷ヲ防ク爲之ニ充分ナル圍ヲ設クヘシ

第二百九十二條 二重底又ハ艙内水艙ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ區畫室毎ニ船ノ中心線及兩側ニ於テ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但シ船底ノ傾斜著シキ部分ニ於テハ兩側ノ吸水管ハ之ヲ省略スルコトヲ得

二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ艙内ニ滄水溜ヲ設ケサルトキハ兩側ノ滄水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管及手用唧筒各一箇ヲ備ヘ又艙内ニ滄水溜ヲ設クルトキハ該滄水溜ニ船底傾斜ノ度ニ應シ一箇若ハ三箇ノ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導キ且兩側ノ滄水道ニ手用唧筒ヲ備フヘシ

第二百九十三條 二重底ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ各艙ニ蒸氣唧筒ノ吸水管及手用唧筒各一箇ヲ備フヘシ但シ大形船ニシテ船底ノ傾斜少キ部分ニ於テハ蒸氣唧筒ノ吸水管ハ二箇又ハ三箇ヲ備フヘシ

第二百九十四條 汽機室及汽罐室ニ二重底ヲ備ヘ之ニ滄水溜ヲ設ケサルトキハ兩側ノ滄水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管各二箇ヲ導キ又滄水溜ヲ設クルトキハ該滄水溜及兩側ノ滄水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管各一箇ヲ導クヘシ

汽機室及汽罐室ニ二重底ヲ備ヘサルトキハ中心線及兩側ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但シ該室ニ於ケル船ノ幅二十六呎以下ナルトキハ兩側ノ吸水管ハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

第二百九十五條 船首尾艙ヲ水艙トシテ使用スルトキハ之ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導ク

ヘシ

船首尾艙ヲ水艙トシテ使用セサルトキハ船首艙ニハ適當ノ手用唧筒ヲ備ヘ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設ケテ船尾艙ノ滄水ヲ車軸隧道ニ導クカ又ハ之ヲ他ニ排出スヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第二百九十六條 車軸隧道ニハ滄水溜ヲ設ケ之ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ

第二百九十七條 手用唧筒ハ滿載吃水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ但シ吸水口ヨリ唧筒室ノ底部ニ至ル高ハ二十四呎ヲ超エサルコトヲ要ス

手用唧筒及管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ少カルヘカラス但シ船首艙ニ用ウルモノニ在リテハ四吋ヲ超ユルコトヲ要セス

上 甲板 下 噸數	唧筒ノ内徑	管ノ内徑
五百噸ヲ超ユ千噸以下	四吋	二吋
千噸ヲ超ユ二千噸以下	四吋	二吋四分ノ一
二千噸ヲ超ユルモノ	五吋	二吋四分ノ三

飛輪唧筒ヲ滿載吃水線以上ノ適當ノ場所ニ備ヘ各艙ニ導ケル蒸氣唧筒ノ滲水吸水管ト連結シ得ヘキ裝置ト爲ストキハ之ヲ各艙ニ設クヘキ手用唧筒ニ代用スルコトヲ得

二箇ノ獨立セル汽罐室又ハ支水隔壁ノ達スル甲板以上ニ設置セル副汽罐ヲ有スル汽船ニ於テ二箇ノ獨立セル區畫室ニ蒸氣唧筒ヲ設ケ之ニ副汽罐又ハ各汽罐室ノ汽罐ヨリ獨立ニ蒸氣ヲ導キ得ル裝置ヲ爲シ且該唧筒ト各艙ニ導ケル滲水吸水管トヲ連結スルトキ亦前項ニ同シ

大形船特ニ旅客船ニ在リテハ成ルヘク前項ノ獨立蒸氣唧筒又ハ之ト同一效力ノ獨立動力唧筒ヲ備フヘシ

第二百九十八條 各艙及二重底ニハ測水管ヲ設ケ其ノ直下ノ外板ニ當板ヲ爲スヘシ

第二百九十九條 船首尾艙及車軸隧道ノ滲水溜ニ導ケル蒸氣唧筒ノ吸水管ハ其ノ内徑二吋四分ノ一ヨリ少カルヘカラス但シ上甲板下ノ噸數五百噸以下ノ船舶ニ在リテハ之ヲ二吋ニ減スルコトヲ得

第三百條 前條ニ掲クルモノヲ除クノ外蒸氣唧筒ノ滲水吸水管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ少カルヘカラス

上 甲板 下 噸 數	機關室中心線吸水管及艙内中心線吸水管	機關室兩側吸水管及中心線吸水管ヲ備ヘサルトキノ艙内兩側吸水管	中心線吸水管ヲ備フルトキノ艙内兩側吸水管
五百噸以下	二吋四分ノ一	二吋	二吋
五百噸ヲ超エ千噸以下	二吋	二吋四分ノ一	二吋
千噸ヲ超エ千五百噸以下	二吋	二吋四分ノ一	二吋四分ノ一
千五百噸ヲ超エ二千噸以下	三吋	二吋四分ノ三	二吋四分ノ一
二千噸ヲ超エ三千噸以下	三吋	三吋	二吋四分ノ一
三千噸ヲ超ユルモノ	三吋	三吋	二吋四分ノ三

一區畫室ニ二箇以上ノ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ備ヘ之ヲ一本ノ主管ヲ以テ唧筒ニ導クトキハ主管ノ内徑ハ中心線吸水管ニ要スルモノヨリ少カルヘカラス

第三百一條 滲水吸水管ノ端末ニハ芥除箱ヲ設クヘシ

芥除箱ニ穿テル小孔ノ總面積ハ吸水管ノ截面ノ二倍ヨリ少カルヘカラス

第三百一條ノ二 蒸氣唧筒ノ吸水管ハ平水航路ノ船舶及上甲板下噸數五百噸未滿ノ沿海航路ノ船舶ニ限リ各艙及各水密區畫室ニ之ヲ導カサルモ妨ナシ

手用滲水唧筒及測水管ハ平水航路ノ船舶ニ限リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルト

キハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

第三百一條ノ三 艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ因リ破損セサル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ又汽管其ノ他内部ヨリ高壓力ヲ受クル諸管ハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムヘカラス但シ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八章 内張板

第三百二條 船艙ノ船底ニ於テハ彎曲上部迄ハ厚二吋半ヨリ少カラサル木板ヲ張詰メ其ノ上部ノ船側ニ於テハ適當ノ厚ヲ有スル木板ヲ張詰ムルカ又ハ適當ノ間隔ニ木板若ハ鋼帶ヲ取附クヘシ
長百五十呎以下ノ船舶ニ在リテハ前項ノ船底ニ設クル木板ノ厚ヲ二吋ト爲スコトヲ得

第三百三條 二重底ノ内底板ニハ艙口直下及兩側滄水道ヲ除クノ外内張板ヲ張ラサルモ妨ナシ又艙口直下ニ於ケル内底板ノ厚ヲ〇・〇八吋増ストキハ該部ニ於テモ亦之

ヲ張ラサルコトヲ得

第三百四條 石炭、礫石、木材、穀類等ノミヲ包裝ヲ施サスシテ運搬スル船舶ニ在リテハ船側ノ内張板ハ之ヲ張ラサルモ妨ナシ
油艙ニハ内張板ヲ張ラサルモ妨ナシ

第二十九章 操舵機具

第三百五條 舵柄又ハ舵柄弧ノ回轉スル部分ニ於テハ堅牢ナル回轉止ヲ甲板上ニ取附クヘシ但シ舵柄又ハ舵柄弧ニ適當ナル制動裝置ヲ備フルカ又ハ操舵機ヲ直接舵柄弧ニ連結スルトキハ回轉止ハ之ヲ取附ケサルモ妨ナシ

前項ノ回轉止ヲ取附クヘキ角度ハ舵ノ回轉止ノ角度ヨリ大ナルヘカラス
第三百六條 長二百呎ヲ超ユル汽船ニ在リテハ操舵機ヲ備フヘシ

操舵機ヲ備フル船舶ニ在リテハ獨立セル手用操舵機又ハ豫備操舵機ヲ備フヘシ
特ニ強大ナル舵柄ヲ備フルトキハ之ヲ二箇ノ獨立セル操舵機具ニ共用スルモ妨ナシ
操舵機ノ操舵輪ハ船橋ト該機トニ之ヲ備フヘシ

第三百七條 長二百呎ヲ超ユル汽船ニ於テ船尾樓、全通船樓又ハ遮浪甲板ヲ有セサル
トキハ船尾ニ於ケル操舵機具ハ鋼製ノ甲板室ヲ以テ蔽圍スヘシ

第三百八條 操舵鎖及操舵圓材ノ徑ハ第二十號表ニ依ルヘシ但シ舵柄ノ長又ハ舵柄弧
ノ半徑カ同表ニ掲クルモノト異ナルトキハ左ノ算式ニ依リ操舵鎖ノ徑ヲ算出スヘシ

$$d = 0.38 \sqrt{\frac{D^2}{R}}$$

d ハ操舵鎖ノ徑吋ニテ

D ハ舵頭ノ徑吋ニテ

R ハ操舵鎖ノ中心線迄測リタル舵柄ノ長又ハ舵柄弧ノ半徑吋ニテ

前項但書ノ場合ニ於ケル圓材ノ徑ハ鎖ノ徑ヨリ其ノ四分ノ一ヲ増スカ又ハ算式ニ依
リ得タル徑ヲ第二十二號表ノ鎖ノ徑ニ充テ之ヲ定ムヘシ

操舵機ヲ備フル船舶ノ操舵裝置ニハ適當ナル緩衝發條ヲ備フヘシ

第三百九條 舵柄又ハ舵柄弧ノ腕ノ寸法ハ第二十二號底ニ依ルヘシ但シ腕ノ端末ニ於
ケル寸法ハ同表ニ掲クルモノノ四分ノ三ニ減スルコトヲ得又舵柄弧ヲ舵頭ニ栓止ト

爲ササルトキハ腕ノ寸法ハ其ノ全長ヲ通シテ同表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト爲スコ
トヲ得

第三百十條 操舵鎖ノ中心線迄測リタル導鎖滑車ノ徑ハ鎖徑ノ十六倍以上又車針ノ徑
ハ鎖徑ノ二倍以上ト爲スヘシ但シ滑車ノ据付位置ニ依リ検査官吏ニ於テ差支ナシト
認ムルトキハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

第三百十一條 操舵機具ハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試験ヲ執行スヘ
シ

第三十章 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船

第三百十二條 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ノ上甲板ニ長大ナル船樓又ハ甲板室
ヲ設クルトキハ該甲板下ノ船側ニ適當ノ防撓桁板ヲ附シ且該甲板室ノ上部ニ當ル甲
板ニハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三百十三條 削除

第三百十四條 遮浪甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ニ於テハ第十九號表ニ掲クル船樓下

ノ上甲板梁上側板ニ附スル山形材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ梁上側板ヲ外板ニ固著シ且肋骨ノ内側ニモ同寸法ノ山形材ヲ縦通セシメ外板トノ間ハ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三百十五條 第二數一萬四千ヲ超ユル輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ノ船首艙ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ上甲板迄達セシムヘシ

第三十一章 船首樓、船尾樓、船橋樓及甲板室

第三百十六條 深十五呎以下ノ船舶ニ在リテハ副肋材ヲ達セシムル高ヲ増スカ又ハ肋骨ニ適當ノ補強構造ヲ爲スニ非サレハ船首樓、船尾樓又ハ船橋樓ヲ設クルコトヲ得ス

第三百十七條 船首樓、船尾樓及短船橋樓ノ側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ第二十號表ニ依ルヘシ

前項ニ掲クル船樓ノ側外板ノ縱緣ハ一列釘固著ト爲スヘシ但シ短船橋樓ノ兩端二十呎ノ間及側外板ノ厚〇・四八吋ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ二列釘固著ト爲スヘシ

前項但書ノ規定ハ特ニ短キ短船橋樓及小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第一項ニ掲クル船樓ノ側外板ノ縱緣ハ二列釘固著ト爲スヘシ但シ特ニ短キ船樓及小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三百十八條 長船橋樓ノ側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ第十五號表ニ依リ船ノ長ト長船橋樓甲板迄ノ深トノ割合ヲ表中ノ長ト深トノ割合ニ充テ之ヲ定メ其ノ縱橫緣ノ固著方ハ第十六號表乃至第十八號表ニ依ルヘシ

長船橋樓ノ側外板ノ厚其ノ縱緣ニ二列釘固著ヲ要セサルモノナルトキハ長船橋樓ノ兩端二十呎ノ間ハ之ヲ二列釘固著ト爲スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三百十九條 第二數一萬四千ヲ超ユル船舶ノ船首樓ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ船首樓甲板迄達セシムヘシ

第三百二十條 船樓下ノ上甲板梁上側板ハ第十九號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且肋骨ノ内側ニモ梁上側板上ニ同寸法ノ山形材ヲ縦通セシメ外板トノ間ハ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三百二十一條 長船橋樓下ノ上甲板ニ於ケル側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ該樓ノ兩端ヨリ船ノ幅ノ約三分ノ一ニ相當スル箇所迄ハ該樓端ニ於ケルモノト同一ト爲スヘシ

第三百二十二條 長船橋樓ノ兩端、船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船首樓ノ後端及船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船尾樓ノ前端ニ於テハ該端ノ前後各六呎乃至十呎ノ間舷側厚板ヲ二重張ト爲シ且上甲板ノ梁上側板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ

第三百二十三條 船橋樓及船尾樓ノ前端ニ於ケル隔壁ノ厚ハ短船橋樓ノ側外板ノ厚ニ等シクスヘシ但シ〇・四吋ヨリ厚キコトヲ要セス又其ノ縁材ノ厚ハ之ニ〇・〇四吋ヲ増スヘシ

機關室口又ハ其ノ他ノ甲板口ヲ蔽圍スル船樓ノ前端ノ隔壁及縁材ニハ左表ニ掲クル球山形材ヲ堅ニ三十吋ノ距離ニ取附ケ其ノ上下兩端ハ肘板ヲ以テ之ヲ鋼甲板又ハ梁上ニ設クル鋼板ニ固著スヘシ

船ノ幅	球山形材		厚材
	深	幅	
二十四呎ヲ超エ三十呎以下	五吋	三吋	〇・四〇吋

三十呎ヲ超エ三十六呎以下	六吋	三吋	〇・四四吋
三十六呎ヲ超エ四十二呎以下	七吋	三吋	〇・五〇吋
四十二呎ヲ超エ四十六呎以下	七吋	三吋	〇・五六吋
四十六呎ヲ超エ五十呎以下	七吋半	三吋半	〇・五六吋
五十呎ヲ超エ五十四呎以下	八吋	三吋半	〇・六四吋
五十四呎ヲ超エ五十八呎以下	八吋半	三吋半	〇・六四吋
五十八呎ヲ超ユルモノ	九吋	三吋半	〇・六四吋

機關室口又ハ其ノ他ノ甲板口ヲ蔽圍セサル船樓ノ前端ニ於ケル隔壁ニハ前項ノ球山形材ヲ取附クヘキ位置ニ船首尾艙ニ用フヘキ正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ取附クヘシ

船樓端ノ隔壁ハ上甲板梁ノ位置ニ取附ケ其ノ下部ハ適當ノ構造ト爲スヘシ

第三百二十四條 船樓内ノ肋骨ハ其ノ下端ヲ肘板ヲ以テ固著スルカ又ハ下端ヲ適當ニ上甲板下ニ延長シ上甲板下ノ肋骨ト累接スヘシ

第三百二十五條 船樓上ニ長大ナル船樓又ハ甲板室ヲ設クルトキハ該船樓甲板下ノ船側ニ適當ノ防撓材ヲ附シ且該甲板室ノ上部ニ當ル甲板ニハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三百二十六條 長二百呎ヲ超ユル船舶ノ暴露セル上甲板上ニ設クル長大ナル甲板室ノ圍壁ハ鋼製ト爲シ約三十吋ノ距離ニ豎防撓材ヲ取附ケ且防撓桁板又ハ區畫壁ヲ以テ適當ニ之ヲ補強スヘシ

第三十二章 低船首樓及低船尾樓

第三百二十七條 低船尾樓ヲ設クル部分ニ於ケル肋骨及船側縱通材ノ寸法及配置ハ本編第七條ニ規定シタル艙内ノ深ニ上甲板梁ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ加ヘタルモノヲ規定ノ艙内ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

第三百二十八條 低船尾樓ヲ設クル部分ノ梁及其ノ梁枝又ハ肘板、梁柱、木甲板、鋼甲板、梁上側板及其ノ山形材、梁上帶板、舷側厚板及其ノ直下ノ外板ノ寸法及配置ハ低船尾樓甲板ヲ上甲板ト看做シ其ノ下方ノ甲板ヲ第二甲板第三甲板等ト看做シテ之ヲ定ムヘシ但シ本編第七十五條ノ表中船ノ深及第十五號表中長ト深トノ割合ヲ定ムルニ用フル船ノ深ニハ長船首樓ト之ニ連續セル低船尾樓ト有スル船舶ヲ除ク

ノ外本編第七條ニ規定スル船ノ深ニ上甲板梁ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ加ヘタルモノヲ充ツヘシ

第三百二十九條 削除

第三百三十條 上甲板ノ舷側厚板ハ低船尾樓ノ前端ノ後部ニ適當ナル長ノ間之ヲ延長シ且其ノ前後ニ於テ之ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ低船尾樓ト長船橋樓トヲ連續スルトキハ其ノ部分ノ前後ニ於テ低船尾樓ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増シ又長船橋樓ニ隣接スル低船尾樓ノ舷牆板ハ其ノ厚ヲ増シ且長船橋樓ノ前端ニ於ケル舷側厚板ヲ二重張ト爲スヘシ
低船尾樓ノ前端ノ前後適當ノ長ノ間ハ低船尾樓ノ舷側厚板及其ノ直下ノ外板二條ノ橫縁ハ少クモ三列釘固著ト爲スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三百三十一條 上甲板ノ梁上側板ハ低船尾樓ノ前端ヨリ肋骨ノ心距ノ約七倍後部ニ延長シ低船尾樓甲板ノ梁上側板ハ肋骨ノ心距ノ約四倍前部ニ延長シ又上甲板下ノ梁上側板ハ肋骨ノ心距ノ約八倍相累ネ且船橋樓ノ梁上側板モ亦適當ナル長ノ間後部ニ

延長スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三百二十二條 低船尾樓ノ前端ニハ短船橋樓ノ側外板ノ厚ニ等シキ厚ノ隔壁ヲ設ケ適當ノ防撓材ヲ取附ケ二重山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第三百二十三條 上甲板ノ全部又ハ一部ニ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル低船尾樓ヲ設クルトキハ船ノ大小及長ト深トノ割合ニ依リ上甲板ノ鋼甲板ヲ肋骨ノ心距ノ二倍乃至五倍後部ニ延長シ低船尾樓甲板ト相累スルノ外低船尾樓端ノ強力ヲ保持スル爲適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三百三十四條 上甲板ヲ低船尾樓前端ノ隔壁ノ後部ニ延長スルコトヲ要セサル船舶ニ在リテハ其ノ大小及長ト深トノ割合ニ依リ隔壁ノ兩面ニ各第十五號表ニ掲クル上甲板ニ要スル鋼甲板ノ厚ニ等シキ厚ノ肘板四箇又ハ五箇ヲ豎ニ取附ケ甲板ニ固著スヘシ

第三百三十五條 第二數一萬五千ヲ超ユル船舶又ハ深ノ十三・五倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ在リテハ隔壁ト汽機室口ノ後端トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ヨリ少カルヘカラス

第三百三十六條 低船尾樓甲板ノ鋼甲板ハ其ノ兩面ニ第二甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ニ要スル寸法ノ山形材ヲ附シテ低船尾樓前端ノ隔壁ニ固著スヘシ
第三百三十七條 低船首樓ヲ設クル船舶ノ構造及寸法ハ本章中低船尾樓ヲ設クル船舶ニ關スル規定ニ準スヘシ

第三十三章 載貨門、載炭門及舷窗

第三百三十八條 舷側厚板ノ直下ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルトキハ該部分ニ於テ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ之ヲ其ノ前後ニ於テ肋骨ノ心距ノ約二倍延長シ且該門ヲ設クル爲肋骨二本以上ヲ切斷スルトキハ其ノ前後兩端ニ於テ幅ハ第三號甲表ニ掲クル正肋材ノ縱邊ノ幅ノ三・五倍以上、厚ハ該正肋材ノ厚ニ等シキ防撓桁板ヲ甲板間ニ設ケ其ノ上端ハ上甲板梁又ハ長船橋樓甲板梁ニ固著スルカ又ハ二重山形材ヲ以テ該甲板ノ梁上側板ニ固著シ下端ハ二重山形材ヲ以テ下層ノ甲板ノ梁上側板ニ固著スヘシ但シ載貨門又ハ載炭門ノ上ニ船樓アルトキハ特ニ必要ナル場合ヲ除クノ外縱強力ニ對スル補強構造ヲ爲ササルモ妨ナシ

第三百三十九條 載貨門及載炭門ノ周圍ニハ堅牢ナル縁材ヲ設クヘシ

第三百四十條 載貨門又ハ載炭門ノ戸ニハ堅牢ナル防撓材ヲ取附ケ適當ナル締具ヲ備ヘ且之ヲ閉鎖シタルトキハ水密ト成ルヘキ構造ト爲スヘシ

第三百四十一條 舷側厚板ニハ特ニ補強構造ヲ爲スニ非サレハ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルコトヲ得ス

第三百四十二條 長船橋樓ヲ除キ其ノ他ノ船樓ノ甲板ト上甲板トノ間ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルトキハ其ノ前後兩端ニ防撓桁板ヲ設ケ且縱強力ヲ増スヘキ構造ヲ爲スヘシ但シ短キ船樓ノ場合ニ於テハ縱強力ニ對スル補強構造ヲ爲ササルモ妨ナシ

第三百四十二條ノ二 滿載吃水線ノ標示ヲ附スル船舶ノ舷窓ハ本條ノ規定ニ依ルヘシ
海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ六呎未滿ノ箇所ニ下縁ヲ有スル舷窓ハ舷窓試験規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ同等以上ノモノ又海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ四呎未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設クル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

前項ニ掲クルモノノ外左ノ各號ノ舷窓ニハ内蓋ヲ備フヘシ但シ内蓋ハ甲種舷窓以外

ノモノニ在リテハ鑄鐵製ト爲スモ妨ナシ

一 船首ヨリ船ノ長ノ八分ノ一間ニ於ケル蔽圍シタル場所ニ設クル舷窓

二 海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ七呎未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設クル舷窓

三 何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設クルモノヲ除クノ外乾舷甲板ノ下方ニ於テ前二號ニ該當セサル場所及船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ掲クル第一級又ハ第二級閉鎖裝置ヲ以テ閉鎖シタル船樓ニ設クル舷窓

乾舷甲板ノ下方ニ於ケル何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設クル舷窓ニシテ内蓋ヲ備ヘサルモノニハ外蓋ヲ備ヘ又船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ掲クル第一級又ハ第二級閉鎖裝置ヲ以テ閉鎖シタル船樓内ノ何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設クル舷窓ニシテ内蓋ヲ備ヘサルモノニハ舷窓二箇毎ニ其ノ附近ニ一箇ノ外蓋ヲ備ヘ置クヘシ但シ外蓋ハ鑄鐵製ト爲スモ妨ケナシ

第三十四章 檣、索具及揚貨、揚錨、繫船等ノ
裝置並其ノ他ノ艤裝品

第三百四十三條 檣、索具、揚貨、揚錨及繫船ノ裝置、起錨鉤、端艇鉤等ノ艤裝品ハ其ノ用途ニ應シ適當ニ構造シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試験ヲ執行スヘシ

第三百四十四條 削除

第三百四十五條 削除

第三百四十六條 削除

第三百四十七條 削除

第三十五章 燃料油ヲ積載スル船舶

第三百四十八條 本章ノ規定ハ「エベル」式密閉試験ニ依リ華氏百五十度以上ノ引火點ヲ有スル燃料油ヲ積載スル船舶ニ之ヲ適用ス

華氏百五十度未滿ノ引火點ヲ有スル燃料油ヲ積載スル船舶ノ構造方法ニ付テハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三百四十九條 燃料油ヲ積載スル二重底ハ適當ナル長ヲ有シ且其ノ中心線桁板ハ船

首尾端ニ於ケル狹隘ナル部分ヲ除クノ外開孔ヲ設ケサルモノト爲スヘシ

前項ノ中心線桁板ハ油密又ハ水密構造ト爲ササルモ妨ナシ

二重底其ノ他ニ於テ燃料油ヲ積載スル箇所ト清水ヲ積載スル箇所トヲ隣設スルトキ

ハ其ノ境界ニ適當ノ長ヲ有スル防油區畫ヲ設ケ之ヲ油密ニ構造スヘシ

清水艙用ノ管ハ油管ヲ兼用スルコトナク別ニ之ヲ設クヘシ

第三百五十條 燃料油ヲ積載スル船首尾水艙、艙内水艙及油庫ハ油密構造ト爲シ且適當ノ區畫壁又ハ制水板ヲ設クヘシ

第三百五十一條 燃料油ヲ積載スル區畫ハ管、艙口其ノ他ニ於テ油ノ到達スヘキ最高所以上一呎ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試験スヘシ

第三百五十二條 油艙ニハ上甲板上ニ充分ノ高ニ於テ開放スル排氣管ヲ設ケ之ニ掃除又ハ取換ノ爲取外シ易キ細目金網隔膜ヲ備ヘ且二重底ニハ成ルヘク船底外板ニ適當

ナル密閉装置ヲ有スル掃除用孔口ヲ設クヘシ
油艙ニ溢油管ヲ設ケサルトキハ前項ノ排氣管ノ合計截面積ヲ注油管ノ截面積以上ト
爲シ又溢油管ヲ設クルトキハ其ノ合計截面積ヲ注油管ノ截面積以上ト爲シ且溢油管
ハ之ヨリ溢出スル油又ハ油氣ニ因リ危険ヲ生セサル様適當ニ配置構造スルコトヲ要
ス

第三百五十二條ノ二 油艙ニハ測深管又ハ其ノ他検査官吏ニ於テ適當ト認ムル測深裝
置ヲ備フヘシ

測深管ハ暴露甲板又ハ滿載吃水線上ノ甲板ノ接近シ得ヘキ場所迄達セシムヘシ但シ
車軸隧道又ハ機關室内ノ測深管ニシテ自動閉鎖装置又ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ム
ル錠附螺蓋ヲ備フルモノハ此ノ限ニ在ラス
測深管ノ直下ノ外板等ニハ當板ヲ爲スヘシ

沈澱油庫其ノ他ノ油庫ニハ驗油硝子管ヲ設クヘカラス
厚キ硝子板、自動閉鎖装置ノ瓣又ハ嘴子及適當ノ保護装置ヲ備フルモノニシテ検査
官吏ノ適當ト認ムル型式ノ驗油器ハ之ヲ沈澱油庫又ハ常用油庫ニ設クルコトヲ得

第三百五十三條 燃料油艙ニ接スル船艙又ハ石炭庫ノ隔壁ニハ之ニ沿ヒテ適當ノ油溜
又ハ油道ヲ設ケ且該隔壁ニハ内張板ヲ張り排氣管ヲ設ケ隔壁ト内張板トノ間隔ノ通
氣ヲ充分ニスヘシ

船艙下ノ二重底内ニ燃料油ヲ積載スルトキハ内底板上ニ厚二吋以上ノ横木ヲ置キ其
ノ上面ニ内張板ヲ張ルヘシ但シ内底板ノ縱横縁ヲ少クトモ二列釘固著ト爲スカ又ハ
一列釘固著ノモノノ鉸釘心距ヲ釘徑ノ四倍ト爲シ且容易ニ漏油ヲ滄水道及滄水溜ニ
流入セシムル様適當ノ荷敷板ヲ敷ク場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十三條ノ二 沈澱油庫其ノ他ノ油庫等ヨリ漏油ノ虞アル箇所ニハ適當ノ油道、
油受等ヲ設ケ且漏油カ油溜又ハ滄水道ニ流入シ得ル装置ヲ爲スヘシ

第三百五十四條 油艙ヲ脚荷水艙ニ兼用スルトキハ吸油管ヨリ吸油唧筒ニ導ク瓣又ハ
嘴子ト吸油管ヨリ排水唧筒ニ導ク瓣又ハ嘴子ノ裝置ハ吸油唧筒ヲ以テ油艙ヨリ吸油
中排水唧筒ヲ以テ他ノ箇所ノ排水ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ要ス但シ容積大ニシ
テ屢補充ヲ要セサル沈澱油庫又ハ常用油庫ヲ備フル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
深水艙ヲ貨物、脚荷水及燃料油ニ共用スルトキハ貨物積載ニ當リテハ脚荷水及燃料

油ノ注入管及吸出管ニ又燃料油積載ニ當リテハ滄水ノ吸出管ニ盲蓋ヲ取り附ケ得ル装置ヲ爲スヘシ

第三百五十五條 吸油管ニハ機關室ニ於テ隔壁ノ内側ニ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ且吸油唧筒ヲ開放スル場合ニ吸油管ヲ塞キ得ル様唧筒ニ接シテ瓣又ハ嘴子ヲ備フヘシ
二重底ヲ除クノ外油庫ノ吸油管ニハ庫壁ニ於テ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ瓣又ハ嘴子ノ所在區畫ニ於ケル失火ノ際接近シ得ヘキ場所ヨリ之ヲ開閉シ得ヘキ装置ヲ爲スヘシ
船首艙又ハ船尾艙ニ燃料油ヲ積載スルトキハ吸油管ニハ瓣又ハ嘴子ヲ船首尾隔壁ノ内側ニ備フヘシ

沈澱油庫又ハ常用油庫ノ注油管ニハ吸油管ニ於ケルト同様ニ瓣若ハ嘴子及其ノ開閉装置ヲ備フルカ又ハ庫壁ニ於テ不還瓣ヲ取附クヘシ但シ注油管ヲ油庫ノ頂部ニ導クトキハ此ノ限ニ在ラス

機關室内ノ油管ニ備フル瓣又ハ嘴子ニハ機關室ノ上方ニ於テ機關室圍壁外ノ場所ヨリ開閉シ得ル装置ヲ爲スヘシ

沈澱油庫又ハ常用油庫ノ沈澱水ノ排出管ハ自働閉鎖装置ヲ有スル瓣又ハ嘴子ヲ備フ

ルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

第三百五十六條 燃油装置ノ送油管ヲ除キ其ノ他ノ油管及油艙内ヲ通スル吸水管ハ鐵製又ハ鋼製ト爲シ其ノ接合ハ堅牢ニシテ且機械仕上ヲ爲シ油ノ浸徹セサル接合材ヲ之ニ使用スヘシ

前項ノ諸管ハ機關室内ニ於テハ検査及修繕シ易キ位置ニ之ヲ通スヘシ

機關室ヲ通スル滄水吸水管ニハ鉛管ヲ使用スヘカラス

第三百五十七條 汽罐室内及沈澱油庫ヲ設クル區畫内ニハ木材ヲ使用スヘカラス又汽罐ト油艙トノ間ニハ適當ノ間隔ヲ保チ必要ニ應シ適當ノ防熱装置ヲ爲シテ燃料油ノ昇温ヲ防クヘシ

第三百五十八條 蒸氣唧筒ノ送水管及布管ハ海水ヲ汽罐室床板ニ灌キ滄水道ニ流シ落ス爲適當ノ場所ニ之ヲ設クヘシ
汽罐室ニハ其ノ下部ニ蒸氣ヲ噴出セシメ得ヘキ多孔管ヲ備フヘシ

第三十六章 油艙 船

第三百五十九條 油艙ニハ其ノ頂部ニ適當ノ膨脹圍壁ヲ設クヘシ

第三百六十條 油艙ニハ其ノ中心線ニ船底ヨリ膨脹圍壁ノ頂部ニ達スル縱通隔壁ヲ設ケ又船ノ長ニ應シ二十四呎乃至二十八呎ヲ超エサル距離ニ横置隔壁ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫スヘシ

第三百六十一條 油艙ハ之ヲ機關室及油艙以外ノ船艙ト隔離スル爲其ノ前後兩端ニ於テ船底ヨリ頂部ニ達スル防油區畫室ヲ設ケ其ノ長ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ

第三百六十二條 油艙ハ油密構造ト爲シ區畫室毎ニ膨脹圍壁頂板上八呎以上ノ水高壓カヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

油溜區畫室ハ頂板迄ノ水高壓カヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第三百六十三條 油艙船ノ肋骨、肋板、內龍骨、甲板、梁、梁柱、油密隔壁等ノ構造及寸法竝吸油及通風ノ裝置等ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二編 機關部

第二編 機 關 部

第一章 總 則

第一條 本令ニ定ムル試験ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試験機ハ検査官吏ノ檢定ヲ受ケタルモノヲ用ウヘシ

第二條 艤裝品ハ其ノ用途ニ應シ適當ニ構造スルコトヲ要ス

艤裝品ニ付テハ特ニ明文アル場合ヲ除クノ外検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試験ヲ執行スヘシ

第三條 本令中試験ニ關スル規定ハ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書アル場合ニ限り之ヲ適用セサルコトヲ得

第四條 本令ニ該當セサル機關ノ構造及寸法ハ検査官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限り之ヲ合格ト爲スヘシ

第五條 本令ニ定ムル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示スモノトス

第六條 本令ニ規定セサル機關各部ノ構造及寸法ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料試驗

第七條 抗張試驗ヲ執行スヘキ試驗材ハ左ノ寸法ト爲スコトヲ要ス

一 鋼板及鋼形材 標點間ノ長八吋ニシテ厚ハ成ルヘク壓延シタル儘ト爲シ幅ハ試驗材ノ厚〇・二七五吋未滿ナルトキハ二吋半ヲ、〇・三七五吋以上〇・八七五吋以下ナルトキハ二吋ヲ、〇・八七五吋ヲ超ユルトキハ一時半ヲ超ユルコトヲ得ス

二 鋼圓材及螺旋支柱用鐵圓材 標點間ノ長ハ試驗材ノ徑ノ八倍ニシテ徑ハ〇・五六四吋以上ナルコトヲ要ス但シ試驗材ノ徑一時ヲ超ユルトキハ標點間ノ長ヲ試驗材ノ徑ノ四倍ト爲スコトヲ得

三 鋼鉸釘 標點間ノ長ハ試驗材ノ徑ノ二・五倍ナルコトヲ要ス

四 鑄鋼材及鍛鋼材 標點間ノ長ハ徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ナルコトヲ要ス

第八條 屈曲試驗ヲ執行スヘキ試驗材ハ左ノ寸法ト爲スコトヲ要ス

一 板及形材 幅一時半以上ニシテ試驗スヘキ板又ハ形材ヨリ剪斷シタル儘ト爲スヘシ但シ厚〇・五吋以上ナルトキハ剪斷面ヲ平削スルコトヲ得

二 圓材 徑ハ壓延シタル儘ト爲スコトヲ要ス但シ鋼圓材ニ在リテハ徑一時半ヲ超ユルトキハ其ノ徑ヲ一時半迄、螺旋支柱用鐵圓材ニ在リテハ徑一時ヲ超ユルトキハ其ノ徑ヲ一時迄減スルコトヲ得

三 鑄鋼材及鍛鋼材 幅一時厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ハ半徑十六分ノ一時ノ圓形ト爲スヘシ

第九條 汽罐ノ製造ニ使用スル螺旋支柱用鐵圓材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 一平方吋ノ抗張力ハ二十一噸半以上伸長率ハ標點間ノ長カ徑ノ八倍ノモノハ百分ノ二十五以上、四倍ノモノハ百分ノ三十以上ナルコトヲ要ス但シ長ト徑ノ比カ前記ノ比ノ中間ニ在ルトキハ其ノ割合ニ依リ伸長率ヲ定ムヘシ

二 屈曲試驗

(イ) 常溫ノ儘試驗材ノ徑ニ等シキ内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

(ロ) 試験材ニ刻目ヲ附ケ之ヲ百八十度折曲シタルトキ其ノ裂面ハ纖維狀ニシテ鎔滓其ノ他ノ缺點ヲ有セサルコトヲ要ス

第十條 汽罐ノ製造ニ使用スル鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 航張試験 抗張力及伸長ノ割合ハ左表ニ依ルヘシ

種	類	抗張力(每平方吋)	標準試験材ノ伸長(百分率)	長カ徑ノ四倍ヲ有スル試験材ノ伸長ノ割合(百分率)
胴板及支梁板		二八以上三五以下	厚〇・三七五吋以上 厚〇・三七五吋未満 一七〇	一
突縁又ハ鍛合工 事ヲ施サントス ル鋼板並燃焼室 用及火爐用諸板		二六以上三〇以下	厚〇・三七五吋以上 厚〇・三七五吋未満 二〇〇	一
支柱用圓材		二八以上三五以下		二四
螺旋支柱用圓材		二六以上三〇以下		二八
形材		二八以上三二以下	厚〇・三七五吋以上 厚〇・三七五吋未満 一七〇	一
鉸釘用圓材		二六以上三〇以下		三〇

胴板 支梁板及支柱用圓材ニ於ケル抗張力ノ差ノ範圍ハ各種類毎ニ一平方吋ニ

付四噸ヲ超ユルコトヲ得ス

圓材ノ試験材ノ長ト徑ノ比カ前記ノ比ノ中間ニ在ルトキハ其ノ割合ニ依リ伸長率ヲ定ムヘシ

鉸釘用圓材ニ付抗張試験ヲ執行セサルトキハ該圓材ヨリ製作シタル鉸釘ニ付抗張試験ヲ執行スヘシ此ノ場合ニ於テハ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十噸以下ニシテ其ノ截面積ノ縮少ノ割合ハ百分ノ六十以上ナルコトヲ要ス

厚十六分ノ三吋ヲ超エサル板ニハ抗張試験ヲ省略スルコトヲ得重要ナラサル部分ニ使用スル材料ニ付検査官吏ニ於テ必要ナラスト認メタル場合亦同シ

二 屈曲試験 板、圓材及形材ノ焼入屈曲試験ニ於テハ血紅色ニ熱シタル試験材ヲ華氏八十度以下ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚又ハ徑ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

板、圓材及形材ノ常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘前項ノ試験ヲ執行シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

加工ノ爲加熱スル部分及火焰ニ接觸スル部分ニ使用スル鋼材ニハ焼入屈曲試験

ヲ、其ノ他ノ鋼材ニハ燒入屈曲試験又ハ常溫屈曲試験ヲ執行スヘシ
鉸釘用圓材ニハ屈曲試験ヲ執行セス

第十一條 鋼製ノ鉸釘ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 屈曲試験 常溫ノ儘其ノ桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂
疵ヲ生セサルコトヲ要ス

二 鍛鍊試験 鉸釘ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二・五倍迄ニ扁平ニ打壓シ裂疵ヲ生セサ
ルコトヲ要ス

第十二條 軸、軸ノ一部其ノ他打物ヲ通常使用スヘキ箇所ニ使用スル鑄鋼材ニハ左ノ
試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割
合ハ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 常溫ノ儘二吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百二十度以上屈曲シ裂疵ヲ生セ
サルコトヲ要ス

三 墜落試験 鑄鋼材ハ其ノ形狀及重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ硬質ノ地上ニ

之ヲ墜落スヘシ但シ長大又ハ複雑ナル形狀ニシテ之ヲ墜落スルトキハ變形スル
虞アルモノニ付テハ鑄物ノ上部及底部ヨリ各二箇ノ試験材ヲ採リテ抗張試験及
屈曲試験ヲ執行シ墜落試験ヲ省略スルコトヲ得

四 鉗打試験 鑄鋼材ハ墜落試験ヲ執行シタル後之ヲ吊シテ重量七封度以上ノ鉗ヲ
以テ敲キ其ノ生來ノ裂疵及墜落試験ニ起因スル裂疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキ
コトヲ要ス

鉗釘試験ハ墜落試験ヲ省略シタルモノニ付テモ亦之ヲ執行スヘシ

第十三條 前條ニ掲クルモノヲ除キ其ノ他ノ鑄鋼材ニハ前條ノ墜落試験及鉗打試験ヲ
執行シ抗張試験及屈曲試験ヲ執行セス

第十四條 軸、吸錨鐸、接續鐸、滑瓣鐸及隔心鐸ニ使用スル鍛鋼材ニハ幹部ヨリ小ナ
ラサル截面ヲ有スル部分ヨリ縦ニ切取リタル試験材ニ付左ノ試験ヲ執行スヘシ
此ノ場合ニ於テ試験材ハ之ヲ鍛鍊スルコトヲ得ス

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十五噸以下ニシテ伸長ノ割合ハ
抗張力二十八噸ノモノハ百分ノ二十九以上、抗張力三十五噸ノモノハ百分ノ二

第二十條 検査官吏ハ材料試験ニ合格セサル材料又ハ材料試験ヲ受ケサル材料ト雖其ノ使用ノ方法若ハ部局ヲ限り又ハ條件ヲ附シテ之カ使用ヲ承認スルコトヲ得

第三章 汽機

第二十一條 汽筒ハ削仕上ノ後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 單式汽機ニ於テハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍
- 二 二聯成汽機ニ於テハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇・五ヲ乘シタルモノ
- 三 三聯成汽機ニ於テハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、中壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇・七五ヲ乘シタルモノ、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇・三ヲ乘シタルモノ
- 四 四聯成汽機ニ於テハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、

第一中壓汽筒ハ最大汽壓、第二中壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇・五ヲ乘シタルモノ、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇・二五ヲ乘シタルモノ

辨匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋及辨匣蓋ハ其ノ附屬スル汽筒ニ於ケルト同一ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

「タービン」汽機ノ外筐ハ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 二聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇以上ヨリ成ナルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半、後部ノ外筐ハ每平方吋三十封度
- 二 三聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、中壓外筐ハ初壓力ノ一倍半、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半、後部ノ外筐ハ每平方吋三十封度
- 三 「インパルス」階段ヲ備フル「タービン」汽機ノ前部配汽室ハ最大汽壓ノ一倍半、各膨脹階段ハ初壓力ノ一倍半但シ每平方吋三十封度ヲ下ルコトヲ得ス

四 後退「タービン」汽機ニシテ前各號ニ依リ難キモノノ外筐ハ最大汽壓
 高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタル汽壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ
 相當スル場所ニ適當ナル逃出口ヲ備フルモノニ於テハ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ
 テスルコトヲ得

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、瓣、嘴子等ハ其ノ附屬スル外筐ニ於ケルト同一ノ
 水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

第二十二條 汽機各部ノ寸法ヲ算定スルニハ左ノ算式ニ依リ定メタル汽管内ノ最大壓
 カヲ用ウヘシ

一 單式汽機 $P_1 = P$

二 二聯成汽機

高壓汽管 $P_1 = P$

低壓汽管 $P_4 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_4^2} - 15$

三 三聯成汽機

高壓汽管 $P_1 = P$

中壓汽管 $P_2 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_2^2} - 15 \times 1.1$
 低壓汽管 $P_4 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_4^2} - 15 \times 1.05$

四 四聯成汽機

高壓汽管 $P_1 = P$
 第一中壓汽管 $P_2 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_2^2} - 15 \times 1.1$
 第二中壓汽管 $P_3 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_3^2} - 15 \times 1.05$
 低壓汽管 $P_4 = \frac{(P_1 + 15) \times D_1^2}{D_4^2} - 15$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
 P₁ ハ高壓汽管内最大壓力(每平方吋封度ニテ)
 P₂ ハ中壓汽管内又ハ第一中壓汽管内ノ最大壓力(每平方吋封度ニテ)
 P₃ ハ第二中壓汽管内最大壓力(每平方吋封度ニテ)
 P₄ ハ低壓汽管内最大壓力(每平方吋封度ニテ)
 D₁ ハ高壓汽管ノ徑(吋ニテ)

D₂ ハ中壓汽笛又ハ第一中壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

D₃ ハ第二中壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

D₄ ハ低壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

第二十三條 汽機各部ノ寸法ヲ算定スルニハ左ノ算式ニ依リ定メタル汽笛内ノ最大不
衡壓力ヲ用ウヘシ

一 單式汽機

冷汽器ヲ有セサルトキハ $P_1 = P_1$

冷汽器ヲ有スルトキハ $P_1 = P_1 + 12$

二 二聯成汽機

冷汽器ヲ有セサルトキハ

高壓汽笛 $P_1 = P_1 - P_4$

低壓汽笛 $P_4 = P_4$

冷汽器ヲ有スルトキハ

高壓汽笛 $P_1 = P_1 - P_4$

D₂ ハ中壓汽笛又ハ第一中壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

D₃ ハ第二中壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

D₄ ハ低壓汽笛ノ徑(吋ニテ)

第二十三條 汽機各部ノ寸法ヲ算定スルニハ左ノ算式ニ依リ定メタル汽笛内ノ最大不
衡壓力ヲ用ウヘシ

一 單式汽機

冷汽器ヲ有セサルトキハ $P_1 = P_1$

冷汽器ヲ有スルトキハ $P_1 = P_1 + 12$

二 二聯成汽機

冷汽器ヲ有セサルトキハ

高壓汽笛 $P_1 = P_1 - P_4$

低壓汽笛 $P_4 = P_4$

冷汽器ヲ有スルトキハ

高壓汽笛 $P_1 = P_1 - P_4$

三 三聯成汽機

低壓汽笛 $P_4 = P_4 + 12$

高壓汽笛

$P_1 = P_1 - P_2$

中壓汽笛

$P_2 = P_2 - P_4$

低壓汽笛

$P_4 = P_4 + 12$

四 四聯成汽機

高壓汽笛

$P_1 = P_1 - P_2$

第一中壓汽笛

$P_2 = P_2 - P_3$

第二中壓汽笛

$P_3 = P_3 - P_4$

低壓汽笛

$P_4 = P_4 + 12$

P₁ ハ高壓汽笛内最大不衡壓力(每平方吋封度ニテ)

P₂ ハ中壓汽笛内又ハ第一中壓汽笛内ノ最大不衡壓力(每平方吋封度ニテ)

P₃ ハ第二中壓汽笛内最大不衡壓力(每平方吋封度ニテ)

P₄ ハ低壓汽笛内最大不衡壓力(每平方吋封度ニテ)

$P_1 P_2 P_3 P_4$ ハ前條ノ例ニ依ル

第二十四條 前二條ニ掲クル壓力ハ検査官吏ニ於テ相當ト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ハラズ計畫示壓圖ヲ考量シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 汽笛圓筒部ノ厚又ハ内外二箇ノ圓筒ヲ備フルモノノ内筒ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$T = 0.0001 \times D \times P + 0.15 \sqrt{D} + 0.125$$

T ハ汽笛圓筒部ノ厚(吋ニテ)

D ハ汽笛ノ徑但シ内外二箇ノ圓筒ヲ備フルモノニ在リテハ内筒ノ徑(吋ニテ)

P ハ汽笛内最大壓力(每平方吋封度ニテ)

第二十六條 第一級汽船ノ汽機ニ於テハ各汽笛ノ兩端及汽笛間ノ蒸氣通路ニ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ

「タービン」汽機ニ於テハ適當ナル場所ニ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ

第二十七條 吸鑄鋸螺旋部ノ最小截面積ハ左ノ内力ヲ用キテ之ヲ算定スヘシ

鐵製ニシテ
螺旋上ノ徑一吋二分ノ一未滿ナルトキ 四、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺旋上ノ徑一吋二分ノ一以上ナルトキ 五、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺旋上ノ徑二吋二分ノ一以上ナルトキ 六、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺旋上ノ徑一吋二分ノ一未滿ナルトキ 五、二〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺旋上ノ徑一吋二分ノ一以上ナルトキ 六、三〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺旋上ノ徑二吋二分ノ一以上ナルトキ 七、八〇〇(每平方吋封度ニテ)

第二十八條 接續鋸上下ノ螺釘及軸受螺釘ノ最小截面積ハ左ノ内力ヲ用キテ之ヲ算定スヘシ

スヘシ

螺釘ノ徑一吋未滿ナルトキ 四、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺釘ノ徑一吋以上一吋二分ノ一未滿ナルトキ 五、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺釘ノ徑一吋二分ノ一以上二吋未滿ナルトキ

六、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

螺釘ノ徑二吋以上ナルトキ

七、〇〇〇(每平方吋封度ニテ)

第二十九條 軸、吸鑄鋳、接續鋳、隔心鋳及滑瓣鋳ハ精選シタル屑鐵又ハ塊鋼ヲ鍛鍊シテ之ヲ製造シ且塊鋼ヲ以テ製造スルトキハ鍛鋼材ノ幹部ノ截面ハ原塊鋼ノ截面ノ五分ノ一以内ニ、其ノ他ノ部分ノ截面ハ原塊鋼ノ截面ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊シタルモノナルコトヲ要ス

第三十條 軸、吸鑄鋳、接續鋳並鋼製ノ隔心鋳及滑瓣鋳ハ鍛合スヘカラス又軸鑄ハ軸身ニ鍛合スルコトヲ得ス

第三十一條 鍛鋼ヲ以テ製造シタル大形ノ軸、吸鑄鋳及接續鋳並鑄鋼製品ハ總テ適當ニ燒鈍スヘシ

第三十二條 鋼製軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定メ鐵製軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ得タルモノニ其ノ百分ノ五ヲ増スヘシ

一 汽機ノ中間軸、進力軸及曲拐軸

$$S = \sqrt[3]{\frac{C \times P \times D^2}{f \left(2 + \frac{D^2}{d^2} \right)}}$$

S ハ軸ノ徑(吋ニテ)

d² ハ高壓汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ二乗シタルモノ、高壓汽笛二箇以上ナルトキハ各汽笛ノ徑(吋ニテ)ヲ二乗シ之ヲ加ヘタルモノ

D² ハ低壓汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ二乗シタルモノ、低壓汽笛二箇以上ナルトキハ各汽笛ノ徑(吋ニテ)ヲ二乗シ之ヲ加ヘタルモノ

P ハ冷汽器ヲ有セサルトキハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)、冷汽器ヲ有スルトキハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)ニ十五封度ヲ加ヘタルモノ

C ハ曲拐ノ長(吋ニテ)

f ハ定數ニシテ左表ニ依ル

一	曲拐	曲拐間ノ角度	曲拐ノ前後ニ軸受ヲ有スル曲拐軸及進力軸定數	中間軸定數
			七四〇	八六〇

二	曲	拐	九〇	一、〇五〇	一、二二〇
三	曲	拐	一八〇	七四〇	八六〇
四	曲	拐	一一〇	一、一一〇	一、三〇〇
			一	一、二〇〇	一、四〇〇

單式汽機ニ於テハ算式中 D^2 ノ代リニ 3 ヲ用ヒ又分子ニ於ケル D^2 ハ汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋)ニテ)ヲ二乗シタルモノ、汽笛二箇以上ナルトキハ各汽笛ノ徑(吋)ニテ)ヲ二乗シ之ヲ加ヘタルモノ

二「タービン」汽機ノ中間軸及進力軸

$$S = \sqrt[3]{64 \times S.H.P. / R}$$

R S.H.P S
 ハ中間軸ノ徑(吋)ニテ)
 ハ計畫最大軸馬力
 ハ一分間ニ於ケル軸ノ計畫回轉數

進力軸ノ環ノ間ニ於ケル徑ハ本算式ニ依リ定メタル中間軸ノ徑ニ其ノ百分ノ五ヲ増スヘシ

三 螺旋軸

$$S_1 = 0.96S + 0.01P$$

S_1 ハ螺旋軸ノ徑(吋)ニテ)
 S ハ前二號ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(吋)ニテ)
 P ハ螺旋推進器ノ徑(吋)ニテ)
 螺旋軸ノ徑ハ中間軸ノ徑ノ一・一一倍ヨリ小ナルヘカラス

第三十三條 螺旋軸ノ船尾管填篋環ノ前部ニ於ケル徑竝進力軸ノ進力受臺ノ前部及後部ニ於ケル徑ハ中間軸ノ徑ト同一ト爲スコトヲ得

第三十四條 外車汽機ノ軸ノ徑ハ本章第三十二條ニ於ケル同種汽機ノ曲拐軸ノ算式ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ曲拐軸ノ定數ニ一・四ヲ乗シタル定數ヲ用ウヘシ

第三十五條 軸身ハ其ノ表面ヲ旋削スヘシ

第三十六條 前後ニ軸受ヲ有スル曲拐栓ノ徑ハ本章第三十二條ノ規定ニ依リ定メタル

曲拐軸ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第三十七條 一端ニノミ軸受ヲ有スル曲拐軸ノ徑ハ本章第三十二條ノ規定ニ依リ、其ノ曲拐栓ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$d = \frac{1}{Q} \sqrt[3]{(PA) \times L}$$

d ハ曲拐栓ノ徑(吋ニテ)

L ハ曲拐栓ノ長(吋ニテ)

(PA) ハ一曲拐上ノ汽笛一箇ナルトキハ其ノ汽笛ノ面積(平方吋ニテ)ニ汽笛内最大不

衡壓力(每平方吋封度ニテ)ヲ乗シタルモノ、一曲拐上ノ汽笛二箇以上ナルトキ

ハ各汽笛ノ面積(平方吋ニテ)ニ各汽笛内最大不衡壓力(每平方吋封度ニテ)ヲ乗

シ之ヲ加ヘタルモノ

c ハ定數ニシテ (鐵製ナルトキ
鋼製ナルトキ)

一二
一四

第三十八條 軸銚ヲ連結スル螺釘ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$d = \sqrt{\frac{D^3}{2 \times N \times d_1}}$$

d ハ螺釘ノ徑(吋ニテ)

N ハ螺釘ノ數

D ハ本章第三十二條ニ依リ定メタル鋼製中間軸又ハ本章第三十四條ニ依リ定メタル軸ノ徑(吋ニテ)

d₁ ハ螺釘心圈ノ徑(吋ニテ)

第三十九條 船尾管ノ前後兩端及螺旋軸支肘ニハ適當ナル支面材ヲ備フヘシ

第四十條 冷汽管ノ長カ管ノ外徑ノ百二十倍以上ナルトキハ百二十倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設クヘシ

第四十一條 冷汽器ハ冷汽管ヲ取附クル前ニ每平方吋二十封度ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行シ之ヲ取附ケタル後適當ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ試験スヘシ

第四章 汽 罐

第四十二條 汽罐ノ製造ニ用ウル壓延鋼材ハ平爐ニ依リ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキ

モノナルコトヲ要ス

第四十三條 鍛合又ハ鎔接シタル鋼板ハ主トシテ張力ヲ受クル箇所ニ使用スヘカラス
但シ小ナル汽兜ノ胴板縦接合ニシテ板ノ厚二分ノ一時ヲ超エサルモノニ付鍛合シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於ケル鍛合ノ強率ハ百分ノ五十ト看做ス

鋼製支柱ハ鍛合又ハ鎔接スヘカラス

第四十四條 鋼板及鋼製支柱ハ工事ノ爲熱シタルトキハ之ヲ焼鈍スヘシ

鋼板ニ打貫孔ヲ穿チタルトキハ焼鈍ヲ行フカ又ハ該孔ノ周圍ヲ揉ミ擴クヘシ

第四十五條 罐胴ニ人孔又ハ附屬具取附ノ爲設クル孔ノ徑カ胴板ノ厚ノ二倍半ニ二吋四分ノ三ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ胴板ノ縦接合ニ於ケル強率ヨリ小ナラサル強率ヲ有スル補強環ヲ施スヘシ

罐胴ニ設クル橢圓形ノ孔ハ常ニ短徑ヲ罐ノ長ニ竝行セシムヘシ

平板ニ設クル人孔、検査孔及泥孔ハ相當ノ縁環又ハ突縁ニ依リテ補強スヘシ但シ長徑六吋以下ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ人孔、検査孔又ハ泥孔ヲ突縁ニ依リ補強スルトキハ其ノ突縁ノ深ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$H = \frac{t}{2} \times W$$

h ハ板ノ外面ヨリ測リタル突縁ノ深(吋ニテ)

t ハ板ノ厚(吋ニテ)

W ハ孔ノ短徑(吋ニテ)

第四十六條 人孔、泥孔及検査孔ノ蓋ニ押壓製ノモノヲ用ウルトキハ適當ニ之ヲ焼鈍スヘシ

孔蓋ノ突出部ト孔トノ間隙ハ十六分ノ一時(孔ノ徑ト孔蓋ノ突出部ノ徑トノ差八分ノ一時)ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十七條 胴板ノ接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 絞釘ノ數各列同一ナル場合竝三列釘以上ノ接合ニシテ内列及外列ニ於ケル絞釘ノ數半數ナル場合

外覆板 $t = \frac{5}{8} \times T$

内覆板 $t_n = \frac{5}{8} \times T + \frac{1}{8}$

二 鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナル場合

外覆板 $t = \frac{5 \times T(P-d)}{8 \times (P-2d)}$

内覆板 $t_n = \frac{5 \times T(P-d)}{8 \times (P-2d)} + \frac{1}{8}$

ハ接合スヘキ板ノ厚(吋ニテ)

t ハ外覆板ノ厚(吋ニテ)

t_n ハ内覆板ノ厚(吋ニテ)

P ハ鉸釘ノ最大心距(吋ニテ)

d ハ鉸釘孔ノ徑(吋ニテ)

第四十八條 端列ニ於ケル鉸釘孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ其ノ孔徑ノ一倍半以上ナルコトヲ要ス

累接合又ハ衝接合ニ於ケル鉸釘カ二列以上ナルトキハ鉸釘列間ノ距離ハ左ノ算式ニ

依リ之ヲ定ムヘシ

一 鉸釘ノ數各列同一ナル場合

イ 千鳥形鉸締ナルトキ

$$V_1 = 0.33P + 0.67d$$

ロ 竝列鉸締ナルトキ

$$V_1 = 2d$$

二 鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナル場合竝三列釘以上ノ接合ニシテ内列及外列ニ於ケル鉸釘ノ數半數ナル場合

イ 千鳥形鉸締ナルトキ

$$V = 0.2P + 1.15d$$

$$V_1 = 0.165P + 0.67d$$

ロ 竝列鉸締ナルトキ

$$V = 0.33P + 0.67d \left. \begin{array}{l} \text{ノ中其ノ大ナル} \\ \text{モノヲ用ウヘシ} \end{array} \right\}$$

$$V = 2d$$

$$V_1 = 2d$$

前各號ニ於テ

V ハ鉸釘列間ノ距離(吋ニテ)ニシテ鉸釘ノ數全數ナル列ト半數ナル列トノ間ニ於テ測リタルモノ

V₁ ハ鉸釘列間ノ距離(吋ニテ)ニシテ鉸釘ノ數全數ナル各列間ニ於テ測リタルモノ

P ハ外列ニ於ケル鉸釘ノ心距(吋ニテ)

d ハ鉸釘孔ノ徑(吋ニテ)

第四十九條 胴板ノ縦接合ニ於ケル鉸釘ノ最大心距ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = C \times T + 1 \frac{1}{2}$$

P ハ鉸釘ノ最大心距(吋ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

於ケル鉸釘數	於ケル鉸釘數ニ依ル	累接合ナルトキ	兩覆板銜接合ナルトキ
一	一	一・三一	一・七五
二	二	二・六二	三・五〇

三	三・四七	四・六三
四	四・一四	五・五二
五		六・〇〇

第五十條 直立汽罐ノ罐胴周圍接合ノ強率並筒形汽罐及兩口汽罐ノ罐胴ト鏡板トノ接

合強率ハ百分ノ四十二未滿ト爲スコトヲ得ス

前項以外ノ罐胴周圍接合ノ強率ハ筒形汽罐ニ在リテハ百分ノ六十未滿、兩口汽罐ニ在リテハ百分ノ六十二未滿ト爲スコトヲ得ス

筒形汽罐及兩口汽罐ノ罐胴ト鏡板トノ接合ハ胴板ノ厚八分ノ五吋ヲ超ユルトキハ二列釘ト爲シ其ノ他ノ罐胴周圍接合ハ胴板ノ厚筒形汽罐ニ在リテハ一時八分ノ三ヲ超ユルトキハ三列釘、兩口汽罐ニ在リテハ二分ノ一時ヲ超ユルトキハ二列釘、一時十六分ノ三ヲ超ユルトキハ三列釘ト爲スコトヲ要ス

直立汽罐ノ罐胴周圍接合ハ其ノ接合カ全周ニ互ラサルトキ又ハ胴板ノ厚八分ノ五吋ヲ超ユルトキハ二列釘ト爲スコトヲ要ス

第五十一條 鋼製筒形汽罐ノ胴板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 胴板ノ厚カ一吋四分ノ三ヲ超エサル場合

$$P = \frac{(t-a) \times S \times J}{C \times D}$$

二 胴板ノ厚カ一吋四分ノ三ヲ超エ且縦接合ニ於テ兩覆板ヲ有スル場合

$$P = \frac{t \times S \times J}{2.85 \times D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

D ハ罐胴ノ最大内徑(吋ニテ)

t ハ胴板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

S ハ胴板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)

J ハ縦接合ノ強率ニシテ左ノ算式中其ノ最小ナルモノヲ用ウヘシ

イ 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$J_1 = \frac{p-d}{p} \times 100$$

ロ 接合ニ於ケル鉸釘ノ強率

$$J_2 = \frac{S_2 \times n \times a}{S_1 \times p \times T} \times 100$$

ハ 鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鉸釘及胴板ノ聯合強率

$$J_3 = \frac{100(p-2d)}{p} + \frac{J_2}{n}$$

p ハ外列ニ於ケル鉸釘ノ心距(吋ニテ)

d ハ鉸釘孔ノ徑(吋ニテ)

T ハ胴板ノ厚(吋ニテ)

a ハ鉸釘孔ノ面積(平方吋ニテ)但シ兩剪力ヲ受クル鉸釘ナルトキハ其ノ一・八七五倍

n ハpナル心距ニ於ケル鉸釘ノ數

S₁ ハ胴板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)

S₂ ハ鉸釘ノ抗剪力ニシテ每平方吋二十三噸又ハ鉸釘用圓材ノ最小抗張力ノ百分ノ八十五

C ハ左表ニ依ル

縦接合ニ於テ兩覆板ヲ有スルトキ	二・七五
縦接合ニ於テ果接三列鉸釘ナルトキ	二・八三

縦接合ニ於テ累接二列鉸釘ナルトキ	二・九〇
縦接合ニ於テ累接一列鉸釘ナルトキ	三・三〇

第五十二條 平面ヲ支フル支柱ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 鋼製螺旋支柱又ハ本編第二章第九條ノ試験ニ合格シタル鐵製螺旋支柱ニシテ一時ニ付九箇ヨリ少カラサル螺糸ヲ有スルトキ

$$P = \frac{(d - 0.267)^2}{2} \times 8,250$$

螺旋支柱ノ内力ハ每平方吋九、〇〇〇封度ヲ超ユルコトヲ得ス

- 二 螺旋支柱ニ非サル鋼製支柱ニシテ一時ニ付六箇ヨリ少カラサル螺糸ヲ有スルトキ

$$P = \frac{(p - 0.340)^2 \times 9,500}{2} \times \frac{S}{28}$$

支柱ノ最小抗張力二十八噸ナル場合ニ於ケル内力ハ每平方吋一一、〇〇〇封度ヲ超ユルコトヲ得ス

- 三 螺旋支柱ニ非サル鋼製支柱ノ幹部ノ徑カ螺旋部ノ最小徑ヨリ小ナルトキ

$$P = \frac{(d_1 - 0.125)^2 \times 9,500}{2} \times \frac{S}{28}$$

前各號ニ於テ

- P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
- d ハ支柱ノ螺旋上ノ徑(吋ニテ)
- d₁ ハ支柱ノ最小徑(吋ニテ)
- a ハ支柱一箇ノ支フル面積(平方吋ニテ)
- S ハ鋼製支柱ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)

第五十三條 支柱管ノ内力ハ一平方吋ニ付七、五〇〇吋封度トス

支柱管ノ最小厚ハ十六分ノ三吋以上ト爲スコトヲ要ス但シ外列ニ於ケルモノハ成ルヘク四分ノ一吋以上ト爲スヘシ

第五十四條 支柱管ノ螺糸數ハ成ルヘク一時ニ付十箇ヲ超エス又第五十二條第三號ノ

鋼製支柱ノ螺糸數ハ成ルヘク一時ニ付六箇未滿ト爲スヘシ

支柱管ノ後管板取附部ニハ成ルヘク母螺ヲ用ウヘカラス

累接鍛合ノ鐵製若ハ鋼製焔管又ハ無接合鋼製焔管ノ厚ハ成ルヘク左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

管ノ外徑(吋ニテ)	管ノ厚(L、S、Gニテ)	方最 吋大 封汽 度壓 (每 吋平
二吋ノトキ	九〇一	三二一〇五五
二吋四分ノ一ノトキ	八九〇一	三二一〇五五
二吋半ノトキ	八九〇一	三二一〇五五
二吋四分ノ三ノトキ	八九〇一	三二一〇五五
三吋ノトキ	七八九〇	三二一〇五五
三吋四分ノ一ノトキ	七八九〇	三二一〇五五

三吋半ノトキ	七八九〇	三二一〇五五
--------	------	--------

第五十五條 斜向支柱ノ截面積ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ平板斜向支柱ニ於テハ其ノ截面積ヲ尙大ナラシムヘシ

$$A = \frac{a \times L}{H}$$

A ハ斜向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

a ハ平板ヲ支フル直向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

L ハ斜向支柱ノ長(吋ニテ)

H ハ斜向支柱ノ一端ヨリ平板面ニ垂直ノ長(吋ニテ)

第五十六條 支柱又ハ其ノ他ノ補強ヲ有スル平板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支フルトキ

$$P = \frac{c \times (b - T)^2}{a^2 + b^2}$$

- P ハ最大汽壓(毎平方吋封度ニテ)
- t ハ板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
- a ハ支柱各列線ノ距離(吋ニテ)
- b ハ各列ニ於ケル支柱心距(吋ニテ)
- c ハ定數ニシテ左表ニ依ル

支柱ノ取附種類	板カ火焰ノ接觸ヲ受ケサルトキ	板カ火焰ノ接觸ヲ受クルトキ
甲 支柱ヲ板ニ挿込ミ其ノ端ヲ絞締シタルトキ	五七	五〇
乙 支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニ母螺ヲ有スルトキ	八六	七五
丙 支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺ヲ以テ締附ケタルトキ	九六	八四
丁 板ノ厚ノ二倍半ヲ超エサル内半径ヲ有スル突縁ヲ以テ板ヲ補強シタルトキ	一一〇	九六
戊 支柱管ヲ管板ニ挿込ミ其ノ端ヲ擴張シタルトキ		五二
己 戊ノ支柱管ニシテ外面ニ母螺ヲ有スルトキ		七二

支柱ヲ板ニ挿込ミ其ノ端ヲ絞締シタル場合ニ於ケル板ノ厚ハ規定ニ依リ定メタル支柱ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ス

燃燒室内ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ夫々最近キ支柱列ト該板突縁彎曲部ノ起點間ノ距離ハ算出心距 a ヨリ大ナルコトヲ得ス

燃燒室内ノ頂板ト側板トノ接合部ニ於テ頂板ヲ彎曲スル場合ニ若其ノ彎曲ノ外半径カ支梁ノ算出心距ノ二分ノ一ヨリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最近キ支梁間ノ距離ハ支梁ノ算出心距ヲ超ユルコトヲ得ス又彎曲部ノ半径カ支梁ノ算出心距ノ二分ノ一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ測リタル平坦部ノ幅ハ支梁ノ算出心距ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

二 支柱ヲ罐板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ覆板ヲ當テ内外ヨリ母螺ヲ以テ支柱端ヲ締附ケタルトキ

$$P = \frac{C}{a^2 + D^2} [(t-1)^2 + c_1 t^2]$$

- t_w ハ座金、條板又ハ覆板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
- c ハ板カ火焰ノ接觸ヲ受ケサルトキ……………一〇〇
- ハ板カ火焰ノ接觸ヲ受クルトキ……………八七
- P、t、a、b 第一號ニ同シ
- c_1 ハ左表ニ依ル

厚ハ板ノ厚ノ一倍乃至三分ノ二徑ハ支柱ノ徑ノ三倍半ヨリ小ナラサル座金ヲ有スルトキ	〇・一五
厚ハ板ノ厚ノ一倍乃至三分ノ二徑ハ支柱ノ心距ノ三分ノ二以上ノ座金ヲ鈎ニテ取附ケタルトキ	〇・三五
厚ハ板ノ厚ノ一倍乃至三分ノ二幅ハ支柱心距ノ三分ノ二以上ノ條板ヲ鈎ニテ取附ケタルトキ	〇・五五
板ノ厚ノ一倍乃至三分ノ二ノ厚ヲ有スル覆板ヲ鈎ニテ取附ケタルトキ	〇・八五

支柱ノ配置不規則ナル場合ニ在リテハ算式中 $a^2 + b^2$ ノ代リニ d^2 ヲ用ウヘシ但シ d ハ支柱ノ中心又ハ彎曲ノ起點ノ中少クモ三支點ヲ通ル最大圓ノ直徑トス

支柱ノ取附種類カ相異ナルトキノ定數 c ハ各取附種類ニ相當スルモノノ平均トス

第五十七條 支柱管ヲ以テ支フル管板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 焰管巢ニ於ケル管板ナルトキ

$$P = \frac{c \times (t - 1)^2}{p^2}$$

- P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
- t ハ管板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
- p ハ管板ヲ支フル支柱管ノ平均心距(四邊形ノ邊ノ和ヲ四ニテ除シタルモノ)(吋)

ニテ)

- c ハ 支柱焰管ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シタルトキ……………三八
- 前記ノ支柱管ニシテ外面ニ母螺ヲ有スルトキ……………四九

二 焰管巢間及焰管端列ト胴板間ノ充水部ニ於ケル平板ナルトキ

$$P = \frac{c [(t - 1)^2 + 0.55t^2]}{a^2 + b^2}$$

- p、t ハ前號ニ同シ
- t_w ハ覆板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
- a ハ充水部ニ於ケル支柱管ノ水平心距(吋ニテ)
- b ハ端列ニ於ケル支柱管ノ縦心距(吋ニテ)
- c ハ 端列ノ支柱管カ外面ニ母螺ヲ有セサルトキ……………五二
- 端列ノ支柱管カ一本置ニ母螺ヲ有スルトキ……………六三
- 端列ノ支柱管カ悉ク母螺ヲ有スルトキ……………七二

第五十八條 水平ノ焰管巢ヲ有スル直立汽罐ノ管板ニシテ罐胴ト同シク張力ヲ受クルモノノ強力ハ前條ノ規定並左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{(t-d) \times S \times (p-d) \times 100}{2.9 \times D \times p}$$

- P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
 - ハ管板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
 - S ハ管板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)
 - D ハ罐胴ノ中心線ヨリ端列ニ於ケル管孔ノ中心迄ノ距離ノ二倍(吋ニテ)
 - p ハ管ノ縦心距(吋ニテ)
 - d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑(吋ニテ)
- 前項ノ管板ノ内力ハ胴板ノ内力ヨリ大ナルコトヲ得ス又縦端列ニ於ケル管ハ一本置ニ支柱管ト爲スヘシ

第五十九條

燃燒室上部ノ壓力ヲ受クル管板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{875 \times (D-d) \times t}{W \times D}$$

- P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
- ハ管板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

- D ハ焰管ノ水平心距(吋ニテ)
- d ハ普通焰管ノ内徑(吋ニテ)
- W ハ燃燒室上部ノ内幅(吋ニテ)

第六十條

燃燒室ノ頂板ヲ支フル支梁ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{c \times t^2 \times t}{(L-p) \times D \times L} \times \frac{S}{28}$$

- P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)
- d ハ支梁中央部ノ深(吋ニテ)
- t ハ支梁中央部ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)
- L ハ兩管板間ノ距離又ハ管板ト燒燃室後部トノ距離(吋ニテ)
- p ハ支梁上ニ在ル支柱ノ心距(吋ニテ)
- D ハ支梁ノ心距(吋ニテ)
- S ハ支梁ニ用ウル鋼板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)ニシテ鍛製支梁ノ場合ニ於テハ鐵ナルトキ二十四、鋼ナルトキ二十八トス
- c ハ定數ニシテ
- イ 各支梁ニ用ウル支柱ノ數カ寄數ナルトキ

$$c = \frac{n}{n+1} \times 495$$

ロ 各支梁ニ用ウル支柱ノ數カ偶數ナルトキ

$$c = \frac{n+1}{n+2} \times 495$$

ハ 各支梁ニ備フル支柱ノ數

第六十一條 筒形火爐ノ強力ハ左ノ算式中小ナルモノヲ用キ之ヲ定ムハシ

$$P = \frac{c \times (t-1)^2}{(1+24 \times D)}$$

又ハ $P = \frac{c^2}{D} [10(t-1)-11]$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

t ハ板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

D ハ火爐又ハ燃燒室底部ノ外徑(吋ニテ)

L ハ火爐平坦部又ハ燃燒室底部ノ長ニシテ板ノ突縁ニ接スル所ニ於テハ接合鉸釘ノ中心線ヨリ測リタルモノ(吋ニテ)突縁ヲ以テ板ニ接スル所、縁環及「アダムソ

ン」式環ニ於テハ各彎曲部ノ起點ヨリ測リタルモノ(吋ニテ)

c 縦接合ヲ鍛合シタルトキ……………一、四五〇

ハ 縦接合ヲ鉸締シタルトキ……………一、三〇〇

c₁ 縦接合ヲ鍛合シタルトキ……………五〇

ハ 縦接合ヲ鉸締シタルトキ……………四五

第六十二條 皺形火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{c(t-1)}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

t ハ板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)ニシテ皺形ノ最小部ニ於テ測リタルモノ

D 皺ハ皺形ノ最小部ニ於ケル外徑(吋ニテ)

c 「フォックス」式「モリソン」式「デイトン」式……………四八〇

ハ 「パーヴス」式及之ニ類スル火爐ナルトキ……………四八〇

c 「リーズ、フォージ、バルブ」式火爐ナルトキ……………五一〇

第六十三條 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ハ本章第六十一條ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ
此ノ場合ニ於ケル徑ハ火爐ノ頂部及底部ニ於ケル各徑(突縁部ニ於ケル彎曲起點又ハ補強環ニ於テ測リタルモノ)ノ平均トシ長ハ火爐ト頂板トノ接合鉸釘ノ中心線ヨ

リ火爐底部ニ於ケル補強部迄又ハ火爐ト罐胴トヲ接合スル螺旋支柱列迄ノ距離トス但シ火爐ニ於ケル螺旋支柱ノ心距ハ其ノ端ヲ絞締シタルモノニ在リテハ爐板ノ厚ノ十四倍ヲ、支柱端ニ母螺ヲ有スルモノニ在リテハ爐板ノ厚ノ十六倍ヲ超エス又螺旋支柱ノ螺旋上ノ徑ハ爐板ノ厚ノ二・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ス

第六十四條 支柱又ハ其ノ他ノ補強ヲ有セサル半球狀火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{275(t-1)}{R}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

t ハ火爐ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

R ハ火爐ノ彎曲ノ外半徑(吋ニテ)

第六十五條 直立汽罐ニ於テ火爐底部ト罐胴トヲ接合スル「オジ」環ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{140(t-1)^2}{D \times (D-d)}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

t ハ「オジ」環ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

D ハ罐胴ノ内徑(吋ニテ)

d ハ火爐下部ノ外徑ニシテ「オジ」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ(吋ニテ)

第六十六條 火爐ノ厚ハ十六分ノ十三吋ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十七條 外方ニ凸出スル皿形鏡板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{15 \times S \times (t-1)}{R}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

t ハ鏡板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

R ハ凸出ノ内半徑(吋ニテ)ニシテ胴ノ徑ヨリ大ナルコトヲ得ス

S ハ鏡板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)

鏡板ニ人孔ヲ設クルトキハ前項ノ算式ニ依リ得タル板ノ厚ニ八分ノ一時ヲ加フヘシ突縁部ニ於ケル彎曲ノ内半徑ハ鏡板ノ厚ノ四倍未滿若ハ二吋半未滿ナルコトヲ得ス人孔ヲ突縁ニ依リ補強スルトキハ本章第四十五條第四項ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六十八條 二枚以上ノ板ヨリ成ル半球鏡板ニシテ支柱又ハ其ノ他ノ補強ヲ有セサル

モノノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{(t-2) \times S \times J}{C \times R}$$

P ハ最大汽壓(毎平方吋封度ニテ)

ハ鏡板ノ厚(吋ノ三十二分ノ一ニテ)

S ハ鏡板ノ最小抗強力(毎平方吋噸ニテ)

J ハ接合ノ強率

R ハ彎曲ノ内半徑(吋ニテ)

c	鏡板ノ接合カ一列	鏡板ノ接合カ二列	鏡板ノ接合カ三列
	鏡板ノ接合カ二列	鏡板ノ接合カ三列	鏡板ノ接合カ四列
	鏡板ノ接合カ三列	鏡板ノ接合カ四列	鏡板ノ接合カ五列
	鏡板ノ接合カ四列	鏡板ノ接合カ五列	鏡板ノ接合カ六列
	鏡板ノ接合カ五列	鏡板ノ接合カ六列	鏡板ノ接合カ七列
	鏡板ノ接合カ六列	鏡板ノ接合カ七列	鏡板ノ接合カ八列
	鏡板ノ接合カ七列	鏡板ノ接合カ八列	鏡板ノ接合カ九列
	鏡板ノ接合カ八列	鏡板ノ接合カ九列	鏡板ノ接合カ十列
	鏡板ノ接合カ九列	鏡板ノ接合カ十列	鏡板ノ接合カ十一列
	鏡板ノ接合カ十列	鏡板ノ接合カ十一列	鏡板ノ接合カ十二列
	鏡板ノ接合カ十一列	鏡板ノ接合カ十二列	鏡板ノ接合カ十三列
	鏡板ノ接合カ十二列	鏡板ノ接合カ十三列	鏡板ノ接合カ十四列
	鏡板ノ接合カ十三列	鏡板ノ接合カ十四列	鏡板ノ接合カ十五列
	鏡板ノ接合カ十四列	鏡板ノ接合カ十五列	鏡板ノ接合カ十六列
	鏡板ノ接合カ十五列	鏡板ノ接合カ十六列	鏡板ノ接合カ十七列
	鏡板ノ接合カ十六列	鏡板ノ接合カ十七列	鏡板ノ接合カ十八列
	鏡板ノ接合カ十七列	鏡板ノ接合カ十八列	鏡板ノ接合カ十九列
	鏡板ノ接合カ十八列	鏡板ノ接合カ十九列	鏡板ノ接合カ二十列
	鏡板ノ接合カ十九列	鏡板ノ接合カ二十列	鏡板ノ接合カ二十一列
	鏡板ノ接合カ二十列	鏡板ノ接合カ二十一列	鏡板ノ接合カ二十二列
	鏡板ノ接合カ二十一列	鏡板ノ接合カ二十二列	鏡板ノ接合カ二十三列
	鏡板ノ接合カ二十二列	鏡板ノ接合カ二十三列	鏡板ノ接合カ二十四列
	鏡板ノ接合カ二十三列	鏡板ノ接合カ二十四列	鏡板ノ接合カ二十五列
	鏡板ノ接合カ二十四列	鏡板ノ接合カ二十五列	鏡板ノ接合カ二十六列
	鏡板ノ接合カ二十五列	鏡板ノ接合カ二十六列	鏡板ノ接合カ二十七列
	鏡板ノ接合カ二十六列	鏡板ノ接合カ二十七列	鏡板ノ接合カ二十八列
	鏡板ノ接合カ二十七列	鏡板ノ接合カ二十八列	鏡板ノ接合カ二十九列
	鏡板ノ接合カ二十八列	鏡板ノ接合カ二十九列	鏡板ノ接合カ三十列
	鏡板ノ接合カ二十九列	鏡板ノ接合カ三十列	鏡板ノ接合カ三十一列
	鏡板ノ接合カ三十列	鏡板ノ接合カ三十一列	鏡板ノ接合カ三十二列
	鏡板ノ接合カ三十一列	鏡板ノ接合カ三十二列	鏡板ノ接合カ三十三列
	鏡板ノ接合カ三十二列	鏡板ノ接合カ三十三列	鏡板ノ接合カ三十四列
	鏡板ノ接合カ三十三列	鏡板ノ接合カ三十四列	鏡板ノ接合カ三十五列
	鏡板ノ接合カ三十四列	鏡板ノ接合カ三十五列	鏡板ノ接合カ三十六列
	鏡板ノ接合カ三十五列	鏡板ノ接合カ三十六列	鏡板ノ接合カ三十七列
	鏡板ノ接合カ三十六列	鏡板ノ接合カ三十七列	鏡板ノ接合カ三十八列
	鏡板ノ接合カ三十七列	鏡板ノ接合カ三十八列	鏡板ノ接合カ三十九列
	鏡板ノ接合カ三十八列	鏡板ノ接合カ三十九列	鏡板ノ接合カ四十列
	鏡板ノ接合カ三十九列	鏡板ノ接合カ四十列	鏡板ノ接合カ四十一列
	鏡板ノ接合カ四十列	鏡板ノ接合カ四十一列	鏡板ノ接合カ四十二列
	鏡板ノ接合カ四十一列	鏡板ノ接合カ四十二列	鏡板ノ接合カ四十三列
	鏡板ノ接合カ四十二列	鏡板ノ接合カ四十三列	鏡板ノ接合カ四十四列
	鏡板ノ接合カ四十三列	鏡板ノ接合カ四十四列	鏡板ノ接合カ四十五列
	鏡板ノ接合カ四十四列	鏡板ノ接合カ四十五列	鏡板ノ接合カ四十六列
	鏡板ノ接合カ四十五列	鏡板ノ接合カ四十六列	鏡板ノ接合カ四十七列
	鏡板ノ接合カ四十六列	鏡板ノ接合カ四十七列	鏡板ノ接合カ四十八列
	鏡板ノ接合カ四十七列	鏡板ノ接合カ四十八列	鏡板ノ接合カ四十九列
	鏡板ノ接合カ四十八列	鏡板ノ接合カ四十九列	鏡板ノ接合カ五十列
	鏡板ノ接合カ四十九列	鏡板ノ接合カ五十列	鏡板ノ接合カ五十一列
	鏡板ノ接合カ五十列	鏡板ノ接合カ五十一列	鏡板ノ接合カ五十二列
	鏡板ノ接合カ五十一列	鏡板ノ接合カ五十二列	鏡板ノ接合カ五十三列
	鏡板ノ接合カ五十二列	鏡板ノ接合カ五十三列	鏡板ノ接合カ五十四列
	鏡板ノ接合カ五十三列	鏡板ノ接合カ五十四列	鏡板ノ接合カ五十五列
	鏡板ノ接合カ五十四列	鏡板ノ接合カ五十五列	鏡板ノ接合カ五十六列
	鏡板ノ接合カ五十五列	鏡板ノ接合カ五十六列	鏡板ノ接合カ五十七列
	鏡板ノ接合カ五十六列	鏡板ノ接合カ五十七列	鏡板ノ接合カ五十八列
	鏡板ノ接合カ五十七列	鏡板ノ接合カ五十八列	鏡板ノ接合カ五十九列
	鏡板ノ接合カ五十八列	鏡板ノ接合カ五十九列	鏡板ノ接合カ六十列
	鏡板ノ接合カ五十九列	鏡板ノ接合カ六十列	鏡板ノ接合カ六十一列
	鏡板ノ接合カ六十列	鏡板ノ接合カ六十一列	鏡板ノ接合カ六十二列
	鏡板ノ接合カ六十一列	鏡板ノ接合カ六十二列	鏡板ノ接合カ六十三列
	鏡板ノ接合カ六十二列	鏡板ノ接合カ六十三列	鏡板ノ接合カ六十四列
	鏡板ノ接合カ六十三列	鏡板ノ接合カ六十四列	鏡板ノ接合カ六十五列
	鏡板ノ接合カ六十四列	鏡板ノ接合カ六十五列	鏡板ノ接合カ六十六列
	鏡板ノ接合カ六十五列	鏡板ノ接合カ六十六列	鏡板ノ接合カ六十七列
	鏡板ノ接合カ六十六列	鏡板ノ接合カ六十七列	鏡板ノ接合カ六十八列
	鏡板ノ接合カ六十七列	鏡板ノ接合カ六十八列	鏡板ノ接合カ六十九列
	鏡板ノ接合カ六十八列	鏡板ノ接合カ六十九列	鏡板ノ接合カ七十列
	鏡板ノ接合カ六十九列	鏡板ノ接合カ七十列	鏡板ノ接合カ七十一列
	鏡板ノ接合カ七十列	鏡板ノ接合カ七十一列	鏡板ノ接合カ七十二列
	鏡板ノ接合カ七十一列	鏡板ノ接合カ七十二列	鏡板ノ接合カ七十三列
	鏡板ノ接合カ七十二列	鏡板ノ接合カ七十三列	鏡板ノ接合カ七十四列
	鏡板ノ接合カ七十三列	鏡板ノ接合カ七十四列	鏡板ノ接合カ七十五列
	鏡板ノ接合カ七十四列	鏡板ノ接合カ七十五列	鏡板ノ接合カ七十六列
	鏡板ノ接合カ七十五列	鏡板ノ接合カ七十六列	鏡板ノ接合カ七十七列
	鏡板ノ接合カ七十六列	鏡板ノ接合カ七十七列	鏡板ノ接合カ七十八列
	鏡板ノ接合カ七十七列	鏡板ノ接合カ七十八列	鏡板ノ接合カ七十九列
	鏡板ノ接合カ七十八列	鏡板ノ接合カ七十九列	鏡板ノ接合カ八十列
	鏡板ノ接合カ七十九列	鏡板ノ接合カ八十列	鏡板ノ接合カ八十一列
	鏡板ノ接合カ八十列	鏡板ノ接合カ八十一列	鏡板ノ接合カ八十二列
	鏡板ノ接合カ八十一列	鏡板ノ接合カ八十二列	鏡板ノ接合カ八十三列
	鏡板ノ接合カ八十二列	鏡板ノ接合カ八十三列	鏡板ノ接合カ八十四列
	鏡板ノ接合カ八十三列	鏡板ノ接合カ八十四列	鏡板ノ接合カ八十五列
	鏡板ノ接合カ八十四列	鏡板ノ接合カ八十五列	鏡板ノ接合カ八十六列
	鏡板ノ接合カ八十五列	鏡板ノ接合カ八十六列	鏡板ノ接合カ八十七列
	鏡板ノ接合カ八十六列	鏡板ノ接合カ八十七列	鏡板ノ接合カ八十八列
	鏡板ノ接合カ八十七列	鏡板ノ接合カ八十八列	鏡板ノ接合カ八十九列
	鏡板ノ接合カ八十八列	鏡板ノ接合カ八十九列	鏡板ノ接合カ九十列
	鏡板ノ接合カ八十九列	鏡板ノ接合カ九十列	鏡板ノ接合カ九十一列
	鏡板ノ接合カ九十列	鏡板ノ接合カ九十一列	鏡板ノ接合カ九十二列
	鏡板ノ接合カ九十一列	鏡板ノ接合カ九十二列	鏡板ノ接合カ九十三列
	鏡板ノ接合カ九十二列	鏡板ノ接合カ九十三列	鏡板ノ接合カ九十四列
	鏡板ノ接合カ九十三列	鏡板ノ接合カ九十四列	鏡板ノ接合カ九十五列
	鏡板ノ接合カ九十四列	鏡板ノ接合カ九十五列	鏡板ノ接合カ九十六列
	鏡板ノ接合カ九十五列	鏡板ノ接合カ九十六列	鏡板ノ接合カ九十七列
	鏡板ノ接合カ九十六列	鏡板ノ接合カ九十七列	鏡板ノ接合カ九十八列
	鏡板ノ接合カ九十七列	鏡板ノ接合カ九十八列	鏡板ノ接合カ九十九列
	鏡板ノ接合カ九十八列	鏡板ノ接合カ九十九列	鏡板ノ接合カ百列

第六十九條 汽罐ハ新製シタルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

一 毎平方吋ノ最大汽壓百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

二 毎平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモ

第五章 唧筒、瓣、嘴子及管

第七十條 遠洋航路ノ汽船ニ在リテハ正給水唧筒及正滄水唧筒各二箇ヲ備ヘ其ノ一箇

ヲ使用スルトキト雖他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ装置ト爲スヘシ

遠洋航路ノ帆船及近海航路以下ノ船舶ニ在リテハ正給水唧筒及正滄水唧筒各一箇ヲ

備フヘシ

前二項ノ唧筒ハ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉セシムルコトヲ得

本章第七十四條第一項ノ副唧筒ニ自働整速器ヲ備フルトキハ獨立正給水唧筒ヲ一箇

ニ減スルモ妨ナシ

第七十一條 唧筒ハ削仕上ノ後最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

第七十二條 近海航路以上ノ船舶及上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ニ在

リテハ循環唧筒ニ滄水吸水装置ヲ設ケ其ノ瓣ハ機關室床板上ニ於テ開閉シ得ヘキ構

造ト爲シ吸水管端ニハ不還瓣ヲ備フヘシ

第七十三條 近海航路以上ノ船舶及上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ニ在

リテハ機關室ヨリ各艙及水密構造ノ車軸隧道ニ正滄水唧筒ノ吸水管ヲ通シ其ノ滄水ヲ排除シ得ヘキ裝置ヲ爲シ尙副唧筒ノ吸水管ヲシテ之ニ連續セシムヘシ但シ上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ木船ニ限り各艙ニ通スルノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條 機關室ニハ正給水唧筒ノ外給水用蒸氣唧筒一箇ヲ備フヘシ

上甲板下ノ噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ前項ノ副唧筒ニ冷汽器及甲板上ニ送水シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ本章第七十五條ノ蒸氣唧筒ヲ備フルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ蒸氣唧筒ニ屬スル給水管及制限瓣ハ獨立ニ之ヲ備フヘシ

第七十五條 二重底又ハ水艙ヲ有スル近海航路以上ノ船舶ニ在リテハ其ノ排水ニ適スル蒸氣唧筒ヲ機關室ニ備フヘシ

前項ノ唧筒ハ各區畫室ヨリ滄水ヲ取り之ヲ船外ニ排出シ且海水ヲ冷汽器及甲板上ニ送り得ヘキ樣裝置スヘシ但シ獨立ノ循環唧筒二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連結スル裝置アルトキハ冷汽器ニ送水スル裝置ヲ省略スルコトヲ得

第七十六條 近海航路以上ノ船舶及上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ノ給

水唧筒ニハ適當ナル發條逃出瓣ヲ備フヘシ但シ曲拐ヲ有セサル獨立直働ノ給水唧筒ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 減壓瓣ヲ以テ減少シタル汽壓ヲ使用スル汽機ニ在リテハ減壓瓣ノ次ニ相當ノ大サヲ有スル逃出瓣ヲ備フヘシ

第七十八條 汽罐ニハ徑二吋ヨリ小ナラサル安全瓣二箇以上ヲ備ヘ其ノ面積ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$A = \frac{H \times K}{P + 15}$$

A ハ安全瓣ノ全面積(平方吋ニテ)

H ハ汽罐ノ受熱面積(平方呎ニテ)

P ハ最大汽壓(每平方吋封度ニテ)

K	石炭ヲ燃料トスルモノ又ハ石炭ト油トヲ混燒スルモノ	一・二五
ハ	油ヲ燃料トスルモノ又ハ汽罐室密閉式強壓通風ヲ使用スルモノ	一・五〇

排汽管ノ面積(平方吋ニテ)ハ受熱面積(平方呎ニテ)ノ〇・〇〇一倍以上ナルコトヲ要

ス但シ前項ニ依リ得タル安全瓣ノ全面積ノ一・一倍未滿ナルコトヲ得ス
安全瓣匣ハ其ノ他ノ瓣匣ト共通ト爲スコトヲ得ス

第一項ノ安全瓣ハ火床ノ面積十四平方呎ヲ超エサル汽罐ニ在リテハ一箇ト爲スコト
ヲ得又火床ノ面積六平方呎ヲ超エサル汽罐ニ在リテハ其ノ徑ヲ二吋以下ト爲スモ妨
ナシ

第七十九條 安全瓣發條ハ最大汽壓ニ對シ其ノ受クヘキ壓縮力ヲ加フルモ全長ノ縮少
瓣徑ノ四分ノ一以上タルヘキモノニシテ尙之ヲ瓣徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復
スルモノナルコトヲ要ス

第八十條 安全瓣ニハ機關室ヨリ容易ニ開閉シ得ル揚瓣裝置ヲ設ケ且瓣ノ昇降距離ハ
瓣徑ノ四分ノ一ヨリ少カルヘカラス
安全瓣ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フヘシ

第八十一條 蒸氣過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル場合ニ於テハ蒸氣過熱器ニ適當
ナル安全瓣ヲ備フヘシ

前項ヲ安全瓣ニハ汽罐室ヨリ容易ニ開閉シ得ヘキ揚瓣裝置ヲ設クヘシ
第八十二條 華氏四百二十五度以上ノ蒸氣ニ使用スル瓣筐等ハ鑄鋼其ノ他適當ナル材

料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第八十三條 汽罐各部ニ屬スル汽管及水管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ瓣又ハ嘴子
ヲ備フヘシ

第八十四條 汽罐ニハ其ノ見易キ箇所ニ燃燒室頂部ノ標示ヲ爲スヘシ

汽罐ニハ硝子驗水器又ハ之レト同等ナルモノ一箇、驗水嘴子一組及汽壓計一個ヲ備
ヘ又兩口汽罐ニハ之ヲ兩面ニ備フヘシ

徑十六呎ヲ超ユル筒形汽罐ニハ兩側ニ硝子驗水器ヲ設クヘシ

驗水嘴子ハ三箇ヲ以テ一組トス但シ徑七呎六吋以下ノ筒形汽罐及徑七呎未滿ノ直立
汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

第八十五條 汽罐ニ驗水器ノ管柱ヲ備フル場合ニ在リテハ成ルヘク罐體ニ直接之ヲ取
附ケ其ノ内徑ハ成ルヘク左表ニ依ルヘシ

汽	罐	ノ	徑	管	柱	ノ	内	徑	
十	呎	ヲ	超	ユ	ル	ト	キ	二	吋
七	呎	半	ヲ	超	エ	十	呎	以	下
								ナ	ル
								ト	キ
								二	吋

七 呎 半 以 下 ナ ル ト キ 一 吋 四 分 ノ 三

前項ノ管柱ト汽罐トヲ管ニ依リ連結スルトキハ銅製又ハ其ノ他ノ腐蝕セサル金屬製ノモノヲ用キ其ノ内徑ハ成ルヘク左表ニ依ルヘシ

管 柱 ノ 内 徑	管 ノ 内 徑
二 吋 半 以 上 ナ ル ト キ	一 吋
二 吋 以 上 二 吋 半 未 滿 ナ ル ト キ	一 吋 四 分 ノ 一
一 吋 四 分 ノ 三 以 上 二 吋 未 滿 ナ ル ト キ	一 吋

第八十六條 放水瓣又ハ放水嘴子ハ罐體ニ取附クルモノノ外船體外板ニモ亦之ヲ取附クヘシ

第八十七條 銅船ニ於テ外板ニ取附クヘキ放水嘴子ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ外面ニハ黃銅製又ハ青銅製ノ環ヲ取附クヘシ又放水嘴子ハ之ヲ閉鎖スルニ非サレハ其ノ開閉把手ヲ取放チ得サル様装置スヘシ

第八十八條 海水嘴子ハ汽罐室及汽機室ノ床板以上ニ於テ外板ニ取附クルカ又ハ「キングストーン」瓣ニ取附ケ之ヲ床板以上ニ達セシムヘシ

第八十九條 銅船ノ滿載吃水線ノ下部及其ノ附近ニ於テ瓣及嘴子ヲ外板ニ取附クル螺釘ハ外板ニ嵌込ムカ又ハ埋頭ト爲スヘシ

第九十條 滿載吃水線ノ下部及其ノ附近ノ孔ニ通スル諸管ハ容易ニ開閉シ得ヘキ瓣又ハ嘴子ヲ以テ外板ニ取附クヘシ但シ上甲板下ノ噸數五百噸未滿ノ沿海航路以下ノ船舶ニ在リテハ滿載吃水線以上ノ孔ニ通スル諸管ニ限リ検査官吏ノ見込ニ依リ瓣又ハ嘴子ヲ省略スルコトヲ得

第九十一條 排水瓣ハ成ルヘク滿載吃水線以上ニ備フヘシ

第九十二條 汽管ニハ充分ナル排水ノ装置ヲ爲スヘシ
汽管ハ伸縮ノ爲變形ヲ生セサル様装置スヘシ

第九十三條 内部ヨリ壓力ヲ受クル管ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ過熱蒸氣用管ニシテ小徑ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一 銅 管

$$P = \frac{(t-3)}{D} \times 11$$

二 鋼管又ハ鐵管

イ 汽管ニ使用スル常溫引拔管ナルトキ

$$P = \frac{(t-10)}{D} \times 120$$

ロ 汽管ニ使用スル加熱引拔管ナルトキ

$$P = \frac{(t-12)}{D} \times 120$$

ハ 汽管ニ使用スル鍛合管ナルトキ

$$P = \frac{(t-12)}{D} \times 90$$

ニ 給水管ナルトキ

$$P = \frac{(t-8)}{D} \times 100$$

P ハ最大壓力(每平方吋封度ニテ)

D ハ管ノ内徑(吋ニテ)

t ハ管ノ厚(吋ノ百分ノ一ニテ)

F	汽管ニ使用スル引拔管ナルトキ	六〇
ハ	汽管ニ使用スル蠟付管ナルトキ	四五
	給水管ニ使用スル引拔管ナルトキ	四八
	給水管ニ使用スル蠟付管ナルトキ	三六

第九十四條 電氣分解法ニ依リ製作シタル銅管ハ汽管、給水管又ハ放水管ニ使用スル

コトヲ得ス

銅管ハ過熱蒸氣用管ニ使用スルコトヲ得ス

第九十五條 鐵製又ハ鋼製ノ汽管ハ工事ノ爲熱シタルトキハ之ヲ燒鈍スヘシ

給水管ニ銅管ヲ使用スルトキハ常溫引拔管ト爲スヘシ

第九十六條 正汽管及給水管ハ鏝ヲ取附ケ仕上ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ

執行スヘシ

一 銅製汽管ニ在リテハ最大汽壓ノ二倍

二 銅製給水管ニ在リテハ最大汽壓ノ二倍半

三 鐵製又ハ鋼製ノ汽管ニ在リテハ最大汽壓ノ三倍

四 鐵製又ハ鋼製ノ給水管ニ在リテハ最大汽壓ノ四倍

汽罐、正汽管及給水管ニ附屬スル瓣匣、膨脹接合及鑄造接合管ハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第九十七條 鐵管又ハ鋼管ノ累接部ハ鎔接ヲ爲スコトヲ得ス

第九十八條 銅管ヲ彎曲スル場合ニ在リテハ彎曲部ニ於ケル厚ノ減少ヲ補フ爲本章第九十三條ノ算式ニ依リ定メタル厚ヲ適當ニ增加スヘシ又管ノ中心線ヨリ測リタル彎曲ノ半徑ハ管ノ外徑ノ二倍ヨリ小ナルコトヲ得ス

第六章 燃油裝置

第九十九條 燃油裝置ヲ備フル汽罐ニハ適當ナル包被ヲ施スヘシ

第一百條 油ノミヲ燃料トスル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路内ニ塞板ヲ設クルコトヲ得ス

第一百一條 燃油裝置ヲ備フル汽罐ニハ燃油器、送油唧筒、加熱器及瀘過器等ヨリノ漏油ニ對シ適當ナル油受ヲ設クヘシ

第一百二條 送油唧筒ハ給水唧筒、滄水唧筒又ハ水艙唧筒及其ノ接續管ニ連絡セシムル

コトヲ得ス

送油唧筒、瀘過器及加熱器ハ二組以上ヲ備フヘシ

前項ノ唧筒ニハ完全ナル逃出口ヲ備ヘ之ヨリ逃出シタル油ハ吸油側ニ流入スル様裝置スヘシ

第一百三條 送油管ニハ無接合鋼管ヲ使用スヘシ

加熱シタル燃油ノ送油管ハ機室内ノ床板上見易キ場所ニ之ヲ設クヘシ

送油管ノ鏢ハ機械仕上ヲ爲シ成ルヘク其ノ接合ハ直接ノ接觸ト爲シ接合材ヲ用ウル

場合ニ於テハ出來得ル限リ薄キモノヲ使用シ華氏二百五十度ニ加熱シタル油ノ浸徹

セサルモノナルコトヲ要ス

第一百四條 送油唧筒及消火裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於ケル失火ノ際接近シ得ヘキ場所

竝其ノ所在區畫室ヨリ之ヲ操縱シ得ヘキ様裝置スヘシ

第一百五條 油艙、油槽又ハ加熱器ニ於テ蒸氣ヲ用キ燃油ヲ加熱スルモノニ在リテハ

其ノ凝汽中ニ油ノ有無ヲ檢查シ得ル爲檢水槽ニ之ヲ導クヘシ

燃油油ト接觸スル加熱用蒸氣管ハ鐵製又ハ鋼製ト爲スヘシ

第六六條 燃油裝置ハ左ノ壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

一 送油管、加熱器及其ノ附屬具ハ船内取付後最大壓力ノ二倍但シ每平方吋四百封度ヲ下ルコトヲ得ス

二 前號以外ノ油管ニシテ機關室内ニ在ルモノハ之ヲ取附ケタル後每平方吋三十封度

三 燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管ハ船内取附後最大壓力ノ二倍

第七章 發動機

第七七條 純馬力六十ヲ超ユル發動機ニシテ「クラッチ」ヲ用キ反轉スルモノニ在リテハ適當ナル整速裝置ヲ設クヘシ

第七八條 「ヂーゼル」式發動機ノ氣筒ニハ適當ナル逃出口ヲ備フヘシ

第七九條 「ヂーゼル」式發動機ノ氣筒及氣筒蓋ハ削仕上ノ後最大壓力ノ二倍、水包室ハ每平方吋五十封度ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

第八十條 氣筒内ノ最大壓力每平方吋五百封度ヲ超エサル「ヂーゼル」式發動機ノ鋼製

軸ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ

一 曲拐軸

$$S = \sqrt[3]{D^2 \times (AC + BL)}$$

S ハ曲拐軸ノ徑吋ニテ

D ハ氣筒ノ徑(吋ニテ)

C ハ行長(吋ニテ)

L ハ曲拐ノ兩側ニ於ケル軸受内側間ノ距離(吋ニテ)

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒ノ數		A	B
四「サイクル」單働發動機	二「サイクル」單働發動機		
四又ハ六	二又ハ三	〇・〇八九	〇・〇五六
八	四	〇・〇九九	〇・〇五四
一〇又ハ一二	五又ハ六	〇・一一一	〇・〇五二
一六	八	〇・一三一	〇・〇五〇

二 中間軸